環境省 平成27年度　ESD環境教育プログラム実証等事業

地域版ESD環境教育プログラム
ガイドブック

環境省

もくじ

はじめに…… 2
本書をお読みいただくにあたって…… 3

【北海道ブロック】…… 7
北海道ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 8
（北海道）再生可能エネルギーから考える私の『エコライフ宣言』… 9
（北海道）海辺・水辺から見える私たちの未来 …… 10

【東北ブロック】…… 11
東北ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 12
（青森）今こそ再認識　我が町の「め～水」！ …… 13
（岩手）わくわくタイムマシーン
～温故知新の旅に出発だー！～ …… 14
（宮城）地球に生きる私たちと動物 …… 15
（秋田）大地の声を聞こう！
～八峰白神ジオパークの宝～ …… 16
（山形）わが家のエコライフ大作戦！ …… 17
（福島）自然エネルギーって何だろう？
～身近なエネルギーと私たちの生活～ …… 18

【関東ブロック】…… 19
関東ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 20
（茨城）食べ残しゼロ大作戦！ …… 21
（栃木）どんぐりから苗木一本運動 inさくら市 …… 22
（群馬）川の中から「見つける・観つめる・見直す」地域の自然
～ヤマメが暮らす川づくり …… 23
（埼玉）もっといきいきビオトープ
～生態系豊かなビオトープにしよう！～ …… 24
（千葉）環境とわたしたちのつながり
～環境人（エコんちゅ）になろう！～ …… 25
（東京）海の贈り物　わたしたちの海を汚すもの …… 26
（神奈川）混ぜればごみ、分ければ資源 …… 27
（新潟）地域魅力化プロジェクト
～地域の新価値を創造しよう～ …… 28
（山梨）森と水との関係 …… 29
（静岡）解決！放置竹林問題
～知って！使って！竹で広がる可能性～ …… 30

【中部ブロック】…… 31
中部ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 32
（富山）つながる　広がる　私と世界 …… 33
（石川）平栗を調べよう
～十一屋校区「平栗」の未来はどうなっていくのか～ … 34
（福井）発信！附中グリーンプロジェクト …… 35
（長野）子どもと教師が共に在る …… 36
（岐阜）環境 …… 37
（愛知）メダカがいっぱいの板山を取り戻そう …… 38
（三重）リサイクルのジレンマ
～リサイクルは持続可能な社会を実現するのに必要か～ … 39

【近畿ブロック】…… 41
近畿ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 42
（滋賀）エコでつなぐ私の夢
～体操服からウエディングドレスへ～ …… 43
（京都）ふるさとの川　山科川をみつめて …… 44
（大阪）淀川から繋がる魚庭（なにわ）の海を考える … 45
（兵庫）逆瀬川たんけん
～逆瀬川のふしぎ発見！～ …… 46
（奈良）奈良の人とシカの共生を考える …… 47
（和歌山）私たちの切目川 …… 48

【中国ブロック】…… 49
中国ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 50
（鳥取）しこべ冬の暮らし体験キャンプ …… 51
（島根）ようせいの守人プロジェクト …… 52
（岡山）ふるさと学習プロジェクト「新庄の水」…… 53
（広島）くらしと環境 自然を守れ！入野っ子！ …… 54
（山口）これからのまちとくらしをつくる子どもワークショップ … 55

【四国ブロック】…… 57
四国ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 58
（高知）未来の種 …… 59
（香川）自分の身近な自然とのつながり …… 60
（愛媛）ちがう国でも同じこと …… 61
（徳島）アフリカの現状から学び、地球規模の視野を育もう … 62

【九州ブロック】…… 63
九州ブロック～持続可能な地域づくりの“肝”～ …… 64
（福岡）白川の緑を守ろう！ …… 65
（佐賀）佐嘉吉野ヶ里に学ぶ未来の暮らし
～太陽エネルギーのパワーを感じよう～ …… 66
（長崎）ニホンウナギから対馬を考えよう！ …… 67
（熊本）森林の役割と地下水・私たちの暮らしとのつながりについて考えよう … 68
（大分）「まち」の中で使われている「木」について考えよう！ … 69
（宮崎）美しい地球を守れ
～ごみ減量大作戦～ …… 70
（鹿児島）学校周辺の自然と「生き物」と「私たちの生活」のつながり … 71
（沖縄）世界の水と伊良部の水 …… 72

解説【1】子どもの学びと、地域のつながり …… 5
解説【2】持続可能な社会づくりの構成概念
（ESDの要素）（例） …… 6
解説【3】ESDの視点に立った学習指導で
重視する能力・態度（例） …… 40
解説【4】学校における環境教育と
ESDへの取り組み …… 56
解説【5】ひとめでわかる学年別・教科別ガイド … 77

はじめに

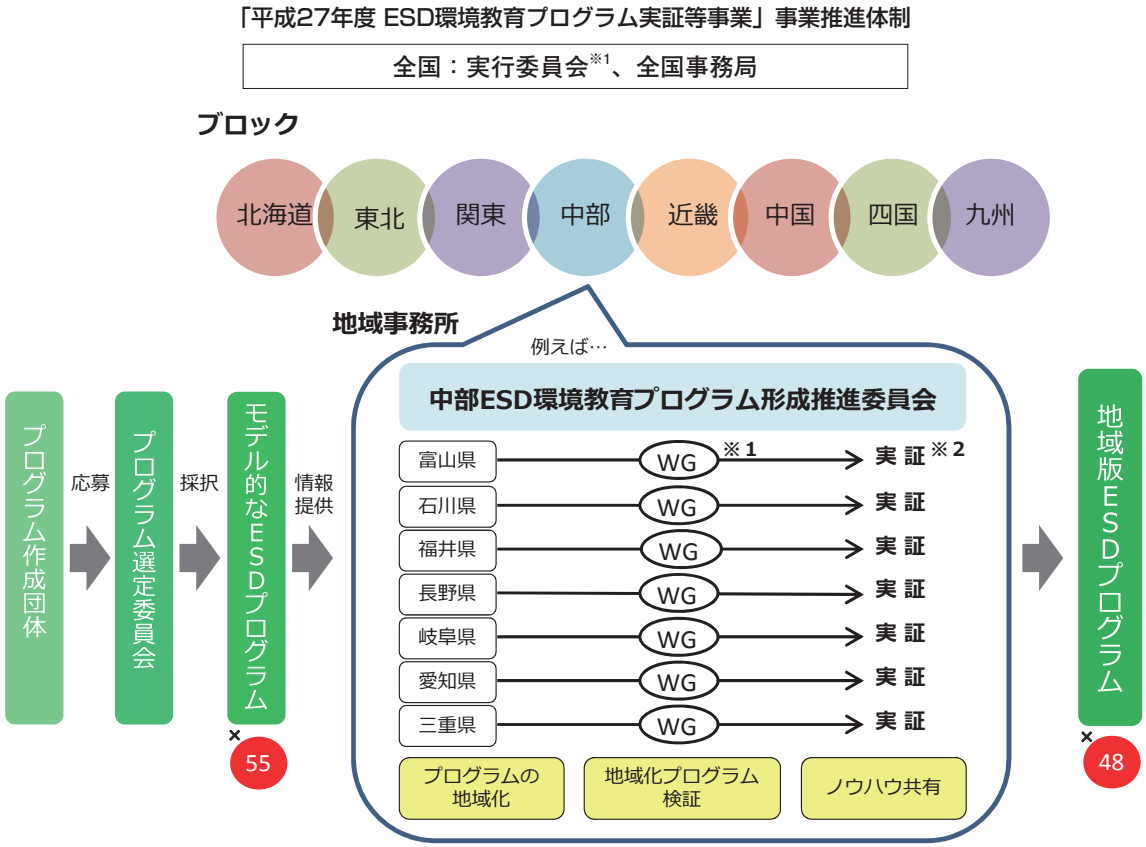
私たちの暮らす地域社会では、自然環境の荒廃・地域活力の低下・少子高齢化・貧困・格差の拡大など様々な問題が起きています。このような問題の解決には、自ら課題を見つけ、学び、考え、客観的に判断し、他者と協力しながら課題解決に向けて行動する力が必要となります。ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）は、そういった力を身につけるための学びです。

日本が提案した「国連持続可能な開発のための教育の10年（国連ESDの10年）」は2005年からスタートし、最終年であった2014年、日本で「持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議」が開催され、後継プログラムである「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム」（GAP）が採択されました。今後、GAPに基づき日本各地でのESD活動をより一層展開し、定着させていくことが望まれています。

環境省では、文部科学省の協力の下、「平成27年度ESD環境教育プログラム実証等事業」の一環として、ESDの視点を取り入れた環境教育プログラム（以下、「モデル的なESDプログラム」）を作成し、全国47都道府県において、各地域の自然環境や歴史・文化などの特性を活かした地域版ESDプログラムへと改良しながら、学校現場等での実証事業を行いました。

本冊子は地域版ESD環境教育プログラムの概要をまとめたものであり、各プログラムの詳細をWEBに掲載しております。
こちらからご覧ください。https://edu.env.go.jp/

お読みくださったみなさまが、ESDに取り組むことに興味をお持ちになり、なにかを始めるきっかけとなれば、幸いです。



※1 実行委員会メンバー：石田好広、岡本弥彦、小川雅由、小澤紀美子、棚橋乾（五十音順、敬称略）

※2 本事業では、様々な主体が関わって、モデル的なESDプログラムの地域化・地域版ESDプログラム実証授業の検証などを行う円卓会議の場として、各都道府県にワーキンググループ（WG）を設置します。学校の先生はもちろん、多様な主体を巻き込むことで、地域の人々が自らの地域の課題について考え、未来を描いていく場となることが期待されます。

※3 各都道府県にて、学校等での地域版ESDプログラムの一部について実証授業が実施されました。

本書をお読みいただくにあたって

本書の構成

本ガイドブックは、

1. 地域ネットワークのページ
2. プログラムのページ

の2種類のページによって構成されています。

1. 地域ネットワークのページ

このページでは、全国8ブロックごとに、多様な主体がつながるネットワークの基盤がどのようにつくられたのか、またどのような方が関わっているのかを紹介しています。

①該当ブロック名

- 北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州のうち、該当するブロックを記載しています。

②ブロックの概要について

- ブロックに所属する各都道府県事務局、ワーキンググループの特徴などを記載しています。

③地域におけるESD推進体制づくりに関係する写真、イラスト、図表

④ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

- 地域において、どのように多様な主体が関わるネットワークの基盤が構築されてきたのか、紹介しています。

⑤関係者

- ブロック実行委員会、ワーキンググループ等ESD推進に関わる方々について紹介しています。(所属は2016年3月末日現在)

⑥問い合わせ先

- 該当ブロック事業に関する問い合わせ先を記載しています。

2. プログラムのページ

このページでは、全国8ブロック47都道府県で作成された、地域版ESDプログラムの内容を紹介しています。
学習指導要領との関連など、詳細をWEBに掲載しております。

①該当地域名

●地域版ESDプログラムを作成・実践した地域です。

②プログラム名

●地域版ESDプログラムのタイトルです。

③対象

●プログラムの対象学年です。

④地域版ESDプログラム化メンバー

●地域版ESDプログラム作成に関わった方々（所属は2016年3月末日現在）及び実証授業に協力頂いた学校等です。

⑤持続可能な社会づくりの構成概念（ESDの要素）

●このプログラムを通して考える持続可能な社会に必要な概念をアイコンで記載しています。

多様性	社会は多様な事物から成り立っていること
相互性	社会は物や人が関わりあって成り立っていること
有限性	社会を成り立たせている資源やエネルギーには限りがあること
公平性	持続可能な社会は権利の保障や恩恵の享受が公平であること
連携性	持続可能な社会は、多様な主体が状況に応じて互いに協力することで構築されること
責任性	持続可能な社会は、一人一人が責任と義務を自覚し、行動することで構築されること

⑥ＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

●このプログラムに取組むことで、身につく能力や態度をアイコンで記載しています。

【批判】	批判的に考える力
【未来】	未来像を予測して計画を立てる力
【多面】	多面的、総合的に考える力
【伝達】	コミュニケーションを行う力
【協力】	他者と協力する態度
【関連】	つながりを尊重する態度
【参加】	進んで参加する態度
【その他】	その他

⑦プログラムの概要

⑧プログラムの目標

⑨分野

●4つの分野「ともに生きる」「自然・生命」「ごみ・資源」「エネルギー・地球温暖化」の中の該当分野を示しています。

⑩参加者の声

●地域版ESDプログラムを体験した子どもたちや学校の先生からの一言です。

⑪プログラム展開の流れ（時数と単元名）

⑫基にしたモデルプログラム名（55プログラム）

●基にしたESD環境教育モデルプログラム。

解説【1】子どもの学びと、地域のつながり

小澤紀美子先生は、子ども一人ひとりの思考過程や価値観の違い、あるいは自己と環境との相互作用による変容の過程を重視し、「教育educate」の本質はもっている力を引き出すことであり、他者からの承認や自己肯定感を醸成し、「学ぶ意欲」を育むこと、環境教育の「教育」の意味は社会システムの変革の意味を包含している、という立場で「知の統合」という観点から実践・研究を進めていらっしゃいます。

小澤　紀美子（こざわ　きみこ）

㈱日立製作所システム開発研究所研究員、93年東京学芸大学・同大学院研究科教授を経て、現在は、東京学芸大学名誉教授、東海大学大学院客員教授、こども環境学会理事。工学博士、技術士（地方及び都市計画）。専門分野は環境教育学。
日本学術会議環境学委員会・環境思想・環境教育分科会委員長として「学校教育における環境教育の充実に向けて」（20期）、「高等教育における環境教育の充実に向けて」（21期）を提言した。国連持続可能な開発のための教育の10年円卓会議の議長を務め「ジャパンレポート」取りまとめに関わる。主な著書に、「環境保全と環境政策」（岩波書店）、「まちは子どものワンダーらんど －これからの環境学習」（風土社）、「まちワーク：地域と進める校庭＆まちづくり総合学習」（風土社）、「環境教育」（金子書房）、「地球社会の環境ビジョンーこれからの環境学ー」（日本学術協力財団（共著））、「住まい・まちづくりの資質・能力を育てる」（季報 住宅金融（2014年春号））、「持続可能な社会を創る環境教育論ー次世代リーダー育成に向けて」（東海大学出版部）など多数。

ESDプログラム事業において、実行委員長を務めていただいている、小澤紀美子先生に、今回は「子どもの学びと、地域のつながり」について、お話を伺いました。

― 暮らしの中で培ってきたこと

日本には多様な自然があり、自然から生み出された文化が積み重なって私たちの生活が組み立てられています。普段から暮らしの中で、子ども達は地域の自然、文化、伝統を五感で感じ、しなやかに、多様な視点で地域を捉えています。暮らしの中での「気づき」は、自分たちの暮らす地域がどうあってほしいのか、どのような地域にしていきたいのか、少しずつ考える力に発展していきます。その力こそ､ESDで育む「持続可能な社会を担う人」の大切な要素なのです。

― 地域社会も大切な「学びの場」

地域は「屋根のない学校」です。子ども達は地域の中で、ミニ社会システムを体験し、体験を重ねることで経験化していきます。これは、知識伝達型の教育だけではつなぐことのできないプロセスなのです。地域の課題は多様な側面を持っています。子ども達は学びの蓄積から、その多様な側面をとらえ、地域の課題を解決するためにはどう展開していけばいいのか、クリエイティブに考え、イマジネーションの力でアイディアを出していくことができます。地域の価値を感じ、考え方が異なる人達と出会うことが重要なのです。

― 物事の多面性と連携性をとらえる

学校で「生物多様性」を教える場合、地域の自然環境や、地域社会、気候等の多様な要素と結びついていないことがよくあります。あるトピックで切り取ってしまうと、子ども達はそれらを結び付けることができません。地域の課題の多面性や連携性をしっかり捉えるには、統合的な学びが重要なのです。そして、学びには驚きや感動が大切です。子ども達が「お？」という「問い」を持つことで次の学びに発展し、その学びの蓄積が「持続可能な社会を担う力」になっていくのです。

― 子どもだけではなく、大人も学ぶ

学校の先生も学び手の一人です。多くのことを経験している大人も、子ども達のアイディアから学ぶということがあります。世代をこえて、アイディアを共有するプロセスを学びのなかにいれていくことで、子どもも大人も多様な価値観に触れ、理想の地域ビジョンを共有することができます。このプロセスが地域社会を育て、地域社会が人を育てる「育ちあう関係」を築いていくのです。

― 学校と地域一円でとりくむESD

「科学知」と「生活知」を統合するステージにきています。地域の「生活知」がなぜ合理的なのか紐解いてみせることで、学校で学ぶ「科学知」と地域で学ぶ「生活知」が子どもの中で統合されるのです。これは、学校が地域に出ていかなければ出来ないことです。学校も地域のひとつであり、地域と共に学びあう関係性を構築していくことで、派生的な学びになるのです。ESDは正解を探すものではありません。自分たちの地域をどうしたいか、多様な価値観のなかで学びあい、地域のビジョン共有し、行動できる人を育てるのがESDであり、ESDは地域との関わりなしには成立しないのです。

解説【2】持続可能な社会づくりの構成概念（ESDの要素）（例）

子どもたち自身が課題を見出し解決を考えていくESDの視点に立った学習において、「持続可能な社会づくり」を捉える要素（構成概念）を明確にしておくことが重要です。この構成概念と学習内容との関連から、子どもたちにどんな課題を見出してもらうか考えていきます。ただし、構成概念はこれらに限定されるものではありません。

①多様性

＜学習内容の例＞
- 生物は、色、形、大きさなどに違いがあること
- それぞれの地域には、地形や気象などに特色があること
- 体に必要な栄養素には、色々な種類があること

・自然・文化・社会・経済は、それぞれの形成過程で様々な様相を見せ、多種多様な事物・現象が存在しています。そうした生態学的・文化的・社会的・経済的な多様性を尊重するとともに、自然・文化・社会・経済に関わる事物・現象を多面的に見たり考えたりすることが大切です。

②相互性

＜学習内容の例＞
- 生物は、その周辺の環境と関わって生きていること
- 電気は、光、音、熱などに変えることができること
- 食料の中には外国から輸入しているものがあること

・自然・文化・社会・経済は、それぞれが互いに働き掛け合うシステムであり、それらの中では物質やエネルギー等が移動・消費されたり循環したりしています。人は、そうしたシステムとのつながりをもち、さらにその中で人と人とが互いに関わりあっていることを認識することが大切です。

③有限性

＜学習内容の例＞
- 物が水に溶ける量には限度があること
- 土地は、火山の噴火や地震によって変化すること
- 物や金銭の計画的な使い方を考えること

・自然・文化・社会・経済を成り立たせている環境要因や資源（物質やエネルギー）は有限です。このような有限の物質やエネルギーを将来世代のために有効に使用していくことが求められます。また、有限の資源に支えられている社会の発展には限界があることを認識することも大切です。

④公平性

＜学習内容の例＞
- 健康を保持するような食事・運動・休養・睡眠などが保証されていること
- 自他の権利を大切にすること
- 差別をすることなく、公正・公平に努めること

・持続可能な社会の基盤は、一人一人の良好な生活や健康が、保証・維持・増進されることです。そのためには、人権や生命が尊重され、他者を犠牲にすることなく、権利の保障や恩恵の享受が公平であることが必要で、これらは地域や国を超え、世代を渡って保持されることが大切です。

⑤連携性

＜学習内容の例＞
- 地域の人々が協力して、災害の防止に努めていること
- 謙虚な心をもち、自分と異なる意見や立場を大切にすること
- 近隣の人々との関わりを考え、自分の生活を工夫すること

・持続可能な社会の構築・維持は、多様な主体の連携・協力がなくては実現しません。意見の異なる場合や利害の対立する場合などにおいても、その状況にしたがって順応したり、寛容な態度で調和を図ったりしながら、互いに協力して問題を解決していくことが大切です。

⑥責任性

＜学習内容の例＞
- 我が国が、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたこと
- 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと
- 家庭で自分の分担する仕事ができること

・持続可能な社会を構築するためには、一人一人がその責任と義務を自覚し、他人任せにするのではなく、自ら進んで行動することが必要です。そのためには、現状を合理的・客観的に把握した上で意思決定し、望ましい将来像に対する責任あるビジョンをもつことが大切です。

国立教育政策研究所　教育課程研究センター
「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」より

北海道ブロック

川があって、海があって、森がある。都市近郊にありながら、自然に恵まれた北海道石狩市。日本海から年間を通して強く吹く風は風力発電に利用され、独特の景観をつくり出しています。また、石狩川の河口一帯に広がる石狩浜は、様々な海浜植物がみられる全国でも貴重な自然海岸です。

北海道ブロック

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

北海道ブロックの概要

実践と情報共有でESD推進の機運を高める

石狩市では市内の小学校が国立教育政策研究所のESD研究指定校となり、ESD推進の機運が高まっています。本年度は、その石狩市で、教育委員会と市環境保全課、市民活動団体等の協働で、市内2校でプログラムを展開しつつ、推進方策を検討しました。

①推進委員会の様子
②石狩市ESD実践発表・意見交換研修会
③藤女子大学・教職課程ワークショップ

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

学校教育関係者とESD研修会等を協働実施

推進委員会では、学校教育においてESDの視点を活用していくために、教員が指導計画を作成する視点や、地域との連携、教員の支援策について意見交換を行いました。

ここで生まれたつながりを基盤として、石狩市内全小中学校の教員を対象とした研修会を市教育委員会・市と共催しました。また、複数の高等教育機関との協働で、教職課程の大学生を対象に、ESDの視点を取り入れたカリキュラムデザインに取り組むワークショップを実施しました。

本年度、実証を通して作成した2つの地域版プログラムは、北海道版プログラムとしてとりまとめ、北海道教育委員会および札幌市教育委員会の協力により、北海道内の全公立小学校に送付しました。

北海道版ESD環境教育プログラム３

地方事務局

公益財団法人北海道環境財団

ブロック推進委員メンバー

所属	氏名
藤女子大学人間生活学部人間生活学科 教授	伊井　義人
特定非営利活動法人ezorock 代表理事	草野　竹史
北海道教育大学教育学部札幌校 准教授	今　尚之
石狩市教育委員会生涯学習部 参事	濱本　賢一
石狩市環境市民部環境保全課 自然保護担当課長　兼 石狩浜海浜植物保護センター長	本間　博人
ソーシャルベンチャーあんじょう家本舗 代表	松田　剛史

ワーキンググループ

団体名
石狩市立厚田小学校
石狩市立双葉小学校
ソーシャルベンチャーあんじょう家本舗

問い合わせ先

環境省北海道環境パートナーシップオフィス（EPO北海道）
〒060–0042　札幌市中央区大通西5丁目11　大五ビル7階
電話番号 011–596–0921　FAX　011-596-0931
メールアドレス epoh-webadmin@epohok.jp

北海道

「再生可能エネルギーから考える私の『エコライフ宣言』」

地域プログラム化メンバー：石狩市立厚田小学校、ソーシャルベンチャーあんじょう家本舗
実証協力校等：石狩市立厚田小学校

ESDの要素：有限性／連携性／責任性

能力／態度：批判／未来／関連

プログラムの概要

最初に身近なテーマで「根拠を持って選択・判断する力」を養う活動を行う。次に自分たちが住むまちにある風力発電所や太陽光発電など再生可能エネルギーの施設について、なぜそこにあるのか予想を立て、その後、現地の見学や専門家のお話をとおして、自分の意見を深めたり、方向転換したりする活動を展開する。

調査や体験をとおして学んだことを元に、わたしたちの暮らし方の未来プランを「エコライフ宣言」としてまとめ、発信する。最後に「エコライフ宣言」が本当に自分事になっているかということや、「根拠を持って選択・判断する力」と持続可能な地域づくりへの参加にどのようなかかわりがあるかについて、ふりかえる活動を行なう。

プログラムの目標

①再生可能エネルギーを素材として、自然や社会環境、日常の生活、社会の出来事などを広い視野で見つめて適切に関係性を見出だす。（関連）

②これまでに得た知見や経験を活かし、自らの考えや行動などを根拠を持って説明する。（批判）

③遠い世界のことや未来を実生活や自己とのつながりをとおして捉え、世代間の公平と責任について深く考える意識や態度を養う。（未来）

1

2

3

①風力発電の仕組みを学びます
②自分の考えを根拠をもって話し、クラスメイトの考えを聞きます
③身近な地域にできた風力発電所を見学

プログラムの流れ

1時間目
自分の意見の理由を確かめよう！
2～4時間目
私のまち・私の家を探ろう！
5～7時間目
私のまちと家をつなぐものにふれてみよう！
8～10時間目
「こうしたい！私たちの暮らし方」を見つけよう！
11・12時間目
これまでの学習活動をふりかえろう！

参加者の声

（児童）
・厚田の風車でできる電気量とその電気を他の地域でも使っているのか気になった。
・厚田でたくさんの人が植林しているのは、酸素を出す、温暖化を防ぐ、魚がすみやすくなるというふうに環境をよくする意味もあるだろうと考えました。

（教員）
・地域に新たにできた風力発電所についての学習から始め、児童の疑問などをもとに展開したところ、地域の基幹産業である漁業につながった。風車見学などを重ねた児童がともに考え合い、産業と環境が結びついているという認識に至ることもできた。そうした体験や今後の学びをつなげて、エネルギーの大切さを知り、発電方法の選択・判断ができる大人になってほしいと願っている。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：グリーンエネルギーの素さがし！（一般社団法人サステナビリティ・エンパワメント）

北海道

海辺・水辺から見える私たちの未来

地域プログラム化メンバー：石狩市立双葉小学校、ソーシャルベンチャーあんじょう家本舗
実証協力校等：石狩市立双葉小学校

ESDの要素　多様性　相互性　責任性

能力／態度　批判　多面　参加

プログラムの概要

身近な地域の海辺・水辺を取り上げ、連想できる事象をできるだけたくさん挙げて、多様なつながりと、その中に自分がいるということを認識する。実際に海辺・水辺に出かけ、自然のありのままの姿と今かかえる問題点から、これから調べるテーマを見出す。

次に事前に社会的な常識や効果的な調査の仕方を学び、実際の調査活動を経て、自己と地域のつながりを見据えながら、身近な海辺・水辺から見えてきたことをまとめていく。

最後に各自のまとめを共有しつつ、この時間だけではなく継続的・日常的に、自分が地域の一員として何ができるのかについて考えることが大事であると気づくように学習活動を展開する。

プログラムの目標

①身近な海辺・水辺と自分とのかかわりを多様な側面から見つめ、相互に調べたり考えを深めたり、まとめたりする。（多面）
②体験や調べ活動により習得した知識や技能を適切に活用して現代的課題の実態を捉えようとする。（批判）
③自ら課題の解決に臨む姿勢や意識を醸成し、地域の一員としての自己のあり方について考える。（参加）

①

②

③

①はまなすの丘公園を歩き、地形の変化や植生の豊かさを体感します
②ルーブリックを用いてふりかえりを行います
③地域の方の解説を受けながら、石狩浜について学びます

プログラムの流れ

1時間目
地域の海辺・水辺とのつながりを知ろう！
2・3時間目
地域の海辺・水辺にふれよう！
4時間目
地域の海辺・水辺を調べる準備をしよう！
5〜7時間目
地域の海辺・水辺を調べよう！
8〜10時間目
地域の海辺・水辺から見えてきたことをまとめよう！
11・12時間目
地域の一員としての自分をみつけよう！

参加者の声

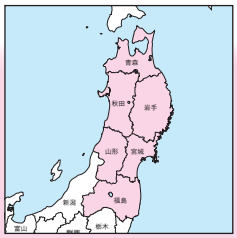
（児童）
・身近な海浜に、絶滅しそうな鳥や魚がたくさんいることがわかった。13人にインタビューをしたけれど、だれもこのことを知らないので驚いた。
・インタビューで大人に話しかけるのは緊張したが、たくさんの人にアンケートに協力してもらえてうれしかった。もっとたくさんの人に浜の自然のことを知ってほしい。

（教員）
・身近な自然に目を向けることで、環境問題は他人事ではなく、自分事だという意識が育ってきたように感じた。今回の活動では学び方、人とのかかわり方、生き方などいろいろな面で「考える力」が育ってきており、とても有意義な学習だったと考えている。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：環境ウォッチングで提案づくり（公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団））

東北ブロック

東北ブロック各県は、気候が厳しい地域が多いせいか伝統的に地域の結びつきが強いところが多いです。地域での生活の中には、伝えていくべき伝統や学ぶべき知恵がたくさんあり、それがまさにESDにつながります。



東北ブロック

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

東北ブロックの概要

地域でともに学ぶESD

東北ブロックのESD環境教育プログラムは、豊かな自然を題材に地域の子どもたちとともに地域に暮らす多くの人々が関わってともに学び、持続可能な未来を考えていくプログラムが多いのが特徴です。

①大盛況のプログラム成果発表会
②青森・第2回策定委員会
③推進委員会の様子

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

地域のネットワークを生かす！

東北ブロックでは3年目となる今年度も各県で日ごろから環境教育を行っているNPO等をパートナー団体に指定し、パートナー団体と深く連携して各県策定委員会を組織しプログラムの作成・実証を行いました。ブロック全体の方向性を定める推進委員会は、環境教育のプロである有識者と小学校の先生、そして各県策定委員会の代表者で組織し、有効な手段を話し合い情報共有して進めました。この3年間の活動を通じて、地域で生きた環境教育を推進するには、やはり継続が大事であり、地域にネットワークを持ち地域をよく知るコーディネーター的存在と教育現場とをいかにうまく結び付けていけるかが重要であると再認識しました。

地方事務局

公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）

推進委員会メンバー

所属	役職	氏名
東北工業大学工学部環境エネルギー学科	准教授	近藤祐一郎
仙台市立七郷小学校	教諭	亀崎　英治
特定非営利活動法人かなぎ元気倶楽部	常務理事	斎藤真紀子
特定非営利活動法人未来図書館	主任コーディネーター	恒川かおり
特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク	代表理事	伊勢みゆき
一般社団法人あきた地球環境会議	理事・事務局長	福岡真理子
特定非営利活動法人環境ネットやまがた	事務局長	大場　健一
特定非営利活動法人いわき環境研究室	理事長	橋本　孝一

上記団体が各県のパートナー団体兼実証団体となり、県ごとに策定委員会を組織してプログラムを作成、実証した。

問い合わせ先

東北環境パートナーシップオフィス（EPO東北）
〒980-0014　宮城県仙台市青葉区本町3-2-23　仙台第2合同庁舎1F
TEL　022-290-7179　　FAX　022-290-7181
E-Mail　info@epo-tohoku.jp

青森県

今こそ再認識　我が町の「め～水」！

地域プログラム化メンバー：元五所川原市役所職員（教育委員会）、株式会社マインドシェア、金木商工会、青森県商工会連合会、特定非営利活動法人かなぎ元気倶楽部
実証協力校等：五所川原市立金木中学校

ESDの要素　多様性　相互性　有限性

能力／態度　伝達　協力　関連

プログラムの概要

生命の源である「水」に関する知識と、見学や体験を通して自分達の住んでいる町の水資源や利活用の仕組みを学ぶ。また、多様な生物を育む自然環境と生き物とのつながりを知ることで、命と生活に欠かせない「水」が人間社会や生物にどのような影響を与えているかを考える。これらの学びを通して自然環境と水資源に関する課題を発見し、それを解決するための意欲や自分たちが実践できる方法と行動力を身につける。

プログラムの目標

水に関する総合的な学びを通して地域の自然環境と人間社会や生態系について関心を高める。

①水力発電跡でお話しを聞く
②金木町での水源地トレイル
③金木中学校で水の飲み比べ

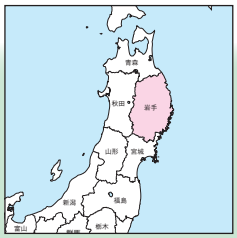
プログラムの流れ

1時間目
地域で使用される「飲料水」について学ぼう！
2～4時間目
水と生物とのつながりについて学ぼう！
5時間目
地域と水害による被害などについて学ぼう！
6時間目
水力エネルギーについて学ぼう！
7時間目
水の大切さや役割について意見交換と感想のまとめ

参加者の声

・金木の水が美味しいと言われる理由がわかって、誇らしくなった。
・県によって水の味に違いがあることを知ったけれど、検査をしているので体には害がないことを知った。
・草木（自然界）と私達の飲料水と深い繋がりがあるのだと知った。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：身近な自然と「水」と「生き物」のつながり（特定非営利活動法人くすの木自然館）



岩手県

わくわくタイムマシーン

～温故知新の旅に出発だー！～

地域プログラム化メンバー：一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校、釜石市立双葉小学校、岩手県環境生活部環境生活企画室、岩手町立沼宮内小学校、岩手県立大学、特定非営利活動法人未来図書館
実証協力校等：滝沢市立滝沢第二小学校、盛岡市立都南東小学校、岩手町立沼宮内小学校

ESDの要素：相互性　連携性　責任性

能力／態度：協力　関連　参加

プログラムの概要

地域には、子ども達や保護者、先生方が経験していない時代を経験した人、歴史や文化に詳しい人などが大勢いる。そうした方々に子ども達の学びの応援団として学校と気持ちよくつながっていただくには、お互いを尊重しあう姿勢が重要だろう。

このプログラムでは、昔の暮らしの様子を地域の方々から伺い、ものや人を大切にすることの尊さや昔の人の知恵や工夫を感じ、グループの仲間と協力しあう楽しさと大切さを体験する。

自分が毎日を気持ちよく暮らしていくために、ものや人、自分の周りについて考えていく。

子ども達ひとりひとりが環境を考える上で、広い視野と思いやりの心を育むきっかけとなることを目指す。

プログラムの目標

①昔の道具や写真、お話を通じて今と昔の生活の違いや昔の人々の知恵や工夫に気づく。
②これまでの社会を支えてきた方々との交流を通し、尊重する気持ちを養う。
③昔のくらしのお話をしてくださった地域の方々に感謝の気持ちを伝える大切さを知る。
④くらしの道具の変化の中には、人へのいたわりや思いやりがあることに気づく。
⑤地域の方々との交流やグループの仲間との協力を主体的に行う楽しさと大切さを体験する。
⑥環境や未来は自分たちがつくっていることに気づく。
⑦昔のくらしで学んだことを参考に持続可能な未来について柔軟に考える。

①地元の方から昔の暮らしについて聞く
②昔の道具に興味津々
③体験学習の一つ機織り体験

参加者の声

（児童）
・昔の人は自然の力を借りて生きていたのがすごいと思いました。
・物を大切にするのはすばらしいとわかりました。
・昔は沢山の人が協力していいなと思いました。

（先生）
・教科書、資料を見て学習する何倍もの学びがありました。

プログラムの流れ

1時間目
昔のくらしの「わくわく」を見つけよう！
2・3時間目
わくわくタイムマシーン～昔のくらしを知る旅に出発だー！
4時間目
発見した「昔のくらしのわくわく」を話し合おう！
5時間目
わくわくタイムマシーン～地域の方々に感謝の気持ちを伝えよう！
6時間目
わくわくタイムマシーン～未来を想像しよう！

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：わくわく郷土たんけん隊―昔の暮らしと今の暮らしをくらべよう！（特定非営利活動法人きんたろう倶楽部）

宮城県

地球に生きる私たちと動物

地域プログラム化メンバー：仙台八木山動物公園、桜井・法貴グローバル教育研究所、特定非営利活動法人シナップス40、元仙台市立小学校教員、名取市教育委員会生涯学習課、特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク
実証協力校等：仙台市立東二番丁小学校

ESDの要素：相互性　有限性　連携性

能力／態度：多面　関連　参加

プログラムの概要

地球には多様な生物が共存している。しかし自然環境の破壊や温暖化による異常気象、動植物の生態系の破壊等の問題が多数存在している。そこで、本プログラムでは、動物園で飼育している絶滅危惧される動物を通して、動物と環境、人間と環境、動物と人間のかかわりについて学ぶ。更に、動物園で行われているシジュウカラガンの保全活動について学び、動物園の役割についても学ぶ。そして、持続可能な社会を実現するために、多様な環境問題について調べ、自分達ができることを考え発表する。

プログラムの目標

①動物園にいる絶滅危惧種の動物を観察し、地球上での生息数、野生の動物の食べ物や生活環境について考える。
②アジアゾウが絶滅危惧される背景を考え、人間の生活と自然環境破壊が密接にかかわっていることを学ぶ。
③動物園の役割として、絶滅危惧種の動物の保全活動を行っていることを知る。
④自ら関心のある環境問題について調べ学習を行い、自ら出来る事を考え発表する。
⑤環境問題を自分ごとに捉え、持続可能な社会をつくる一員としての意欲を高める。

①動物園のキリンの骨格模型の前でお話しを聞く
②動物園で象についてのお話しを聞く
③動物園でワークシートを使って絶滅危惧を考える

参加者の声

・これまで森林減少や地球温暖化はどこか遠いところで起こっているのではなく、私たちが身近に使用しているパーム油がゾウやトラを苦しめていることを知った。
・密猟などの話を聞き，動物の見方が変わった。遠く離れているのに、私たちの生活と自然の生き物たちがかかわっている事をしった。
・動物園の他の仕事、役割が分かった。
・実はとても貴重なもので、動物たちの中には絶滅危惧種も沢山いると分かった。

プログラムの流れ

1時間目
絶滅しそうな動物を知ろう！
2時間目
絶滅しそうな動物を観察しよう！動物園の役割について学ぼう！
3時間目
動物が絶滅する背景を知ろう！動物と環境と自分達の生活とのかかわりを学ぼう！
4・5時間目
人と環境のかかわりについて調べよう！
6時間目
調べてまとめた事と行動宣言を発表しよう！お友達の発表を聞こう！

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：地球の仲間とつながろう　森の人「オランウータン」と一緒に生きる喜びを！（一般社団法人　あきた地球環境会議）

秋田県

大地の声を聞こう！

～八峰白神ジオパークの宝～

地域プログラム化メンバー：秋田大学、秋田県教育庁南教育事務所、秋田市地球温暖化防止活動推進員、秋田県環境教育等推進協議会、秋田県生活環境部環境管理課、一般社団法人あきた地球環境会議
実証協力校等：八峰町立八森小学校

ESDの要素　多様性　有限性　連携性

能力／態度　批判　多面　伝達

プログラムの概要

2015年9月現在、日本には39地域の日本ジオパークが認定されており、秋田県では3か所存在するが、地域の子どもたちが、ジオ（地球・大地）について考え、調べ、学ぶプログラムは確立されていない。そこで本プログラムでは、地域のジオについて、過去からの地形や地質、それらが形成された自然史と関連付けて現在の姿を学ぶことで、自然の歴史の面白さや成り立ちへの驚きを体験し、すべてが繋がっていることを理解する。また、化石を通しては、資源の有限性を学び、持続可能な社会について考える力を習得する。まとめでは、ジオの将来の姿を描き地域へ発信することで、地球規模の保全と地域のジオを守る気持ちの醸成を図り、持続可能な未来を構築する人材を育成する。

プログラムの目標

①地域に存在するジオパークについて興味を持ってテーマを設定し、観察、調べることを通し、壮大な自然史と様々な要素の繋がりを理解し、保全しようとする気持ちを育成する。
②人間の経済活動で用いられる化石燃料の有限性や大量消費による地球温暖化の現状から、人間は自然を多様な形で利用してきたことを学び、現在の消費生活の改善等、どう対応していくべきか考える力を身につける。
③過去を知ることが未来へ繋がることを知り、環境と人間の繋がりを意識しつつ、皆で協力しながら伝えるツールを作成する大切さと、地域へ発信し、より多くの人へ伝える意味の重要性を学ぶ。

①秋田のプログラムで作成したジオ・カードゲーム
②クラス全員でデジタル紙芝居を熱演中←演じながらジオ（地球・大地）について学ぶ
③30万年前の地層から化石を採取！

参加者の声

・周りにこんなにジオパークがあるとは思わなかった。実際に役を演じながら、クイズに答えたり考えたりして楽しかった。
・火山のありがたさや、こわさなどジオと私たちとは関わりがある事を知りました。もっとジオについて調べていきたいと思います。
・カードゲームでみんなの作った文章などから、よりわかりやすく覚えて学ぶことができた。
・ジオ（大地）をどのように守っていくかを考えられた。自分にもできることがある。

プログラムの流れ

1・2時間目
45億年の時・・・太古の昔からあるジオって何？地球を知ろう！
3・4時間目
身近な火山について考えよう！
5・6時間目
「化石」から学ぶこと：ジオを壊しているのは人間？エネルギーの使い方に気づこう！
7・8時間目
八峰町自慢のジオ：皆に伝えるツールを作ろう
9・10時間目
八峰町自慢のジオ：皆に伝えて残していこう

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：くすのきタイム連光寺ＳＡＴＯＹＡＭＡプロジェクト（多摩市立連光寺小学校）

山形県

わが家のエコライフ大作戦！

地域プログラム化メンバー：山形大学大学院教育実践研究科、鶴岡工業高等専門学校、特定非営利活動法人もがみ、置賜地域地球温暖化対策協議会、山形県環境科学研究センター、特定非営利活動法人環境ネットやまがた（オブザーバー）山形県環境エネルギー部環境企画課、山形県教育センター研修課
実証協力校等：上山市、上山児童館、上山南児童センター、上山南児童センター分室（案内周知協力）山形市立滝山小学校、山形市立蔵王第一小学校

ESDの要素　相互性　連携性　責任性

能力／態度　未来　伝達　協力

プログラムの概要

「地球温暖化」は世界の全ての国々が関係する環境問題であり、早急な対策が求められている。地球温暖化の原因である温室効果ガスは、私たちが生活の中でのエネルギー使用に伴い排出される。特に、家庭部門における温室効果ガスの削減は進んでいないことから、この分野での対策推進が求められている。

そのため、各家庭における子ども達を中心としたエコライフの実践を目指し、身近な生活から地域や地球環境への広がりを考え、私たちが使用している身の回りのエネルギーについて知るプログラムとする。さらに、このプログラムに基づき、家庭でできる省エネ対策や再生可能エネルギーについて、自ら考え判断し実践行動できるものとする。

プログラムの目標

①地球温暖化問題について学ぶことで、地球規模から身近な地域の環境の変化に気付く力を身に付けることができる。
②現在の自身の生活を振り返りながら、家庭でできる省エネルギー対策を学ぶことで、エネルギーの大切さに気づき、家庭でできることを自ら考え、他者（家族）と協力して行動する力を身に付けることができる。
③体験活動や専門家の話をから再生可能エネルギーに関する知識を習得するとともに、エネルギー利用に関して自分の考えを持ち、他者と意見交換することでコミュニケーション力を向上させることができる。

①手回し発電機を体験！
②温暖化の話しを聞く
③リメイクキャンドル作り

プログラムの流れ

1・2時間目
　どんな省エネができるのか考えよう！
3時間目
　エネルギーについて知ろう。
4・5時間目
　再生可能エネルギー設備を見てみよう。
6・7時間目
　手作りキャンドルでキャンドルナイトを実施しよう。
8時間目
　地球温暖化について学ぼう！
9時間目
　ふりかえり

参加者の声

・キャンドルつくりはじめてつくれてうれしかったです。
・せつやくのことが学べたのでよかったです。作る時に上手に作れて楽しかったです。
・むだな電気を使わないようにする。
・あまりゴミをださないこと。電気をつかわないこと。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：これからのエネルギー生活を考えよう～電気に頼りすぎた生活を見直そう～（なごや環境サポーターネットワーク／三環の会（なごや環境塾三期生の会））

福島県

自然エネルギーって何だろう？

～身近なエネルギーと私たちの生活～

地域プログラム化メンバー：特定非営利活動法人いわきの森に親しむ会、特定非営利活動法人いわき環境研究室、いわき市立小名浜第１小学校、いわき地域環境科学会
実証協力校等：いわき市平第４小学校

ESDの要素　有限性　責任性

能力／態度　批判　多面　参加

プログラムの概要

本研究学習プログラムでは、子どもたちが体験学習を楽しみ、エネルギーや環境に対する関心を高め、正しい知識を身につけることができるようにする。特に、地球温暖化等「地球規模の環境問題」を通したエネルギー利用のあり方、一次エネルギーの自給率が低い我が国のエネルギー利用のあり方、エネルギーに関する実験等の体験学習から、増大するエネルギー利用へ向けた省エネ技術の重要性など、質の高い気付きを獲得できるようにする。また、「防災」の観点から再生可能エネルギーに焦点を当てた学習を行い、再生可能エネルギーの仕組みや利点、課題を様々な体験活動や調べ学習から学ぶことで、私たちの住む地域性や自然環境を有効に活用しようとする子どもを育成する。

プログラムの目標

①近年、地球規模で起こっている変化・現象が日々の暮らしにどのような影響が出ているかを理解する。
②日常生活で自分達がどれだけのエネルギーを消費しているかに気付き、どのような影響を環境に及ぼしているかを理解し、どのような行動をとれば影響を抑えられるかを考える態度を育てる。
③日本の暮らしを支えるエネルギーの種類を知り、その長所や短所を理解する。
④日本のエネルギー多消費型の社会を学んだ上で、どのような行動をすれば良いのかを考える態度を養う。

参加者の声

①担任の先生からは、支援グループの存在は不可欠との感想を戴いた。
②日常生活で、今後やりたいこととして、半数近くが、「節電するようにする」と回答。その他、「太陽光発電等の設備を自分の家にも設置したい。」、「エネルギーを大切に使うようにしたい」等の行動に結びつく回答が多かった。
③自由意見では、再生エネルギーに興味を持った（17人）。水車づくりは参考になった（16人）。直接体験ができて良かった等の感想が寄せられた。

①扇風機を使って風力を体験
②水路での発電実験
③自然エネルギー施設で水車を使っての体験活動

プログラムの流れ

1時間目
身近な自然環境の変化を知ろう！
2時間目
再生可能エネルギーにはどんなモノがあるか？
3時間目
日常生活でどのくらいのエネルギーを使っているのだろうか？
4時間目
地球温暖化はなぜ起こるのだろうか？
5・6時間目
身近な再生エネルギーに実際に触れてみよう！
7時間目
小型水車をつくってみよう
8時間目
作った水車の性能の違いを考えてみよう
9時間目
地球温暖化を止めるために自分達に出来ることを考え、意見交換しよう！

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：太陽エネルギーって何だろう？～太陽の恵みが暮らしを支える・かえる（チャウス自然体験学校）

足尾の銅山跡

渡良瀬川遊水池

筑波山

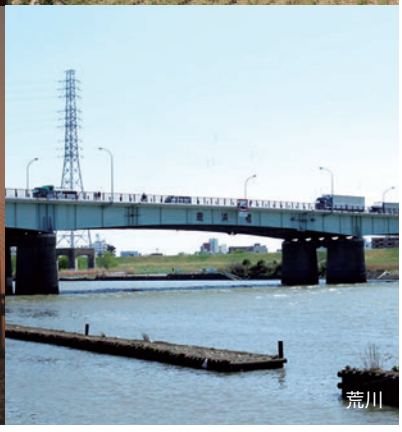
新潟平野

銚子と風力発電所

見沼の田んぼ

清里のカラマツ

横浜ベイブリッジ


荒川

静岡の竹林

関東ブロック

関東ブロックは、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、静岡県の１都９県です。地域内の人や組織のつながりを強めることにより、多様な環境に対応した幅広いテーマの環境教育に取り組みました。

関東ブロック

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

関東ブロックの概要

モザイクのように多彩な環境

関東ブロックは、過密と過疎、豪雪と温暖、広大な平野と険しい山々がわずかの距離で隣接します。社会環境と自然環境がこれほど多彩なブロックは他にありません。それぞれの都県の実情に即した環境教育を進める必要があります。

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

コーディネート力の強化

各都県に地域の自然・社会を熟知した中間支援組織や環境教育団体に地域事務局を委ね、実証、普及・啓発等の業務を実施しました。地域事務局団体は、地域の地球温暖化防止活動推進センターを担う団体や市民活動サポートセンター、自然学校等と様々ですが学校や環境行政との連携の実績があり、年度の後半に行事が集中する本業務を遂行できる能力を持った団体を選びました。

この事業を通じて、各地域事務局団体はESDについての理解を深めるとともに、課題に応じたステークホルダーを集め、学校・地域・家庭の垣根を越えて学びの場をつなぐ力を強めることができました。そして、環境教育・環境保全活動をはじめ、地域で取り組まれている持続不可能性への様々な挑戦をESDによって紡ごうとしています。

地方事務局

公益財団法人日本環境協会

関東ブロック実行委員

所属	役職	氏名
麻布大学　生命・環境科学部	教授	小玉　敏也
静岡県田方地区教員研修協議会	指導講師	大塚　　明
認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ	事務局長	大野　　覚
NPO法人とちぎ生涯学習研究会	代表	柴田　法幸
NPO法人とちぎ生涯学習研究会	理事	村上　澪生
チャウス自然体験学校	代表	加藤　正幸
群馬県教育委員会　東毛青少年の家	指導係　指導主事	山口　智義
認定NPO法人環境ネットワーク埼玉	事務局長	秋元　智子
ELCoの会	代表	市野　敬介
ELCoの会		廣田由紀江
NPO法人新宿環境活動ネット	理事	落合　千秋
NPO法人新宿環境活動ネット	スタッフ	松田　　遙
認定NPO法人アクト川崎	理事長	竹井　　斎
認定NPO法人アクト川崎	事務局長	笹子まさえ
みらいずworks	事務局長	本間　莉恵
（公財）キープ協会　環境教育事業部	課長	鳥屋尾　健
NPO法人アースライフネットワーク	チーフマネージャー	青島　加奈

地域事務局及びワーキンググループ

地域	団体名・所属・氏名	
茨城県	地域事務局	認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ
	認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ　大野覚、常盤大学人間科学部　准教授　小関一也、新荘市民センター運営審議会　委員長　川又一郎、茨城県環境アドバイザー　中村恵美子、水戸市立新荘小学校　教諭　住谷佳世子、水戸市立新荘小学校　教諭　藤田康平	
栃木県	地域事務局	NPO法人とちぎ生涯学習研究会
	NPO法人とちぎ生涯学習研究会　理事　村上澪生・代表 柴田法幸・スタッフ 高宮達郎・中野雄登・増田有貴、宇都宮大学教育学部　教授　陣内雄次、さくら市立上松山小学校　教諭　柳原守	
群馬県	地域事務局	チャウス自然体験学校
	チャウス自然体験学校　代表　加藤正幸・事務局長　加藤まり子、群馬県教育委員会　指導主事　山口智義、群馬県環境森林部環境政策課　環境活動推進係長　茂木好一、群馬県水産試験場　生産技術係長　小林保博、みどり市教育委員会　教育部学校教育課　指導主事　大澤　智、みどり市立あずま小学校　教頭　髙橋　博、両毛漁業協同組合　組合長　中島淳志、群馬県内水面漁場管理委員会　委員　中島奈緒美	
埼玉県	地域事務局	認定NPO法人環境ネットワーク埼玉
	認定NPO法人環境ネットワーク埼玉　事務局長　秋元智子・後藤正樹、麻布大学生命・環境科学部　教授　小玉敏也、越谷市立大袋東小学校　5学年主任　岡田将和	
千葉県	地域事務局	ELCoの会
	ELCoの会　代表　市野敬介、NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議　代表　重政子、浦安市都市環境部環境保全課　環境学習コーディネーター　広田由紀江、環境パートナーシップちば　代表　桑波田和子、千葉自然学校　理事　横山清美、小川かほる環境教育事務所　代表　小川かほる、浦安市立入船小学校　校長　鞠山誠人・教諭　香川敦司・杉山洋子	
東京都	地域事務局	NPO法人新宿環境活動ネット
	NPO法人新宿環境活動ネット　理事　落合千秋・松田　悠、全国小中学校環境教育研究会　副会長　石田好広、NPO法人たてやま・海辺の鑑定団　理事長　竹内聖一、足立区立鹿浜第一小学校　教諭　鈴木達也・秋月恵美・小林晃子	
神奈川県	地域事務局	認定NPO法人アクト川崎
	認定NPO法人アクト川崎　理事長　竹井斎・事務局長　笹子まさえ、川崎市地球温暖化防止活動推進員・３Ｒ推進プロジェクト　庄司佳子、麻布大学　生命・環境科学部　教授　小玉敏也、神奈川県環境農政局環境部環境計画課地球温暖化対策グループ　丸山美波、川崎市環境局総務部環境調整課　浅岡充	
新潟県	地域事務局	みらいずworks
	みらいずworks　事務局長　本間莉恵・学生スタッフ　畑山萌子、新潟青陵大学福祉心理学部　教授　岩﨑 保之、新潟県南区教育支援センター　センター長　江口　滋、青山果樹園　青山淳彦、新潟市立白南中学校　校長　霜鳥正道・教諭　灰野聡子・宮埼威治	
山梨県	地域事務局	公益財団法人キープ協会
	公益財団法人キープ協会　環境教育事業部　関根健吾・鳥屋尾健、帝京科学大学　教授　古瀬浩史、北杜市立長坂小学校　校長　堀内正基・教諭　原　和之	
静岡県	地域事務局	NPO法人アースライフネットワーク
	NPO法人アースライフネットワーク 理事　服部乃利子・井口朗彦・青島加奈、NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議　研究員　大塚　明、静岡市立服織小学校　校長　田中正己・5年部主任　倉島永伍・教諭　小林由佳・佐藤博行・土屋美恵子・細澤幸典	

問い合わせ先

環境省関東地方環境パートナーシップオフィス(関東EPO)
〒150-0001　東京都渋谷区神宮前5-53-67コスモス青山B1F
TEL：03-3406-5180　FAX：03-3406-5064
E-mail：kanto-epo@geoc.jp

茨城県

食べ残しゼロ大作戦！

地域プログラム化メンバー：常磐大学人間科学部、茨城県環境アドバイザー、新荘市民センター運営審議会委員長、いばらきESD実践研究会、認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ
実証協力校：水戸市立新荘小学校

ESDの要素：相互性　公平性　責任性

能力／態度：批判　多面　参加

プログラムの概要

家庭や給食の食べ残しから、食品ロス、ごみ問題、3R、命のつながり、「もったいない」と生産者への感謝、途上国の飢餓、フードマイレージなどを関連付けて総合的に学ぶ。給食室や地域店舗で食品廃棄の理由、種類、量、廃棄方法を調べ、また家庭や学校で食べ残しを減らすための工夫を調べ、活動アイデアを出し合い、実践する。また学習や活動の成果、調査結果を地域住民に発信し、地域一丸で食べ残しを減らす機運を生み出す。

プログラムの目標

①食料を輸入に頼っている一方、大量に食品廃棄している現状を知り、食べものに対する意識を変える。なるべく残さず食べ、残した食べ物は資源として循環させる意識をもつ。
②国内外で食事を満足にできない子どもがいることに想いを馳せ、思いやりの心をもつ。
③地域に提案し、交流することで、地域を好きになり、地域の中で育てられていることを感じる。
④同級生や他の学年、保護者、学校、地域住民と協力し、地域の課題を解決する力を身に付ける。

①スーパーに行き、食べものの産地を調べる
②食品ロスを減らすための行動を考え「食べ残しゼロカルタ」を作った
③食品ロスを減らすためのアクションを保護者や地域の人に発表する

プログラムの流れ

1時間目
　食べものに関する社会問題を知ろう
2時間目
　タネは命の源
3時間目
　食品ロスの実態を調査
4時間目
　食品ロスの実態を伝えよう
5～7時間目
　食べ残しを減らす工夫を考える
課外活動
　食べ残しを減らす活動を実践する
8～9時間目
　学習成果と提案を地域に発信する

参加者の声

・私達がたくさんの食べ残しをしている事で私達は残さずすべてたべることが必要だと思いました。調べていくとてんぷらやさんなどあまり残さないようにしていたりとしていて、私たち以外にもゼロにしようとしている人が多いことがわかりました。
・毎日当たり前のように食べている物が、貧しい国から見ればとても貴重なものに見えるけど、日本の人はその多くを好ききらいですてていること。戦後の人々の生活では食べ残しをすると怒られるぐらい、食べものはとても貴重なものだったことが地域の人たちの話で分かった。
・食べ残しゼロ大作戦で経験したことを中学校でも生かしたい。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：ゴミ減らし大作戦　～ゴミを減らすルールを作ろう！～（くらし創造工房）

栃木県

どんぐりから苗木一本運動 in さくら市

地域プログラム化メンバー：宇都宮大学、さくら市立上松山小学校、NPO法人とちぎ生涯学習研究会
実証協力校：さくら市立上松山小学校

ESDの要素：相互性　公平性　責任性

能力／態度：未来　多面　参加

プログラムの概要

世界各地に存在する様々な環境問題の解決のためには、人間を含めすべての生物は、自然環境の中で生かされているということ（＝生かされる力）を理解する必要がある。さらに、動植物と人間が共生していく社会に必要なことを自ら考え、行動するなどの「生きる力」を身につけることが大切である。

そのために本授業では、日本初の公害の地・栃木県日光市足尾を題材に、紙芝居等で環境問題について学習する。そこで子ども達は、自然や人間等が相互に与える影響について様々な視点から学ぶ。そして、日光市内の国有林にてどんぐりを拾い、畑等で育成する。自らの責任においてどんぐりを育成することで、自ら考え、自ら行動に移す力を身につける。

1

2

3

①なぜ足尾の山から緑がなくなってしまったのか考えながら真剣に紙芝居を聞く
②子どもたちに紙芝居を見た感想や意見を書いてもらう
③環境のために何ができるか、子どもたちが考えを発表しあう

プログラムの目標

①日光市足尾を題材にした紙芝居を通して、自然と人間の生活は相互に影響しあっており、人の手によって自然環境は破壊も再生もされることを理解する。

②現代に生きる私たちは、先人が築いた自然環境の恩恵を受けていることを理解するとともに、豊かな自然を後世に残すためには、長い目で見た継続した取り組みが必要であることに気づく。

③自然や環境保全活動が社会に与える影響を予測し、自然と共生するために必要なこと・自分にできることを考えた上で、積極的に活動に取り組む。

④奥日光の国有林でのどんぐり拾いを通して、どんぐりが成長して大木となった姿をイメージし、自らの手で自然を育成する意志を育む。

参加者の声

・人間が、お金もうけをするためなどと、かんたんに木を切ってはいけないと思う。元の状態にもどすためにがんばっている隆平くん達などは「すごいな」と思った。動物や植物が苦しむのはかわいそうだと思った。

・私も、最初から木を育てて、なえ木を植えたいです。私は、かんきょうせいび委員会に入っているので、植物を植えたりするのを、もっと積極的にがんばりたいと思います。

・どん君が、ゆめをあきらめないことがすごいと思いました。

・木をどんどんなぜ切っていくのかふしぎに思いました。人間はひどいなと思いました。ずっと植えていって山にいっぱい気ができていてすごいなと思いました。

プログラムの流れ

1・2時間目
　足尾ってどんなところ？
3時間目
　実際に行ってみよう！
4時間目
　大きくなあれ！僕らのどんぐり
5・6時間目
　おもちゃに変身？！
7～9時間目
　調べよう!僕らの町のエコな取り組み
10～12時間目
　僕らにできることはなんだろう？

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：森の遊びが森を守る（特定非営利活動法人　いしかわ自然体験支援隊）

群馬県

川の中から「見つける・観つめる・見直す」地域の自然 ～ヤマメが暮らす川づくり

地域プログラム化メンバー：チャウス自然体験学校、群馬県教育委員会、群馬県環境森林部環境政策課、群馬県水産試験場、みどり市教育委員会、みどり市立あずま小学校、両毛漁業協同組合、群馬県内水面漁場管理委員会
実証協力校：みどり市立あずま小学校

ESDの要素：多様性／相互性／連携性

能力／態度：未来／多面／参加

プログラムの概要

身近な河川で生き物を探し、どんな生き物が棲んでいるのか観察することで、多種多様な生物たちが生息する自然環境に気づき、身近な河川の水質（きれいさ）を知り、きれいな河川に棲む魚（ヤマメ）を飼育し、命の尊さや、河川（地域）への愛着心を育てる。また、育てた「ヤマメ」を河川に放流することで、「ヤマメ」の生息できる河川環境の保全活動（ごみ拾いなど）へ積極的に参加し、身近な自然環境・健全な河川環境の生態系を保全することの大切さを学ぶ。

プログラムの目標

①身近な河川の生き物を探し、観察することで、多種多様な生物たちが生息する自然環境に気づき、河川の水質（指標生物＝水質階級）を知る。
②指標生物で「きれいな河川」に生息すると分類される「ヤマメ」を卵から孵化、稚魚になるまで育てることで、生命を大切にする心を育む。
③育てた「ヤマメ」を河川に放流することで、「ヤマメ」の生息できる環境を守りつづける意欲を持ち続け、身近な自然環境・健全な河川環境の生態系を保全することの大切さを理解する。

①ヤマメを見ないでヤマメの絵を描いてみる
②ヤマメの絵を描いた後でヤマメの特徴についての話を聞く
③学校の水槽のヤマメを観察する

プログラムの流れ

1時間目
身近な川にはどんな生物がすんでいるか観察しよう！
2時間目
きれいな水に棲んでいる生物を見分けよう！
3時間目
ヤマメを育てる準備をしよう！
4時間目
ヤマメの卵をもらおう！
随時
ヤマメを育てよう！（観察記録をとる）
5時間目
何も見ないでヤマメを描いてみよう！
6時間目
ヤマメは自然環境のなかでは何を食べて大きくなるのか考えてみよう！
7時間目
ヤマメの育つ自然環境ってどんな場所だろうか？
8時間目
育てたヤマメを放流しよう！
9時間目
学んだことをふりかえろう！
10時間目
自分達にできることを考え、意見交換しよう！
11時間目
自分達にできることを発表しよう！

参加者の声

（児童）
・ふだんはあまり川に行って遊ぶ機会が無かったので、川にたくさんの種類の魚がいることに驚いた。
・ヤマメの産卵しているビデオをみて、学校の近くの川で実際に産卵していると知ってびっくりした。ヤマメが安心して住めるよう川をきれいにしたいです。

（教員）
・専門家による興味深い話を聴くことができた。児童の驚きともっと知りたいという反応を引き出すことができた。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：身近な自然と「水」と「生きもの」のつながり（特定非営利活動法人 くすの木自然館）

埼玉県

もっといきいきビオトープ

～生態系豊かなビオトープにしよう！～

地域プログラム化メンバー：麻布大学生命・環境科学部、越谷市立東大袋小学校、認定NPO法人環境ネットワーク埼玉
実証協力校：越谷市立大袋東小学校

ESDの要素　多様性　有限性　責任性

能力／態度　多面　協力　参加

プログラムの概要

自然に触れながら課題を解決する過程を通して、自分たちでビオトープを守り育てていくことへの責任感や、自然の移り変わりや自然の良さを感じ取らせ自然を大切にしようとする態度を育む。そのためには、以下を重視する。

①自分で考える力：児童が収集した情報を整理させ、事柄を比較、分類、関連付ける等分析させていく。

②実践力：児童が課題解決に向けて自ら活動を計画し、実行できるようにする。

③協調して進める力：班で力を合わせて課題を解決していく過程を通して協同を図っていく。児童の考えを元にグループに分け、さらに課題ごとに班分けを行い、班で力を合わせて課題解決を図る。また他の班との交流により異なる視点で考え協同的に学ぶ。

プログラムの目標

①自然や生き物を豊かな心で感じ取り、自然・人・物に対する見方を深め、身の回りの自然や環境を大切にしようとする意欲と実践的な態度を身につけさせる。

②生き物や訪れる人にとって優しいビオトープの在り方を様々な方法で情報収集し、考えることができるようにする。

③生き物にとって優しいビオトープの在り方について、自分が考えていることを協同しながら工夫して実践し、伝え合うことができる。

①班の異なる児童がグループを作り、自分たちの班の活動を他の班の児童に報告しあう
②報告を受けた他の班の児童が、良い点や改善点、疑問点を付箋に書いて報告した児童に渡し、受け取った児童は付箋をシートにまとめて視覚化する
③児童がそれぞれ元の班に戻り、ゲストティーチャーから助言を受けながら自分たちの活動を評価する

参加者の声

・友達と協力して、ならばやしを良くすることができて、良かった。
・これからも自然を大切にし、生き物のための環境を作っていきたい。
・生き物によって好みの場所が違うので、明暗等のバランスの取れたビオトープにしていきたい。
・在来種のための場所にするために、外来種を取っていきたい。
・みんなが環境を大切にできるように、自分たちの活動を広めたい。

プログラムの流れ

1時間目
ビオトープって何！ビオトープに住む生き物を知ろう！
2時間目
ビオトープの手入れ方法を知ろう！
3時間目
活動計画を立てよう！
4・5時間目
手入れ作業を行おう！
6時間目
振り返りをして次の活動につなげよう！
7時間目
さらなる計画を立てよう！
8～10時間目
手入れ作業を行おう！
11時間目
活動をまとめ、発表準備をしよう！
12時間目
活動を発表し、次の学年につなげよう！

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：里山ビオトープから“いのちの輝き”を伝えよう（豊田市立西広瀬小学校）

千葉県

環境とわたしたちのつながり

～環境人（エコんちゅ）になろう！～

地域プログラム化メンバー：NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議、浦安市立入船小学校　校長、浦安市環境保全課　環境学習コーディネーター、ELCoの会　代表、環境パートナーシップちば
実証協力校：浦安市立入船小学校

ESDの要素：多様性　相互性　有限性

能力／態度：未来　多面　伝達

プログラムの概要

最初に、私たち一人ひとりの暮らしがさまざまな環境問題に影響していることに気づくゲームを行なった後、水・廃棄物・エネルギーをテーマにして体験を通じてそれぞれが互いに関わりあっていることを学ぶ。「環境」について初めて学ぶ子どもたちが、知識ではなく、対話や体験を通じてテーマを理解し、自分たちが出来る事を考え成果を発表する。

プログラムの目標

①私たちの身の回りには、たくさんの環境問題があり、それぞれがつながりあっていることに気づき、問題を解決しようとする意欲を育む。
②環境問題解決のために、自分たちでも出来ることがあることを学び、学んだことを伝え、他者とともに行動できるようになる。
③明るい未来を想像し、深刻な環境問題の現実だけを伝えるのではなく、問題解決に向けて希望を持てるよう、楽しい活動とする。

1

2

3

①ソーラークッカーを用い、太陽熱で調理する
②折り込みのチラシに載っている野菜を見て何月ごろのチラシかをあてるゲーム
③牛乳パックを使って紙をつくる体験をして、限りある資源を賢く使う方法を考える

プログラムの流れ

1時間目
＜導入＞地球への恩返し
2時間目
＜水＞水と私たちのつながりを知ろう
3時間目
＜水＞だれが川をよごしたの？
4・5時間目
＜水・ごみ＞廃食油石けんを作ろう
6時間目
買い物ゲームでごみ減量を体験してみよう
7・8時間目
牛乳パックで紙すきはがきを作ろう
9・10時間目
＜エネルギー＞地球温暖化とワットのおはなしを聞こう
11時間目
ソーラークッキングをしよう
12時間目
＜エネルギー＞食べ物について考えよう

参加者の声

（児童）
・ごみをふやさないような努力や工夫をしたい。
・弟や妹が大きくなったらごみを出さないよう教えてあげたい。

（教員）
・話を聞くだけでなく、体験を重ねることによって児童は想像する力を高め、理解を深めている。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：太陽エネルギーって何だろう？～太陽の恵みが暮らしを支える・かえる～（チャウス自然体験学校）

東京都

海の贈り物　わたしたちの海を汚すもの

地域プログラム化メンバー：全国小中学校環境教育研究、足立区立鹿浜第一小学校、NPO法人たてやま・海辺の鑑定団、NPO法人新宿環境活動ネット
実証協力校：足立区立鹿浜第一小学校

ESDの要素　多様性　相互性　責任性

能力／態度　批判　多面　参加

プログラムの概要

①海や海の生き物について、水族館などを活用して調べる。
②自然教室などの機会を活用して海岸を歩き、海をゆっくり楽しむ。
③海の漂着物を拾う活動（ビーチコーミング）を行い、海に生きものがすんでいることや海ごみの問題に気づく。
④海ごみ解決のために自分たちなりの考えを持つ。

プログラムの目標

①自然教室の機会に海岸に足を運び、海の景色を楽しんだり、海の漂着物を拾ったりして、海に多くの生き物がいることに気づき、海に親しみを持つ。
②海に漂着するごみの多さに問題意識を持つ。そして海にすむ生き物のこと、ひいては、私たちの生活をどう改善していけばよいのかを考え、海を守ろうとする心情を育む。

①事前授業ではゲストティーチャーから海の生きものと漂着物の話を熱心に聞く
②海岸で漂着物を探す。貝殻などの他にもごみが見つかった
③いろいろな種類のタカラガイを使って貝殻の標本を作る

プログラムの流れ

1・2時間目
　海ってどんなものか考えよう
3・4時間目
　海の素晴らしさについて知ろう
5・6時間目
　本物の海に行こう
7・8時間目
　ビーチコーミングしたことをまとめよう
9～12時間目
　海の学習をふりかえってみよう

参加者の声

・自然教室で海に行き、海がとても美しいと思った。美しい海を守ることができるといいと思う。
・海岸に多くのビニールごみがあり、ショックを受けました。私たちの生活からこのようなごみが生れていることが分かったので、しっかりごみを分別して捨てたい。
・海ごみによっていろいろな生き物が傷つけられたり命を落としたりしていることが分かった。海ごみの問題を解決するためにも、ごみ拾いなどボランティア活動をしたい。
・海ごみの問題を調べていたら、油や洗剤などで海が汚れることも分かった。だから、そういった海を汚すものを出さないように工夫したい。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：ふるさとのきれいな海を守ろう！（環境ボランティアサークル亀の子隊）

神奈川県

混ぜればごみ、分ければ資源

地域プログラム化メンバー：認定NPO法人アクト川崎、麻布大学、神奈川県環境農政局環境部環境計画課、川崎市環境局総務部環境調整課
実証協力校：川崎市立南河原小学校

ESDの要素　有限性　連携性　責任性

能力／態度　多面　伝達　参加

プログラムの概要

学校や家庭において毎日排出されるごみが、資源の枯渇、処分場の不足や地球温暖化を引き起こしていることに気付き、児童がごみの分別を実践できるようにするプログラムである。行政によるごみ処理の現状やごみ減量についての取組を聞いた後、プラスチック製包装容器、雑紙、空き缶、ペットボトル、ガラス瓶などの実物を用いて分別のゲームを行い、それぞれの分別のポイントや適切な分別によって何に再利用できるか理解する。私たちの暮らしを支える様々な物の原料となる資源には限りがあることに気づき、3Rを実践することによって限りある資源を有効に利用することが、地球温暖化の防止にもつながることについての理解を深め、自ら実践すべきことを考えて実際に取り組む。

プログラムの目標

①日々の暮らしの中で排出しているごみについて、どのようなごみがどれくらい出ているか、また、ごみ問題が資源の枯渇、処分場の不足、地球温暖化とも密接にかかわっていることに気づく。
②行政や市民がごみ減量のためにどのような取組をしているか理解し、適切な分別によってごみが資源として再利用できることを理解する。
③ごみ減量のために、学校や家庭の中で児童が実践できることを考え、一人ひとりが責任をもって取り組むことで、自分たちには社会を良くしていく力があることを体得する。

①ゲストティーチャーが自分の活動とごみ問題への思いを子どもたちに語る
②児童に「ごみ」を一つずつ渡して６つの分別箱のどれかに入れるゲーム
③ごみ分別ゲームの答合わせ

参加者の声

（児童）
・3Rのことは4年生に習ったが、今日の方が良くわかった。
・温暖化について自分も何かできることがあることがわかった。何かやってみたい。
・さらに学校のごみの扱いについて調べたい。
・自分たちが身近なところで何かができるか考え、行動していきたい。

（教員）
・3人のゲストティーチャーが、それぞれに環境に取り組むようになった経緯を話していただいて、児童が問題をより身近に感じることができた。

プログラムの流れ

1時間目
現状と課題を知る
2～5時間目
課題を決め、幅広く調べる
6時間目
新しい視点を得る
7～9時間目
全員が参加し、協力しながらまとめていく
10・11時間目
全員で協力し、発表内容を整理、具体化する
12時間目
伝わるように見せる、話す

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：レッツゴー！　エコキッズ（富山市立中央小学校）

新潟県

地域魅力化プロジェクト

～地域の新価値を創造しよう～

地域プログラム化メンバー：みらいずworks、新潟青陵大学福祉心理学部、新潟県南区教育支援センター、青山果樹園
実証協力校：新潟市立白南中学校

ESDの要素　連携性　責任性

能力／態度　未来　伝達　協力

プログラムの概要

中学校3年間で学んできた地域の環境、産業を振り返り、地域の良さや課題に改めて目を向け、地域の活性化案を提言する「地域魅力化プロジェクト」に取り組む。自分が10年後、20年後にも住みたい地域であるために、地域の活性化にむけた企画を考え、地域で活躍する大人に出会いアドバイスを頂き提言を作成し、南区職員及び南区長へ提言をする。

プログラムの目標

地域の自然環境、産業に目を向け、地域の良さや課題に気づく。中学生として、地域の活性化のためにできることを考え、地域で活性化に向けた仕事に取り組む大人と出会い、意見を交わしながら、区への提言を作成し南区区長へ活性化案を提言する。

①10～20年度に地域がどうなっていたら良いかを考える
②学校の近くの農園などで体験をさせていただく
③ゲストティーチャーにインタビューして提案を作成する

プログラムの流れ

1・2時間目
地域のよさと課題はなんだろう。
3・4時間目
地域の魅力発信の現場を体験しよう。
5・6時間目
地域の農業の現状を知ろう。
7・8時間目
企画のブラッシュアップをしよう。
9・10時間目
南区への提案をまとめよう。
11・12時間目
南区の未来を提言しよう。

参加者の声

（児童）
・自分の地域のよさを再発見できたし、ますますこの地域が好きになった
・今の中学生の私たちが考えた企画を大人になって実現させたいと思いました
・農業は後継者不足など厳しい状況にあるので、地域の一員として様々な形でサポートしていきたい

（教員）
・生徒がしっかりと提言までで き、感動。生きる力、未来につながっていた。
・問題解決をしている方法や発想が身についた。地域の素材を多面的に捉え、どのように思考するのかの方法を習得で来た。またその考え方の応用ができるぐらいの力が備わったと思う。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：学校周辺ごみ調査隊　～地域の未来のためにどんな大人になりたいか～（特定非営利活動法人くすの木自然館）

山梨県

森と水の関係

地域プログラム化メンバー：公益財団法人キープ協会、帝京科学大学生命環境学部、北杜市立長坂小学校
実証協力校：北杜市立長坂小学校

ESDの要素　多様性　相互性　連携性

能力／態度　多面　伝達　関連

プログラムの概要

北杜市立長坂小学校5年生では「水（地域の暮らしと水）」について、社会科や総合的な学習の時間を通じて学習している。1学期には、田んぼでの田植え体験や近隣の湧水スポット見学、地域の歴史・文化に詳しい方のお話を伺うなどしてきた。ESD環境教育モデルプログラム「食をヒントに学ぶ私たちの水・・・郷土を知るプログラム」をモデルに、「森の遊びが森を守る」の要素を加えた地域版プログラムとした。

プログラムの目標

①森が水をたくわえる機能があることを理解する
②森が生き物の力によって、その機能を育んでいることを理解する
③森での体験から、水の循環をイメージできるようになる

①カラマツの木を五感で感じる
②森や水にちなんだカルタづくり
③森と水クイズに答える子どもたち

プログラムの流れ

1・2時間目
稲と水の関わり（校外学習）
3・4時間目
私たちの水はどこから来るのかな？（校外学習）
5・6時間目
学校林を調べよう（校外学習）
7・8時間目
水の循環をイメージしよう
9・10時間目
北杜市の水のキャッチコピーを考えよう
11・12時間目
地域の人に伝えよう

参加者の声

（児童）
・水の大切さや森林のことがよくわかった。

（教員）
・地域の環境学習においてキープ協会のようなアドバイザー的なところがあると、学校側から相談しやすい。
・森というと、どうしても樹木や動物をイメージするが、それ以外の部分を絵や写真を使い解説していたことがよかった。
・目に見えないものを見える形にして、児童の理解につなげることができた。
・大雨が降ったあとだったので、森の保水力を実感することができた。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：食をヒントに学ぶ私たちの水…郷土を知るプログラム（かがわ環境カウンセラー協議会）

静岡県

解決！放置竹林問題

～知って！使って！竹で広がる可能性～

地域プログラム化メンバー：NPO法人アースライフネットワーク、静岡県田方地区教員研修協議会指導員、環境カウンセラー、静岡市立服織小学校
実証協力校：静岡市立服織小学校

ESDの要素　多様性　相互性　連携性

能力／態度　多面　協力

プログラムの概要

身近にある放置竹林の問題に気づき、解決法を探るプログラムである。その過程で、放置竹林の抱える課題を知るとともに、竹に触れることで竹の特性から幅広い活用法があることを学び、その有用性を体感する。また、自然環境や植物と私たちの生活とのつながりについて理解を深め、自然の恵みを活かす暮らし方を知り、より良い地域環境づくりへ参加する方法を探る。その中から〝自分でできること〟を見つけ実践できるようにする。

①竹クイズ
②バウムクーヘンづくり
③竹ドーム完成

プログラムの目標

①身近にあっても注目する機会の少ない「放置竹林問題」について、興味・関心をもって調べる力を養い、様々な解決法や、解決に〝自ら係わりを持つことのできる〟可能性に気づく。
②竹の特性や活用法を探る学習や体験を通して、「自然の大切さ」と「人間が関わることでより良くなる自然・地域環境の例」を知り、その工夫について考え、実践できるようにする。
③実証校のある地域でも、長らく実用的・文化的・伝統的に活用されてきた〝身近な資源〟としての竹の有用性を知り、また竹や里山に係る地元の方々と共に活動することで、愛着をもって周りの環境に関わることができるようにする。

参加者の声

・ドームを作る時竹がやわらかく曲がったのでびっくり。竹粉はあったかくていいにおい。
・竹はなぜ役にたつ道具にかわるのに、あまり使われないのか？気になりました。
・他にも竹で物を作ってみて、放置竹林をへらしたいと思いました。

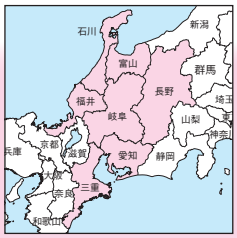
プログラムの流れ

1時間目
知ってる？　竹について
2時間目
学区の竹林に入ってみよう！【体験】
3・4時間目
カイケツ？　放置竹林
5時間目
里山・放置竹林で活躍する人たちのお話を聞こう！【講話】
6時間目
すごい！竹！実は私たちのくらしにこんなに関わっているよ！
7～9時間目
竹・竹・竹ダケ体験！作ってみよう！使ってみよう！【体験】
10・11時間目
他にもあるかな？竹活用アイデアコンテスト案づくり
12時間目
アイデア大発表会＆ふりかえり

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：木のパワーを探ろう！～使って守る森と住まい・まちの創造人材育成～（一般社団法人日本建築学会）

中部ブロック

子どもが変わる、教員が変わる。学校、地域が変わっていく…。
高い壁や硬い枠組みを超えて、人がつながり、学びがつながり、
大切なことに気づいていく。
中部にはそんな色とりどりのエピソードがいくつもあります。



中部ブロック

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

みんなでESD

中部ブロックの概要

子どもが輝く授業を「みんなが」つくる

授業を実施した先生は、言いました。
「子ども達が変わったよ」。
みんなで一緒になってつくった授業は、たくさんの変化を生みだしました。
子ども、先生、学校、地域…。
それぞれに大きな気づきがありました。

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

中部地域が大切にしていることは
「地域の子どもは地域に育つ」。
中部7県の有識者による形成推進委員会で共通の目標を検討し共有したら、あとは地域にお任せします。実証校とその地域の人々が一緒になって「子ども」主体の授業づくりを始めます（それがワーキンググループ！）。子どもの変化、教員の変化、学校や地域の変化を関わった人すべてが実感します。学校と地域が一緒になってESDを進める「しくみ」をつくります。
中部7県には、県、市町村レベルで、いくつものESD推進体制ができつつあります。それは、「各自ができること」を見いだし、そのことによる効果を目の当たりにした主体がつながっているからです。
もう一つ大切なことは、つながりつづけることです！

地方事務局

特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ。
北陸地域は北陸ESD推進コンソーシアム、東海地域は株式会社対話計画、環境省中部環境パートナーシップオフィスと協働して実施した。映像教材制作は株式会社TREEが担った。

中部ESD環境教育プログラム形成推進委員会（敬称略）

地域	氏名	所属/役職
富山	松本　謙一	富山大学人間発達科学部教授
石川	池端　弘久	金沢市教育委員会生涯学習部生涯学習課キゴ山少年自然の家館長
福井	松田　淑子	福井大学教育地域科学部教授
長野	中澤　朋代	松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科准教授
岐阜	巽　　徹	岐阜大学教育学部教授
愛知	千頭　　聡	日本福祉大学国際福祉開発学部教授
三重	松岡　　守	三重大学教育学部教授
北陸	鈴木　克徳	金沢大学環境保全センターセンター長・教授
長野・東海	新海　洋子	環境省中部環境パートナーシップオフィスチーフプロデューサー

ワーキンググループ

地域	団体名
富山	富山大学、富山市立神通碧小学校、富山市立楡原中学校、環境教育ネットワークとやまエコひろば、富山県生活環境文化部、富山ユネスコ協会、株式会社富山教弘
石川	金沢大学環境保全センター、金沢市教育委員会生涯学習部生涯学習課キゴ山少年自然の家、金沢市立十一屋小学校　金沢エコライフくらぶ、石川県環境部、いしかわ地球市民の会、金沢大学教育学部
福井	福井大学、福井大学教育地域科学部附属中学校、ふくいユネスコ協会、NPO法人エコプランふくい、福井県安全環境部、北陸ESD推進コンソーシアム
長野	松本大学、信州大学教育学部附属長野小学校、信州大学、一般社団法人長野県環境保全協会、NPO法人みどりの市民、長野県環境部、株式会社ミールケア
岐阜	岐阜大学、岐阜市立青山中学校、NPO法人e-plus生涯学習研究所、岐阜県環境生活部、岐阜県ユネスコ協会
愛知	日本福祉大学、半田市立板山小学校、愛知県教育委員会、愛知教育大学、愛知県環境部、名古屋市環境局環境企画部、名古屋ユネスコ協会
三重	三重大学、四日市市立中部中学校、四日市市教育委員会、四日市大学エネルギー環境教育研究会、環境教育ネクストステップ研究会、三重県環境生活部

中部ESD環境教育プログラム検証委員会（敬称略）

氏名	
池端　弘久	金沢市教育委員会生涯学習部生涯学習課キゴ山少年自然の家館長
宮島　和雄	一般社団法人長野県環境保全協会専務理事
大鹿　聖公	愛知教育大学理科教育講座教授
鈴木　克徳	金沢大学環境保全センターセンター長・教授
新海　洋子	環境省中部環境パートナーシップオフィスチーフプロデューサー

問い合わせ先（EPO中部）

環境省中部環境パートナーシップオフィス
〒460-0003　名古屋市中区錦2-4-3　錦パークビル4F
電話：052-218-8605　FAX：052-218-8606
E-mail：office@epo-chubu.jp

富山県

つながる　広がる　私と世界

地域プログラム化メンバー：富山大学人間発達科学部、金沢大学環境保全センター、富山市立神通碧小学校、富山市立楡原中学校、富山ユネスコ協会、富山県生活環境文化部環境政策課、環境教育ネットワークとやまエコひろば、特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ
実証協力校等：富山市立神通碧小学校、富山市立楡原中学校

ESDの要素　多様性　相互性　連携性

能力／態度　多面　伝達　協力

プログラムの概要

小学6年生と中学1年生が連携して実施する授業である。5か国から富山県に来ている国際交流員との交流を通して、世界や外国の人の生き方を学ぶ。日本での暮らしや仕事について、それぞれの国との違いは何なのか、児童生徒は質問を重ね、世界への関心を深める。どんどん知りたい気持ちが高まり、メールでの交流も行う。児童生徒は学習を通して調べたこと、感じたこと、考えたことを伝え合ったり、分かり合ったりする。その中で、多様な価値観や生き方に触れることが、自分自身や住んでいる地域を見つめ直すきっかけとなる。世界と自分達とのつながりや広がりを感じ、共に生きていく仲間として一人一人の違いを認め、尊重する気持ちを育む。

プログラムの目標

①広く世界に目を向け、外国や外国の人々に関心をもち、進んでコミュニケーションを図っていこうとする態度を養う。
②国際交流員との交流活動を通して、自国と他国の違いやよさに気づき、その違いや良さについてさらに調べたいことを見つけ、課題追究することができる。
③体験を通して感じたことや考えたことを話合い、外国や外国に住む人との関わり方を見つめ直していこうとする態度を育てる。

①

②

③

①1人の子どもが材になる
②交流会の様子
③自信まんまんで発表する子ども

プログラムの流れ

1・2時間目
自分と世界とのつながりを見つめよう
3時間目
外国の暮らしを調べよう
4時間目
交流相手を知り、インタビュー内容を考えよう
5・6時間目
第1回目の交流の計画を立てよう
7時間目
第1回交流会
8・9・10時間目
よりよい交流にするために課題を決めて取り組もう
11・12時間目
見つめ直そう「つながる　広がる　私と世界」
13時間目
第2回交流会
14・15時間目
伝えよう「つながる　広がる　私と世界」

参加者の声

・この学習で、私は知識の幅が広がりました。交流で日本特有のプレッシャーがあることを知り、ダメな部分だと思いました。でも、そのおかげで成長できると、日本の良さも感じるようになり、安心しました。
・身の周りの小さなことから国際交流ができると分かりました。
・最初のイメージと実際に話を聞くのでは、大きく違いました。外国に関して新しい疑問が生まれてきました。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：動物になって考えよう！せかい・動物かんきょう会議ワールドカフェ（株式会社ヌールエ　デザイン総合研究所「動物かんきょう会議プロジェクト」）

石川県

平栗を調べよう

～十一屋校区「平栗」の未来はどうなっていくのか～

地域プログラム化メンバー：金沢市教育委員会生涯学習部キゴ山少年自然の家、金沢大学環境保全センター、金沢市立十一屋小学校、富山ユネスコ協会、金沢大学教育実践支援センター、石川県環境部、金沢エコライフくらぶ、いしかわ地球市民の会、特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ
実証協力校等：金沢市立十一屋小学校

ESDの要素　多様性　相互性　連携性　責任性

能力／態度　未来　多面　伝達

プログラムの概要

十一屋校区の「平栗」は、多様な生物が生息する自然豊かな里山である。しかし、現在、平栗から通う児童はおらず、校区だと知っている児童もほとんどいない。住民の高齢化が進み、30年後には住民がいなくなるという地域の持続可能性の危機が迫っている現状もある。平栗がどんなところか、児童は調べたい課題を設定し、調査する。平栗の自然や地域をどのように守っていくか、どのような人々が平栗に関わり、どのような願いを持っているのか、インタビューをしながら学ぶ。さらに調べ活動をし、平栗の未来についてグループや学級で自分の意見や考えを伝え合う。友達と協力して課題を追究していくことで平栗が近しくなり、大切にしようとする気持ちを育む。

①

②

③

①平栗の未来はどうなっているのだろう？
②こんな未来になってほしい
③調べたよ！平栗に関わっている人の思い

プログラムの目標

①平栗の未来を考えるために、自分なりの課題を設定し、平栗の過去や現在の人々の暮らしや願い、自然の様子などを調べることができる。
②平栗の自然の様子を調べたり、そこに住む人々の営みや思い・願い、平栗地区に関わっている人々とのつながりをインタビューしたり、企業や行政、住民などの社会とのつながりを調べるなど、多面的・総合的に捉え、課題を解決している。
③課題を解決するために、調べたことを根拠にし、友達の意見を尊重したりして、自分の考えを伝えることができる。

参加者の声

・平栗のことをあんまりしらない人に「行きたい！」って思わせたいです。
・最初は平栗の人口が少ないから平栗はなくなると思っていたけど、みんなの意見をきいてやっぱりなくならないと思った。
・平栗に住んでいる人がいて、自然豊かで好きだから、平栗を大切だと思う。

プログラムの流れ

12時間
平栗を知ろう
校区に平栗という場所があることを知る。
調べたい課題を選び、調査し、調査結果をまとめる。

18時間
平栗の未来を考えよう
平栗の未来を予測する。必要な情報を集め、調査する。
話合い「平栗の未来はどうなっているのだろう」

8時間
平栗の魅力を伝えよう
平栗の未来のために自分たちにできることを考える。
他学年の児童、地域の人に伝える。ふりかえり

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：公園、探検・発見・ほっとけん！・・・誰が？（幕張ベイタウンにエコパークをつくる会）

福井県

発信！附中グリーンプロジェクト

地域プログラム化メンバー：福井大学教育地域科学部、福井大学教育地域科学部附属中学校、金沢大学環境保全センター、福井県安全環境部、NPO法人エコプランふくい、ふくいユネスコ協会、北陸ESD推進コンソーシアム、特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ
実証協力校等：福井大学教育地域科学部附属中学校

ESDの要素：多様性　相互性　有限性

能力／態度：批判　未来　多面

プログラムの概要

生徒にとって身近な生物育成に関する技術に着目し、植物の育成を通し、学校生活をより快適に過ごしやすくする方法を協働で考え、実践する。主題にせまるために、グループごとに作物を選び、栽培計画を立て、実際に植物の育成を行い、自ら技術を活用し環境を改善していくことの意義や難しさを体感する。この題材のまとめとして「緑は地球を救う?」というテーマのもと、植物の力を活用し、社会問題を解決する方法を調査し、校内サーバーに構築したWiki-サイトにまとめる。仲間のページを読み解いていきながら、複合的に物事を捉え、解決したい事象を取り巻く様々な制約条件のもと、その中で最適解を導き出していくという技術の考え方に向かっていく。

1

2

3

①仲間の調査とのつながりを考えよう
②「緑は地球を救う？」調査したことを報告し合おう
③植物の力でより快適な学校にするには？

プログラムの目標

①生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知り、自然を守り育てる活動が実践できる。
②生物育成に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解を深める。
③各自の調査内容を交流する中で、様々な事象がお互いに関連していることに気づき、多面的なものの見方や、制約条件の中で、最適解を求めようとする姿勢を高める。

プログラムの流れ

1時間目
　作物の栽培とは
2・3時間目
　プロジェクト立ち上げ
4・5時間目
　作物の決定と育苗
6～9時間目
　栽培環境の整備と管理
10～18時間目
　管理と栽培の意義
19～25時間目
　生物育成に関する技術を捉える

参加者の声

・学校生活をより快適に過ごすために、ヒマワリを植え、夏休みに花を咲かせてくれたので、夏らしさを感じることができ、とても明るい気分になった。
・持続可能な社会をつくるために、森林をなるべく破壊せずに土地開発ができる技術や自然界の生命のサイクルを止めないようにする技術を身に付けたい。
・グループで一緒に活動することにより、自分の調べたことをつなげて話し合うことができた。また、それにより考えが深まった。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：みどりなライフ！～みどりのカーテンで始めよう身近なエコ活動～（シンプル＆スローライフの会）、森林プログラム（いなぎの森100年プロジェクト）（東京都稲城市立稲城第一小学校）、産業と環境の共生を考える～大気汚染公害の歴史から、問題解決にむけた人間の行動を学ぶ～（公益財団法人　水島地域環境再生財団）

長野県

「子どもと教師が共に在る」

地域プログラム化メンバー：松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科、信州大学教育学部附属長野小学校、信州大学教育学部、NPO法人みどりの市民、一般社団法人長野県環境保全協会、長野県環境部環境政策課、株式会社ミールケア、特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ
実証協力校等：信州大学教育学部附属長野小学校

ESDの要素：多様性 相互性 有限性 公平性 連携性 責任性 その他
能力／態度：批判 未来 多面 伝達 協力 関連 参加

【小学校低学年】

プログラムの概要

「動物を飼いたい」。子ども達の思いから始まった一頭の子ヤギとの暮らし。名前は「コロ」。しかし、飼育4日目に事故で亡くなってしまった。教師も子ども達も悲しみの中で考える。ずっとコロだけを思い続けるか、「コロ」を思いながら新しい子ヤギを迎えての暮らしをつくるか。「亡くなったヤギを大事にすることは、新しいヤギを迎えてお世話できなかった分大事にすること」。子ども達は決断する。新しい子ヤギの名前は「ロコ」。「コロ」の月命日にお墓参りをしたり、新しい子ヤギの温かさに触れあったり。死に向き合いながら新しい命を大切にする。季節を感じ、子ヤギや学校園の変化や喜びを味わいながら、「共に在る」ことを感じている。

プログラムの目標

子ヤギとの暮らしづくり、友との関係づくり、子ヤギの命の育み等を通して、四季の移り変わりと自らが生きる大地を感じながら、自分が生きる暮らしを自分の意志や思いで、友と話をしながらつくる力を育む。

2年2組「動物とのくらしの中で、思いを込めて対象に関わり、その命に、生きることの意味を探りながらひとり立ちしていくわたし」

子どもの声

ロコの命を守りたい!!! いっしょにいるとたのしくいられるし、うれしいから。わけは、毎日いると、命を大切にしていると、いつも、うれしい日がつづくから、毎日たのしい。コロとロコは大切な2年2組のなかま。

【小学校中学年】

プログラムの概要

今の3年生が1年生の時に羊（こころ）との「共に在る暮らし」が始まった。昨年はこころが子どもを産み、名前を「優希」と名づけた。こころと優希、2頭の羊と日々のくらしをつくっている。羊が快適に暮らせるように小屋の修理や改善、雨除けや水路づくりなど仲間と相談して取り組む。羊の毛を刈り取って、毛洗いをしたり、毛糸にしたり、毛織物に触れて羊の温かさを感じたり。時には、作業のやり方や意見が違ってぶつかったり、思い通りにならないこともあり、本気になって仲間と話し合う。こころと優希を想い、こころと優希を通して仲間との関係性を育み、一緒にできることを考え実行している。

プログラムの目標

「対象に浸り込みながら、ひとり立ちしていく子ども」

3年間の羊との暮らしの中で、羊に浸りながら、羊とのつながり、羊を通しての仲間との関係性を育む。活動に対しての思いや、課題にぶつかったときの自分の思いや考えを仲間に伝え、活動の創造や課題解決を本気で捉え考える力を育む。

3年2組「こころと優希とのくらしの中で、もの・ひと・ことに出合い、友と共に生きる喜びを感じながら、自分の足で立っていくわたし」

子どもの声

優希たちとくらして命の大切さ、動物とくらすことでの活動を感じています。みんなの考えを出しあうことで、こころたちの幸せというものがはじめてうまれる、こころたちとの生活をとおしてそのようなことを思います。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：
地球の仲間たちの声を聞こう！（アイシン精機株式会社（アイシングループ））

プログラムの流れ（中学年）

1 ～ 8 時間目	うれしいな　はるがいっぱい
9 ～ 13時間目	こころの気持ちを感じてする毛刈り
14～21時間目	涼しく過ごせるようにしたい　こころと優希の新しいお家
22 ～ 26時間目	ふわふわ環境を大切にする　こころの毛洗い
27 ～ 34時間目	こころのふるさと　信州新町の伝統や食文化
35 ～ 39時間目	撚りをかけよう　手作り毛糸
40 ～ 49時間目	峯村さんの牧場の羊たちから見つめる家畜として生きるということ
50 ～ 54時間目	こころの毛糸をつかった毛織物
55 ～ 64時間目	こころと優希のこれから
65 ～ 74時間目	離れても心はつながっている　こころの命名から振り返る3年間の日々

プログラムの流れ（低学年）

1 ～ 6 時間目	鮮やかでおいしい春
7 ～ 14時間目	待っていたよ　子ヤギ
15 ～ 20時間目	名前をつけてあげたいな
21 ～ 32時間目	もう一度迎えたい子ヤギ
33 ～ 38時間目	忘れないよ　子ヤギのコロ
39 ～ 46時間目	もう二度と失いたくない命
47 ～ 58時間目	本当に大丈夫かな　小屋作り
59 ～ 62時間目	ずっといっしょにいようね　子ヤギ
63 ～ 68時間目	子ヤギが好きな野菜を作ろう
69 ～ 74時間目	今日も元気でよかったな
75 ～ 80時間目	毎日がとっても楽しいね　子ヤギ
81 ～ 86時間目	子ヤギと過ごす　秋の暮らし
87 ～ 94時間目	お腹がすいているのかな　子ヤギ
95 ～ 102時間目	子ヤギとの暮らしをメロディに乗せて
103 ～ 112時間目	雪がふっても大丈夫　冬の暮らし
113 ～ 120時間目	3年生でも一緒だよ　子ヤギ

岐阜県

環　境

地域プログラム化メンバー：岐阜大学、岐阜市立青山中学校、NPO法人e-plus生涯学習研究所、岐阜県環境生活部環境生活政策課、岐阜県ユネスコ協会、NPO法人ボランタリーネイバーズ、株式会社対話計画
実証協力校等：岐阜市立青山中学校

ESDの要素：相互性　連携性　責任性

能力／態度：未来　多面　伝達

プログラムの概要

「環境を守る」とはどういうことなのか、という問いに、生徒は身の回りの環境を見つめる。自分達で課題を見つけ、地域の環境をよりよくするために、中学生の自分達にこそできることを追究し、考える。友達や地域の方などと意見や考えを交流し、様々な情報を得る中で、多様な視点から「環境」を捉える。週1回、登校時にごみ拾い活動「レッツクリーンデー」を行い、校区のどこに、どのようなごみが多いかを調査し、どうしてごみが多いのかを話し合う。学習を通じて、また富士山でのごみ拾い活動をしている人の映像から、自分達のごみ拾い活動の価値に気づく。

プログラムの目標

自分たちの身の回りの環境を見つめ、自分たちの手で住みやすい環境を創ろうと願い、自分たちにできる活動を考え、行動することができる。

よりよい社会の実現のために主体性をもち積極的に行動することの価値を感じ、地域、社会の一員としてよりよく生きていこうとする責任感を育む。

①レッツ！クリーン！映像を見て、想いをはせる
②学校や地域をよりよくするためにできること
③レッツクリーンデー！

プログラムの流れ

1時間目
　地域のごみを減らすには
2時間目
　活動計画を立てる
3時間目
　活動を工夫する
4時間目
　岐阜市のごみの現状について知ろう！
5時間目
　「ごみ」はどうして社会問題になっているのか？
6時間目
　道徳「富士山清掃に取り組む人々」
7時間目
　環境をよくするためにわたしたちができること

参加者の声

・調査を通して、川にごみが多くあることがわかった。川から太平洋に流れ、世界の海を汚すことにつながってしまう。
・調査をして、大人が環境を汚すことがわかった。また、それには自分達が拾うだけでは収まらない事実も分かった。
・私たちの住んでいるこの地域も日本や地球の一部だから大切にしていきたいと思った。地域のごみについて興味がある。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：環境ウォッチングで提案づくり（公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団））、学校周辺ごみ調査隊～地域の未来のためにどんな大人になりたいか～（特定非営利活動法人くすの木自然館）

愛知県

メダカがいっぱいの板山を取り戻そう

地域プログラム化メンバー：日本福祉大学国際福祉開発学部、愛知教育大学理科教育講座、半田市立板山小学校、名古屋ユネスコ協会、愛知県教育委員会生涯学習課、愛知県環境部、名古屋市環境局、NPO法人ボランタリーネイバーズ、株式会社対話計画
実証協力校等：半田市立板山小学校

ESDの要素：多様性　相互性　連携性　責任性

能力／態度：批判　未来　参加

プログラムの概要

板山小には、15年程前に地域の人によってつくられたビオトープがある。しかし、今は生き物が棲みにくい環境になっている。児童は現状に向き合い、学校のビオトープがどうなったらよいのか、生き物が棲みやすい環境を取り戻すにはどうしたらよいのか、自分たちには何ができるのかを考える。さらに、つくられた当時の地域の人の思いを知り、地域とのつながり、生き物と人間、環境とのよい関係性を見つめる。ビオトープづくりの専門家、生き物に詳しい地域の人の話を聞き、学習を深め、「こうしたい」という思いを他学年の児童や地域に発信し、地域と学校が一緒になってビオトープの取組を未来へつなげる。地域に誇りを持ち、地域の自然環境を主体的に守る児童を育む。

プログラムの目標

①ビオトープの水質環境の改善や再生活動に対して関心をもって取り組もうとする。
②板山小の過去から現在の歩みの中で、地域の人の思いを知り、ビオトープの未来（再生）に向けた計画を立てることができる。
③ビオトープの改善方法についての話し合い活動を通して、ビオトープの再生に向けた課題を追究することができる。
④自分たちがしてきた再生活動や水質環境の改善のための取組をまとめ、地域の人に伝えることができる。
⑤よい環境を持続するために、日常生活を見直し、自分でできることを考え、生活に活かすことができる。

①

②

③

①こんなビオトープにしたい!
②メダカがくらすためには・・・
③みんなで作業しました

参加者の声

・森の学校のすばらしさを未来へずっと受けついでいきたい。
・きれいなビオトープにして、地域の人が集まるいこいの場にしたい。
・人間のせいでメダカをはじめ、神戸川にいる生き物がすめなくなっている。人間の努力で生き物がすみやすい環境をとりもどしたい。
・ザリガニを殺さずにビオトープから出すにはどうしたらよいかを考えた。

プログラムの流れ

1時間目
ビオトープの環境を知ろう
2時間目
板山小の過去、地域の人々の思いを知ろう
3時間目
ビオトープの今後について考えよう
4時間目
ビオトープの再生方法について話し合おう
5時間目
ビオトープの再生計画を立てる
6～11時間目
ビオトープを再生しよう
12時間目
水質環境の向上のための取組について考えよう
13・14時間目
考えた取組を実践しよう
15時間目
発表会の計画を立てよう
16～21時間目
発表の準備をしよう
21～23時間目
発表会
24・25時間目
まとめをしよう

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう（豊田市立西広瀬小学校）

三重県

リサイクルのジレンマ

～リサイクルは持続可能な社会を実現するのに必要か～

地域プログラム化メンバー：三重大学教育学部、四日市市立中部中学校、四日市市教育委員会、環境教育ネクストステップ研究会、四日市大学エネルギー環境教育研究会、三重県環境生活部、NPO法人ボランタリーネイバーズ、株式会社対話計画
実証協力校等：四日市市立中部中学校

ESDの要素：相互性　有限性　責任性

能力／態度：批判　未来　多面　伝達

プログラムの概要

これまで学んだ環境に関する内容を捉えなおし、環境教育の重要性を理解するための「中学生版ＥＳＤカレンダー」を作成する。さらに、地元企業が取り組む環境活動や環境技術を学び、多様な主体が持続可能な社会に向けて事業を展開していることを知る。さらに、企業が取り組む資源循環利用の仕組みや技術が持続可能な社会、循環型社会形成のために有効なのかを問う参加型討論を行う。多様な意見や価値観を交わすことで、１つの解が出せない課題をもつ社会の現状に気づき、社会の一員として、当事者としてこの問題にどう関わるかを考える授業とする。そのために、必要な資料を検討し、行政や企業への聞き取りを行い、それらを根拠に意見をまとめ、文化祭で発表する。

①ぼくはこう考える
②え、でもそれって…
③本当はどちらがいいんだろう？

プログラムの目標

①これまでの環境教育、特にリサイクルの学習から、持続可能な社会を実現するために、リサイクルが有効であるかどうか、メリット、デメリットについて話合いを行い、「リサイクル」に関する理解を深める。
②持続可能な社会の実現に向けて、多様な考えによる意見交換、判断、改善といったプロセスを通して、答えが一つではないことを知る。
③明快な答えがない学習（ＥＳＤ）の重要性を知る。

参加者の声

・リサイクルには良い点と欠点があり、欠点をそのままにしてリサイクルを進めることは環境に良くないと思うので、良い点を活かし、欠点をできるだけなおしたリサイクルの新たな方法を見つけなければならないと思う。
・リサイクルをしないと環境に悪いし、リサイクルをしてもコストがかかる。すごく難しい問題だけど、学び続けることが大切だと思った。
・一人一人が意見を交換することによって、多くの意見が出てきて、いろいろな視点から見ることができる。

プログラムの流れ

１時間目
ESDガイダンス
２・３時間目
【ESD環境教育・・単元さがし】ESDカレンダー中学生版をつくろう
４時間目
企業連携授業①（総合的な学習）
５時間目
企業連携授業②（理科）
６・７時間目
討論「持続可能な社会を実現するためにリサイクルは有効か？」
調べ学習「身近なリサイクル」
８・９時間目
リサイクルについて学ぶ「リサイクルのジレンマ～リサイクルは持続可能な社会を実現するのに必要か」
10時間目
環境のジレンマ～私たちが学ぶこと～

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：産業と環境の共生を考える～大気汚染公害の歴史から、問題解決にむけた人間の行動を学ぶ～（公益財団法人水島地域環境再生財団）

解説【3】ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度（例）

ESDで重視する能力・態度として、7つの例を示しています。この能力・態度と関わらせながら、単元目標や授業目標を設定することで、ESDの視点に立った学習指導が展開できます。ただし、能力・態度はこれらに限定されるものではありません。

①批判的に考える力

批判

・合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に施行・判断する力

＜具体例＞
○他者の意見や情報を、よく検討・理解して採り入れる
×得られたデータや考え方を鵜呑みにする
○積極的・発展的に、よりよい解決策を考える
×消極的・悲観的に考え、すぐに諦めて、答えだけを得ようとする

②未来像を予測して計画を立てる力

未来

・過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力

＜具体例＞
○見通しや目的意識を持って計画を立てる
×無計画にものごとを進めたり、その場しのぎをしたりする
○他者がどのように受け取るかを想像しながら計画を立てる
×独りよがりにものごとを進めてしまう

③多面的、総合的に考える力

多面

・人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり（システム）を理解し、それらを多面的、総合的に考える力

＜具体例＞
○廃棄物も見方によっては資源になると捉えることができる
×役に立たないものは不要だと考える
○様々なものごとを関連付けて考える
×まとまりがなく、断片的な見方をする

④コミュニケーションを行う力

伝達

・自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力

＜具体例＞
○自分の考えをまとめて簡潔に伝えることができる
×他者の意見の欠点ばかりを指摘し、自分の考えを言わない
○自分の考えに、他者の意見を取り入れる
×他者の意見を聞こうとしない

⑤他者と協力する態度

協力

・他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度

＜具体例＞
○相手の立場を考えて行動する
×自分のことしか考えない
○仲間を励ましながらチームで活動する
×身勝手な行動、同調しない態度をとる

⑥つながりを尊重する態度

関連

・人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度

＜具体例＞
○自分が様々なものごととつながっていることに関心をもつ
×自分に直接関係のあることしか関心がない
○いろいろなもののお陰で自分がいることを実感する
×自分は一人で生きていると思い込む

⑦進んで参加する態度

参加

・集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度

＜具体例＞
○自分の言ったことに責任をもち、約束を守る
×無責任な行動ばかりで、きまりを守らない
○進んで他者のために行動する
×自分が得をすることしかしない

国立教育政策研究所　教育課程研究センター
「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」より

近畿ブロック

過去から現在、そして未来へと、いのちをつなぎ、自然と共に生きる暮らしの英知を受け継いでいく。
「住み続けたい」と思えるまちづくりに向けて。
平成27年9月に「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」が制定され、琵琶湖は国民的資産と位置づけられました。
＜湖中から見た琵琶湖鮎の群れ＞
（写真提供：城者定史（水中写真家／大阪地区プロデューサー））

近畿ブロック

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

近畿ブロックの概要

地域を教材にしたESDを地域総がかりで進める

プログラム作成・実証では、地域プロデューサーを中心に、多様な主体間の協働による地域教材化及びESDを進める基盤整備を進めました。また、未就学児親子向けのESD体験学習、実証協力校の子どもたちによる活動発表交流会、実証協力校教員および多様な主体が参加するフォーラムを実施し、ESDを地域総がかりで進めるしくみづくりを行ないました。

①琵琶湖での未就学児親子向けESD体験学習
②実証協力校児童による「ESDこども活動発表交流会」
③実証協力校教員および多様な主体が参加した「近畿ESDフォーラム2016」

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

“ESD学びのプラットフォーム”の創出

学校教員、自治体環境政策担当者、教育委員会指導主事はじめ地域の多様な主体からなる「ESD学びのプラットフォーム」を各地域で継続しました。プラットフォームでは、地域教材化を通した感動体験の共有が、教員のESD環境教育への意欲向上に寄与することが確認できました。また、地域教材化に関心はあるが、地域とどう関わればよいか分からない教員に向けて、「ESD応援セミナー」を各地域で開催しました。セミナーでは、地域の環境に関する情報提供や、教員が学習ストーリーを構築する際の助言、専門性を活かした外部講師としての指導補助などの教員支援を行なうことで、驚きや発見につながる相互参照機会となり、教員の感動を促せることが確認できました。

地方事務局

一般社団法人　コミュニケーションデザイン機構

実行委員メンバー

ブロック実行委員/地域プロデューサー

	所属	役職	氏名
有識者	奈良教育大学	名誉教授	長友　恒人
有識者	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟	理事	米田　伸次
滋賀地区プロデューサー	元滋賀県環境学習センター／山内エコクラブ	所長／理事	井阪　尚司
京都地区プロデューサー	京都教育大学　教職キャリア高度化センター／社会科学科	センター長／教授	水山　光春
大阪地区プロデューサー	大阪ECO動物海洋専門学校	教務副部長	城者　定史
兵庫地区プロデューサー	宝塚市自然保護協会／自然体験教育研究所	会長／主宰	足立　勲
奈良地区プロデューサー	奈良教育大学　次世代教員養成センター	准教授	中澤　静男
和歌山地区プロデューサー	和歌山県立自然博物館	主査学芸員	平嶋健太郎

本事業にご参画・ご協力いただいた皆様

地域	団体名 or 所属・氏名
滋賀地区	日野町立日野小学校、滋賀県 環境政策課、滋賀県教育委員会 学校教育課、日野町役場 住民課 生活環境交通担当、日野町教育委員会 学校教育課、社会福祉法人わたむきの里、日野町商工会女性部、日野町学生服体操服販売組合、日野町エコライフ推進協議会、日野町PTA連絡協議会、岡部達平氏（体操服！「いってらっしゃい、おかえりなさい　プロジェクト®」）
京都地区	京都市立池田小学校、京都府 環境総務課、京都府教育委員会 学校教育課、京都市 環境総務課、京都市教育委員会 学校指導課、淀川管内河川レンジャー、地域ボランティア
大阪地区	枚方市立招提小学校、大阪府 環境農林水産部 エネルギー政策課、大阪府教育委員会 小中学校課、枚方市 環境保全部 環境総務課、枚方市 環境事業部 減量業務室、枚方市教育委員会 教育指導課、大阪海さくら
兵庫地区	宝塚市立西山小学校、兵庫県 環境政策課、兵庫県教育委員会事務局 義務教育課・阪神教育事務所 教育振興課、宝塚市 環境政策課、宝塚市 水政課、宝塚市教育委員会事務局 学校教育課、NPO宝塚市自然保護協会
奈良地区	奈良市立済美小学校、奈良市立伏見小学校、奈良県 くらし創造部 景観・環境局 環境政策課、奈良県教育委員会 学校教育課、奈良市 環境部 環境政策課、奈良市教育委員会事務局 学校教育課、奈良教育大学次世代教員養成センター、奈良の鹿愛護会、春日大社
和歌山地区	印南町立清流小学校、和歌山県 環境生活総務課、和歌山県教育委員会 義務教育課、印南町 生活環境課、印南町教育委員会 教育課、NPOビオトープ切目川

問い合わせ先

近畿環境パートナーシップオフィス（きんき環境館）
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31　OMMビル5階
TEL：06-6940-2001、FAX：06–6940–2022
E-mail：office@kankyokan.jp

滋賀県

エコでつなぐ私の夢

～体操服からウエディングドレスへ～

地域プログラム化メンバー：滋賀地区プロデューサー、日野町立日野小学校、滋賀県環境政策課、滋賀県教育委員会学校教育課、日野町役場住民課生活環境交通担当、日野町教育委員会学校教育課、社会福祉法人わたむきの里、日野町商工会女性部、日野町学生服体操服販売組合、日野町エコライフ推進協議会、日野町PTA連絡協議会、体操服！「いってらっしゃい、おかえりなさい　プロジェクト®」メンバー
実証協力校等：日野町立日野小学校

ESDの要素　相互性　有限性　連携性

能力／態度　批判　多面　関連

プログラムの概要

日野町は、天秤棒を担いで全国を行商し、「売り手よし・買い手よし・世間よし」とする「三方よし」の経営哲学を編みだした近江商人の発祥の地の一つである。日野小学校は、「三方よし」の精神を教育のベースに位置づけ、環境保全、自然愛護、環境倫理の3本柱による環境学習をPDCAサイクルで進めている。

本ESDプログラムは、エネルギー資源や物を大切にすることを通して環境保全を進めることとの関連や、人間も環境構成員の一員であるという自覚を持ち、「もったいない」意識の態度化を日常的に行うために環境倫理を確立することと関連する。子どもたちにとって身近な体操服を題材にして、モノの「いのち」と「役割」について考え、将来のウエディングドレスへの活用まで考える。

プログラムの目標

①モノの「いのち」と「役割」について考え、原料まで戻すリサイクルの仕組みについて知る。
②低炭素社会の実現に向けて学んだことや活動したことを多くの人に伝える。
③地球温暖化に対する課題解決と環境創造に向けた実践力を身につける。

1

2

3

①・③体操服をリサイクルした時の効果～CO_2削減量はドッジボールの何個分？
②グループで調べたことを交流

参加者の声

・体操服が一度はリサイクルできるが、後は燃やされることが分かった。原料まで戻して再生産できる技術があることは、すごいと思った。
・化石燃料を燃やしすぎて地球の温暖化が進んでいる。資源の無駄遣いをやめて命が守られる社会をつくっていきたい。
・この前、日野の街で結婚パレードがありました。人力車にウエディングドレスを着た花嫁さんが乗っていました。とてもきれいでした。私の結婚式には、体操服をリサイクルしたドレスが着たいと思いました。

プログラムの流れ

1時間目
　身の回りに目を向けよう
2～4時間目
　資料を生かして考えたことを書こう
5時間目
　物を生かす工夫をしよう
6時間目
　体操服をリサイクルしよう
7・8時間目
　環境と私たちのくらしを考えよう
9・10時間目
　未来のウエディングをデザインしよう
11時間目
　未来のドレスを発表しよう

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：ゴミ減らし大作戦 ～ゴミを減らすルールを作ろう！～（くらし創造工房）、日本に古くから伝わる赤ちゃんのお世話で美しい地球を救おう（おむつなし育児研究所　東京サロン）

京都府

ふるさとの川　山科川をみつめて

地域プログラム化メンバー：京都地区プロデューサー、京都市立池田小学校、京都府環境総務課、京都府教育委員会学校教育課、京都市環境総務課、京都市教育委員会 学校指導課
実証協力校等：京都市立池田小学校、淀川管内河川レンジャー、地域ボランティア

ESDの要素　多様性　相互性　責任性

能力／態度　未来　伝達　参加

プログラムの概要

普段登下校時などに何気なく見ている山科川を意識的に観察する機会を設け、自分たちの地域を流れる川の実態をもっと知りたい、詳しく調べたいという思いを育む。生息する動植物や水の汚れ具合を実地調査することにより、自然愛護や環境問題についての関心を高める。自分たちの関わりの深い川であるがゆえに、「自分たちの手で山科川を守りたい。」という行動化につながる。まず、自分にできる事はないかと生活を見つめ直すきっかけとなる。そして、自分たちで計画を立て、より効果的な方法で学習成果を発信できるよう情報を収集し、全校に発信するとともに地域への発信にもつなげる。

プログラムの目標

①山科川の水質と生息動物の関係を調べる活動を通して生き物の多様性について考え、環境を守ろうとする態度を育てる。
②課題解決のために必要な情報を収集するとともに、協力して効果的な表現の仕方を考える。
③身に付けた考え方や解決の方法を自分の生活の中に活かし、生活を見直していくことができる。

①河川レンジャーの方を招いての講演会
②アクアスコープを使用しての水中観察
③全校集会での池田クリーン宣言

参加者の声

・生き物がたくさん住んでもらえるようにするためには、まず川をきれいにしていく。
・山科川のごみ拾いや、地域のごみ拾いをしているけど、もっと山科川の事を大切にしたいと思った。
・学習を通して子どもたちが、学習課題や問題解決に対して意欲的に取り組むようになった。

プログラムの流れ

1・2時間目
山科川について調べよう
3～5時間目
山科川が本当にきれいなのか調べよう
6・7時間目
「自分たちの手で守ろう山科川」を提案しよう
8・9時間目
地域の人やお家の人にアドバイスをもらおう
10～12時間目
「自分たちの手で守ろう山科川」を実行しよう

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：川は自然の宝箱（多摩市立連光寺小学校）、環境ウォッチングで提案づくり（公益財団法人　公害地域再生センター（あおぞら財団））、身近な自然と「水」と「生き物」のつながり（特定非営利活動法人　くすの木自然館）、学校周辺ごみ調査隊～地域の未来のためにどんな大人になりたいか～（特定非営利活動法人　くすの木自然館）

大阪府

淀川から繋がる魚庭（なにわ）の海を考える

地域プログラム化メンバー：大阪地区プロデューサー、枚方市立招提小学校、大阪海さくら、枚方市環境保全部環境総務課
実証協力校等：枚方市立招提小学校、大阪海さくら

ESDの要素：多様性／相互性／責任性
能力／態度：未来／多面／参加

プログラムの概要

大阪府枚方市は、その昔は、大阪から京都を繋ぐ淀川の中継地点として、宿場町として栄えた。枚方は、大阪湾まで距離があるが、淀川が大阪湾に繋がっている事を意識し、自分たちの地域の環境が海にも影響を及ぼしている事をプログラム通して学び、自分たちは何をすればいいのかを考える。まずは身近なごみの話から海の環境へと結び付け、自分たちの地域から考えるきっかけを与える。

プログラムの目標

①自分たちが出すごみについて学び、そのごみに関連付けて考えを深める。
②大阪の海と淀川のつながりを認識する。
③アマモが海に果たす役割を知る。
④アマモを育て・観察し、観察記録を作成する。
⑤クラスの友だちのアマモの成長の様子や条件を比較し、アマモの生育条件について考える
⑥疑問に思ったこと、分からないことをどうしたら解決できるかを考え、行動に移す。

①授業風景（海の話・ゴミの話・アマモの話）
②手のひらにのせたアマモの種
③アマモの育成キット

参加者の声

・近所の川のごみが大阪湾まで流れているとは思っていなかった。
・お父さんとよく釣りに行くので、アマモがたくさん育って欲しいと思った。
・アマモだらけの海になれば良いと思った。
・アマモを大事に育てていきたい。魚がよろこんでくれるといいなあ。
・魚だけにきょうみがあったけど、海草とかにもきょうみがわいてきた。
・アマモを初めて知っていやくめをしていることがわかった。ごみとかをへらしたいと思った。ごみをへらしたい理由は海をきれいにしたいと思ったから。

プログラムの流れ

1時間目
私たちの身近な環境を理解する
2時間目
自分たちの生活と大阪湾との関わりを理解する
3時間目
アマモについて理解する
4時間目
アマモを育成する手順を理解する
5時間目
観察する力を養う
6時間目
大阪湾の生き物を知る

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：里海を蘇えらせるには、稚魚のゆりかご「アマモ」場の再生から（相生湾自然再生学習会議）

兵庫県

逆瀬川たんけん

～逆瀬川のふしぎ発見！～

地域プログラム化メンバー：兵庫地区プロデューサー、宝塚市立西山小学校、兵庫県環境政策課、兵庫県教育委員会事務局義務教育課・阪神教育事務所教育振興課、宝塚市環境政策課、宝塚市水政課、宝塚市教育委員会事務局学校教育課、NPO宝塚市自然保護協会
実証協力校等：宝塚市立西山小学校、NPO宝塚市自然保護協会

ESDの要素：多様性　相互性　有限性

能力／態度：多面　協力　関連

プログラムの概要

生態系自然素材である逆瀬川の探検学習を通して、校区の河川などを中心とする生物の現状と課題を体験的に学ぶとともに、地域に向けて情報発信していく。

1・2年生では、生活科を中心に昆虫など身近な生物の観察、飼育を通して五感で学び、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようになる。

3年生では逆瀬川を中心とする野外の生き物探検を春夏秋冬と継続して観察する。ここで宝塚市自然保護協会などの支援協力を得て、動植物の同定や生息環境、生態系について解説を聞き、体験と知識を結び付けた学習を展開する。児童は虫の生態についての基本的な内容を理科で学習するとともに、道徳で命の大切さを学ぶ。社会科では、宝塚市内の里山について、地理的な違いの学習や自然観察を行い、逆瀬川との比較について目を向ける。また、川の堰堤についての価値を知るとともに、歴史的な背景についても学ぶことができる。最終的には逆瀬川についての科学的・歴史的な学びをそれぞれの形式でまとめ、地域や下学年への引き継ぎ発表会も行っている。

①ゲストティーチャーから川を学ぶ
②川探検での発見をまとめる学習
③多様な水生生物との出会いで判る水質の程度

プログラムの目標

①逆瀬川の生物種の多様性に気づき、河川環境と私たちの生活との関係を学ぶ。
②生物の生息環境としての河川のつくりに関心をもち、調べ、保全しようとする態度を培う。
③先人が築いた自然石積み上げによる砂防工事は人間のためであったが、いまやそれは生物多様性に貢献していることに考えが及ぶようにする。

参加者の声

・冬の逆瀬川には生き物はいないと思っていたけど、いろんな形でいのちをつないでいてびっくりした。
・毎日見ている川が、昔に苦労して作って、阪神淡路大震災にもびくともしない川だったのですごいと思いました。
・川の先生がたくさん教えてくれたので、とてもわかりやすかった。休みの日にもお家の人といっしょに逆瀬川に行きました。

プログラムの流れ

1・2時間目
逆瀬川を探検しよう
3時間目
逆瀬川のふしぎを出し合い、課題を見つけよう
4～8時間目
逆瀬川について調べよう
9・10時間目
逆瀬川のふしぎをまとめよう
11・12時間目
研究発表をしよう「広めよう・深めよう！逆瀬川のふしぎ」

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：川は自然の宝箱（多摩市立連光寺小学校）、身近な自然と「水」と「生き物」のつながり（特定非営利活動法人　くすの木自然館）、里山たんけん隊（特定非営利活動法人　きんたろう倶楽部）

奈良県

奈良の人とシカの共生を考える

地域プログラム化メンバー：奈良地区プロデューサー、奈良市立済美小学校、奈良市立伏見小学校、奈良市環境部環境政策課、奈良市教育委員会事務局学校教育課、奈良教育大学
実証協力校等：奈良市立済美小学校、奈良市立伏見小学校、奈良の鹿愛護会、春日大社

ESDの要素：多様性 相互性 責任性
能力／態度：批判 未来 多面

プログラムの概要

奈良の子どもにとって、奈良のシカは「当たり前」の存在である。しかしよく考えてみると、なぜ奈良公園にだけ人に慣れたシカが生息しているのだろうか。知っているつもりになっていることに鋭く切り込み、子どもたちの探求意欲に火をつける。また、シカがいなかったら奈良公園の自然は今と同じだろうかと考えさせることで、奈良公園のシカと自然環境の関わりに気づかせる。さらに、シカと観光客のトラブル、交通事故、観光客の捨てたごみによるシカの病気、農作物や春日山原始林でのシカによる食害など、シカを中心に様々な調査を行うことで、多面的思考を養う。そして、奈良のシカに関わりのある人々へのインタビュー調査によってシカに対する思いを知り、10年後にも奈良公園がシカの生息地であり続けるために、自分たちができることを考え発信した。

プログラムの目標

①奈良公園の自然観察を通して、奈良公園の自然環境とシカが相互に関係していることに気づき、さらにシカについて積極的に調べようとする。
②奈良公園のシカと自然環境のバランスや、観光客や奈良の人とシカの関わりなど、シカを中心に多面的に考え、自らの考えを発信する。
③10年後の奈良公園の自然環境やシカについて予想し、その実現のために自分ができることに取り組む。
④観光客や土産物店の方、奈良の鹿愛護会、春日大社、奈良の地元の方々など、様々な人から奈良のシカへの思いを聞き取り、自分の考えをつくることができる。

①両校の学校間交流・共同調査
②奈良公園での自然観察会
③奈良のシカの歴史を春日大社で勉強中

プログラムの流れ

1時間目
奈良公園について知っていることを交流しよう
2・3時間目
奈良公園で自然観察会をしよう
4時間目
奈良公園にシカがいる理由を考えよう
5・6時間目
奈良公園のシカについて調べよう
7～9時間目
奈良の鹿について学びを深めよう
10時間目
人々と奈良公園のシカが、なぜ今も共生できているのかを考えよう
11時間目
10年後も人とシカが共生できるために、自分にできることを考えよう
12時間目
シカ守り隊のプランを発信しよう

参加者の声

・シカのことを大切に考える人がたくさんいる。これからもこういう人がどんどん増えていけばいいと思いました。
・まわりにいる色々な人に愛されて守られているから、奈良公園にシカがいるのだと思う。
・色々な人からかわいがられている。居心地がいいからずっといるんだと思う。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：生き物たちとの持続可能な社会を考えよう（自然調和型社会学習プログラム）（岡崎市立新香山中学校）

和歌山県

私たちの切目川

地域プログラム化メンバー：和歌山地区プロデューサー、印南町立清流小学校、印南町生活環境課、印南町教育委員会教育課、NPOビオトープ切目川
実証協力校等：印南町立清流小学校、和歌山県立自然博物館、NPOビオトープ切目川

ESDの要素　多様性　有限性　責任性

能力／態度　多面　協力　参加

プログラムの概要

清流小学校は、切目川流域に多くの学区をもつ小学校である。かつては熊野古道の往来や林業等で賑わった地域であるが、昨今は高齢化と過疎化が進み、産業活動やコミュニティの維持が難しくなってきている。今回は、この切目川にすむ生物に触れることで、森と海のつながり、さらには人と自然、川の上流と海辺の地域との結びつきを明らかにし、現在の切目川の問題点を再確認した。

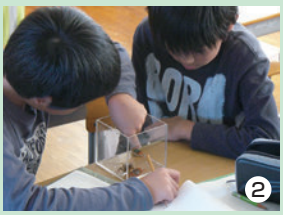
そのうえで、問題の多くは人が解決できる事、遠くの地域の問題と自分たちの住む地域の問題が繋がっている事、昔からの問題を解決しようとして、今の姿がある事を実感し、未来のあり方や持続的なエネルギー循環を保つ方法を考察し、児童がお互いに意見交換することで、今後の自分たちの地域のより良いあり方、自分たちの関わり方を考えた。

プログラムの目標

①フィールドワークを元に切目川の生物の豊かさと海、森のつながりを理解する。
②過去の水害や山林の荒廃、生物の減少などの聞き取りや調査を自主的に行い、自主的に参加する意識を持つ。また、地域の自然、文化の再発見を機に様々な問題意識を持つことができる。
③互いに意見を発表してより良い考察を得るとともに、自分たちの地域について愛着と興味を持ってこれからの自分たちの関わり方を考える。

参加者の声

・切目川には思っていたよりたくさんの生き物がいて驚かされた。
・生き物は、その場所だけでなく、まわりの環境と深く関わりあっていた。
・切目川を守るため、切目川を今以上に知って、大事にしていきたいと思った。

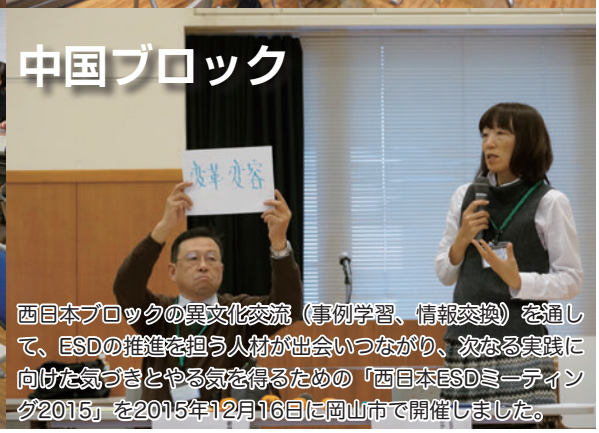


①川での生き物採集　さっそく採れました！
②つかまえた生き物の観察
③切目川の自然の今と昔を比べてみる（発表形式）

プログラムの流れ

1・2時間目
切目川の生き物を調べよう
3時間目
切目川の生き物について知ろう
4時間目
これからの切目川について考えよう

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：里山たんけん隊（特定非営利活動法人　きんたろう倶楽部）、 ホタルを通して里山環境を考える〜中学生による生物多様性を考えた環境再生プログラム〜（小野学園女子中学・高等学校）



中国ブロック

西日本ブロックの異文化交流（事例学習、情報交換）を通して、ESDの推進を担う人材が出会いつながり、次なる実践に向けた気づきとやる気を得るための「西日本ESDミーティング2015」を2015年12月16日に岡山市で開催しました。

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

中国ブロック

中国ブロックの概要

「ふるさと学習×持続可能な地域づくり」

学校と地域の協働による学びの場づくりを通して、大人と子どもがいっしょに地域の課題や未来について考え学びあいながら、豊かな地域づくりに向けた実践と担い手の育成に取り組みました。

①ESD学びあいフォーラムin山口
②ESD学びあいフォーラムin島根
③実行委員会

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

「ESDコーディネーターの育成と学校の周縁化」

中国地方においてESD・環境教育分野に取り組んでいる団体等を各県のESDコーディネーターとして、ワーキンググループの立ち上げや実証校等の選定、関係者の人材育成を行いながら、地域性を活かしたESD環境教育プログラムの実証・検証を実施しました。

また、それらの実践を通して、学校から地域に出かけていく働きかけを行い、学校・地域等の教育現場でESDを推進するためのパートナーシップ構築（小・中学校、高等学校、教育委員会、自治体、NPO（環境、教育、地域づくり、ツーリズム）、農・産業従事者、地域おこし協力隊、ESD専門家、大学生）を図りました。

地方事務局

特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター

実行委員メンバー

ブロック実行委員

所属	役職	氏名
人間科学研究所	所長	志賀　誠治
広島修道大学人間環境学部	教授	西村　仁志
広島県教育委員会事務局教育部義務教育指導課ESD担当	主任指導主事	小原　正啓
株式会社中国新聞社	論説委員	石丸　　賢
中国環境パートナーシップオフィス（EPOちゅうごく）	コーディネーター	岩見　暢浩
特定非営利活動法人ECOフューチャーとっとり	副理事長	山本ルリコ
公益財団法人しまね自然と環境財団	課長	葭矢　崇司
岡山市京山地区ESD推進協議会	会長	池田　満之
環境教育事務所Leaf	代表	河野　宏樹
公益社団法人日本環境教育フォーラム	理事	徳永　　豊

ワーキンググループ

地域	団体名 or 所属・氏名
鳥取県	志子部地区モデル交流体験事業実行委員会、八頭町地域おこし協力隊、小学校教員、大学生（鳥取環境大学）、八頭町立八頭中学校、特定非営利活動法人ECOフューチャーとっとり
島根県	浜田市立雲城公民館、浜田市立雲城小学校、ハッチョウトンボを守る会、島根県立浜田高等学校、浜田市市民生活部環境課、浜田市教育委員会、公益財団法人しまね自然と環境財団
岡山県	新庄村立新庄小学校、新庄村教育委員会、32’s cafe、岡山市京山地区ESD推進協議会
広島県	東広島市立入野小学校、広島県教育委員会、手島利夫（江東区立八名川小学校）、環境教育事務所Leaf
山口県	周南市立三丘小学校、スリー・ヒルズ・アソシエイツ、下郷農業構造改善組合、特定非営利活動法人ひろしまジン大学、公益社団法人日本環境教育フォーラム

問い合わせ先

環境省中国パートナーシップオフィス（EPOちゅうごく）
〒730-0011　広島市中区基町11-10　合人社広島紙屋町ビル5階
TEL：082-511-0720　FAX：082-511-0723
E-mail：info@epo-cg.jp

鳥取県

しこべ冬の暮らし体験キャンプ

地域プログラム化メンバー：志子部地区モデル交流体験事業実行委員会、八頭町地域おこし協力隊、社会人ボランティア（小学校教員）、大学生ボランティア（鳥取環境大学）、特定非営利活動法人ECOフューチャーとっとり
実証協力校等：志子部地区モデル交流体験事業実行委員会

ESDの要素：多様性　有限性　連携性

能力／態度：伝達　関連　参加

プログラムの概要

鳥取県東部の中山間地域にたたずむ志子部は、限界集落でありながら昔はどこでも見られた自然と向き合う里山の暮らしが現在も営まれ、持続可能なライフスタイルの知恵が詰まっている。本プログラムでは、将来を担う子ども達が志子部集落の住民と共に1日の暮らしを体験し、世代の異なる人との交流や自然に寄り添う生活を通じて、集落内では当たり前である自然を無視せず自らの手で暮らしを「つくり」、今日から明日へと「紡いでいく」持続可能な暮らしについて理解すると共に実践していくきっかけとする。

プログラムの目標

①志子部での暮らし体験を通して、「昔」と「今」や、「田舎」と「都会」といった価値基準だけでなく、「持続可能かどうか」をいう基準で日々の生活を見直すことができる。
②志子部の暮らしを体験し、集落の方々との交流の中でコミュニケーションを図ることができる。
③プログラム参加後、日常に戻った普段の生活で持続可能なコトが実践できる。

①地域で収穫したお米と、臼と杵を使ってお餅つき
②伝統の藁細工にチャレンジ
③体験の感想や学びを地元住民に発表

プログラムの流れ

1時間目
　地域を探検しよう
2～5時間目
　郷土料理をつくろう
6時間目
　郷土料理を味わおう
7～8時間目
　伝統の技を身につけよう
9～11時間目
　地域の暮らしを伝えよう
12時間目
　持続可能な暮らしを実践しよう

参加者の声

・志子部のいいところは、自然が自分の手に届きそうなくらい近くにあるところだと思った。
・機械を使わず、自分の力でやっているのがかっこいいと思いました。
・これから普段の生活に役立てたらいいなと感じました。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：自然の恵み（生態系サービス）を活用する体験学習（いぐねの学校）（国立大学法人宮城教育大学　小金澤研究室（仙台いぐね研究会））

島根県

ようせいの守人プロジェクト

地域プログラム化メンバー：浜田市立雲城公民館、浜田市立雲城小学校、ハッチョウトンボを守る会、島根県立浜田高等学校、浜田市市民生活部環境課、浜田市教育委員会、公益財団法人しまね自然と環境財団
実証協力校等：浜田市立雲城公民館

ESDの要素　相互性　有限性　責任性

能力／態度　未来　多面　参加

プログラムの概要

金城町雲城地区の一部地域に生息する希少野生生物「ハッチョウトンボ」は、地域有志による生息・観察環境の整備により、その個体数を維持しつつ毎年多くの見学客が訪れるスポットとなっているが、近年、生息地である湿地の遷移が進みトンボの生息が困難な状況に変わりつつある。そこで、本プログラムを通して、子どもと大人が一緒にハッチョウトンボの魅力を感じながら愛着を深め、今後もハッチョウトンボが飛び続ける環境を維持するために、他の生息地の視察学習や環境整備活動、地元住民への周知啓発を行い、人と自然が共生する地域づくりを目指す。

プログラムの目標

①地域の貴重な自然資源であるハッチョウトンボの生態や魅力について学び愛着を持つ。
②トンボの生息環境保全に関する知識を学び、自分たちでできる保全活動を考え実践する。
③地域の大人や高校生とともに学び考え実践する中で、地域と自分のつながりを実感し、持続可能な社会に向け主体的に考える意識を養う。

①

②

③

①高校生によるプロジェクト参加の呼びかけ
②先進地の取組の視察学習
③多様な立場や世代による作戦会議

参加者の声

・繊細な生きものだということがわかった。
・ハッチョウトンボを多くの人に知ってもらって、地域で大切に守っていくことが大事だと思った。
・ハッチョウトンボを守る仲間を増やしたい。

プログラムの流れ

1時間目
ハッチョウトンボの魅力を知ろう
2～5時間目
ハッチョウトンボの生息環境について知ろう
6～8時間目
ハッチョウトンボを守る作戦会議をしよう
9～11時間目
作戦を実行しよう

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：赤とんぼを通して地域の良さを見つけよう。（勝山市立荒土小学校）

岡山県

ふるさと学習プロジェクト「新庄の水」

地域プログラム化メンバー：新庄村立新庄小学校、新庄村教育委員会、岡山市京山地区ESD推進協議会
実証協力校等：新庄村立新庄小学校

ESDの要素　相互性　連携性　責任性

能力／態度　伝達　協力　関連

プログラムの概要

地域の自然・歴史・伝統・産業などを探究することを通して、ふるさとに誇りと愛着を持つとともに、地域に向けてアクションすることをねらいとした「ふるさと学習」において、水の流れをテーマとした活動を展開する。そこで、冬の雪山を散策して水の循環を学び、これまでお世話になった方々への恩返しや地域の伝統や暮らしを継承していくために、地元の農家の指導を受けながら栽培したヒメノモチ（もち米）を使った料理（お菓子）を作って配布することで、自分たちが学んだことや地域の魅力を、地元住民に対して伝える。

プログラムの目標

①自然の恵みや地域の暮らしを学びながら、水の循環と自分たちとのつながりについて理解を深める。
②特産品を活用して地域の新たな魅力を創り出し、お世話になった感謝の気持ちを込めて地元住民に伝える。
③地域の自然・歴史・伝統・産業とふれあうことを通して、ふるさとへの誇りと愛着を育む。

①ヒメノモチを活用した創作クッキング
②創作したパンケーキとクッキー
③冬の森で水の流れを探究するスノートレッキング

プログラムの流れ

1・2時間目
　ヒメノモチを使ってお菓子を作ろう
3〜6時間目
　冬の雪山に出かけてみよう
7・8時間目
　地域の方々と交流しよう
9・10時間目
　地域の方々に伝えよう

参加者の声

・ヒメノモチからはお餅が作れるだけかと思っていたけど、お菓子も作れることがわかった。
・いつもとは別のものがつくれたから村の役に立ったと思う。
・冬の山はぜんぜん景色がちがう。水がぐるぐるまわっていることがわかった。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：自然の恵み（生態系サービス）を活用する体験学習（いぐねの学校）（国立大学法人宮城教育大学　小金澤研究室（仙台いぐね研究会））

広島県

くらしと環境 自然を守れ！入野っ子！

地域プログラム化メンバー：東広島市立入野小学校、広島県教育委員会、環境教育事務所Leaf
実証協力校等：東広島市立入野小学校

ESDの要素：多様性／有限性／責任性

能力／態度：多面／協力／参加

プログラムの概要

入野小学校はユネスコスクール加盟校として、研究主題「学ぶよろこびを感じる入野っ子の育成」を掲げ、ESDの視点に立った研究と授業を進めている。そこで、4年生は「くらしと環境」をテーマに、ごみや水から考える環境問題を学んできた。本プログラムでは、更にエネルギーから考える環境問題を加え、ごみ、水、エネルギーの問題における生活環境の維持や向上について、自分たちができる取組を考え、学校全体のスクールエコ活動として他学年や地域への呼びかけたり、実践行動を展開する。

プログラムの目標

①自分たちの生活と環境の結びつきを考えることを通して、エネルギーの問題や省エネの取組について理解を深める。
②地域の一員として、地域の環境を守るために、自分たちができることを実践する。

①ICTを活用した総合的な学習の時間
②学習課題を見つけるための意見交換
③教員等を対象としたESD研修の実施

参加者の声

・エコ標語を作って、地域の方に省エネについて知らせたい。
・伝える相手や目的に合わせて、伝えるための方法や内容の量を考えていかなければいけない。
・地域の人の協力なしで自分たちの学習は進まないことを忘れてはいけない。

プログラムの流れ

1～2時間目
エネルギーの問題について調べよう①
～省エネ出前授業を通してエネルギー問題を学ぶ～
3～4時間目
エネルギーの問題について調べよう②
～省エネナビで電力使用量を調査する～
5～6時間目
学習したことを整理しよう
7～8時間目
省エネを実践しよう
9～10時間目
省エネを他学年や地域に呼びかけよう

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：これからのエネルギー生活を考えよう～電気に頼りすぎた生活を見直そう～（なごや環境サポーターネットワーク/三環の会（なごや環境塾三期生の会））

山口県

これからのまちとくらしをつくる子どもワークショップ

地域プログラム化メンバー：周南市立三丘小学校、スリー・ヒルズ・アソシエイツ
実証協力校等：周南市立三丘小学校

ESDの要素：相互性　連携性　責任性

能力／態度：伝達　協力　参加

プログラムの概要

少子高齢化や過疎化が進む中山間地域において、昨年度、こんなまちにくらしたい！を子ども目線で大人に提案した。その成果を継承する形で、児童が地域に提案したプロジェクトを実現化する（ずっとすみたくなる三丘をみんなでかなえる）。地元野菜を使った「かぼちゃ」「にんじん」「ピーマン」のジャムを開発し、ＰＴＡや地元行事の場において、保護者や地元住民に試食してもらうとともにプロジェクトに込めたメッセージを伝える。また、地域の竹林問題の対策として竹を活用したテントを制作し、卒業制作として在校生にプロジェクトと想いを継承する。

プログラムの目標

①三丘地域が子どもにとって住みやすい地域になるために何が必要かを考え、協力しながら課題を解決する力を養う。
②子どもにとって住みやすい三丘地域にするためのプロジェクトを地元住民といっしょに実現する。
③プロジェクトの実現化を通して、地域の魅力や課題、地域と自分のつながりについて実感する。

①かぼちゃ、にんじん、ピーマンのジャムづくり
②ジャムのラベルに込めたプロジェクトの想い
③PTAバザーで作ったジャムと石窯パンの試食会

プログラムの流れ

1時間目
　プロジェクトを実施するための計画を立てる
2～5時間目
　地元産の野菜を使ったジャムを作る
6～7時間目
　ジャムの試食会を開催する
8～10時間目
　竹林を活用した竹テントを制作する
11時間目
　竹テントを披露して、プロジェクトを継承する

参加者の声

・ピーマンジャムを初めて食べたし、ピーマンがジャムになることがわかった。
・保護者や地域の人にジャムをおいしく食べてもらえてうれしかった。
・自分たちが考えたプロジェクトを実現できたことと、地元の人が手伝ってくれたことがよかった。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：自然の恵み（生態系サービス）を活用する体験学習（いぐねの学校）（国立大学法人宮城教育大学　小金澤研究室（仙台いぐね研究会））

解説【4】学校における環境教育とＥＳＤへの取り組み

環境教育のねらいは、持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成です。持続可能な社会は、環境だけでなく、社会的公正や経済など幅広い領域と関係することから「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development=ESD）」ととらえ、多分野の教育を積極的に結びつけて取り組む必要があります。

発達への配慮

小学校低学年では、体験や感性が重要であり、学年が上がるに従い、課題発見と解決の実践力、行動を通じた思考・判断能力と、重点となるねらいが変化します。

また、環境教育では、課題を発見し、取り組み、結果をふりかえる一連の過程を経て、さまざまな能力が身につくよう設計することが重要です。

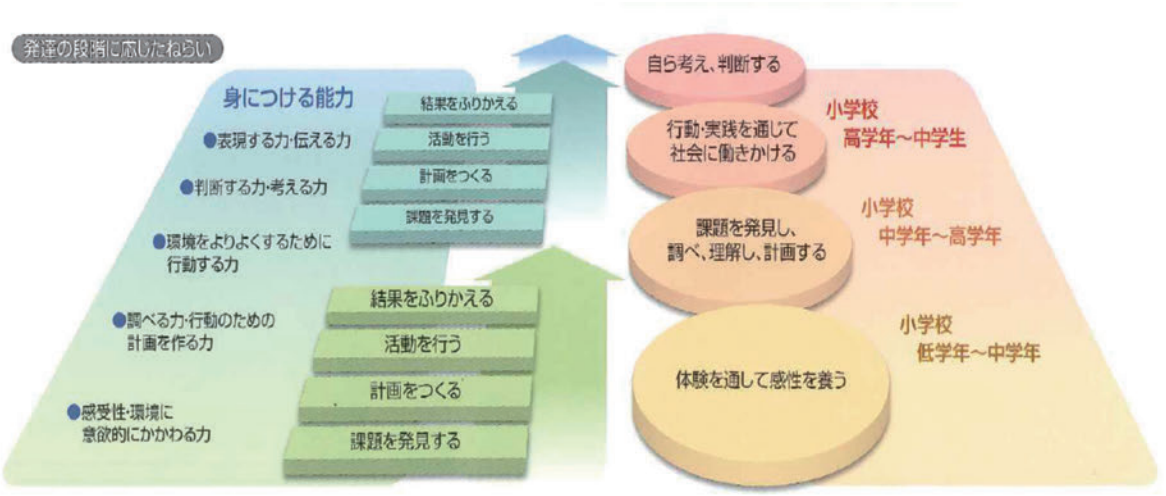
学校全体での取り組み

環境教育には、学校全体で取り組むことが不可欠です。各学校の目標、目指す児童・生徒像を踏まえたうえで、全教職員が環境教育にどのように取組、実践するかについて共通理解しておく必要があります。また、学年間・教科間での連携を積極的に図ることにより、環境教育の効果はより高められると期待されます。

地域・家庭とのかかわり

特に児童にとっては、地域の身近な問題に目を向けた内容を取り上げ、身近な活動から学習を始めることが有効です。

また、環境保全のための取り組みは、日常生活の中でも意識的に行っていくことが求められています。家庭や地域社会と積極的に連携し、学校で学んだことを家庭や地域社会での生活に生かすことができるよう配慮することが必要です。

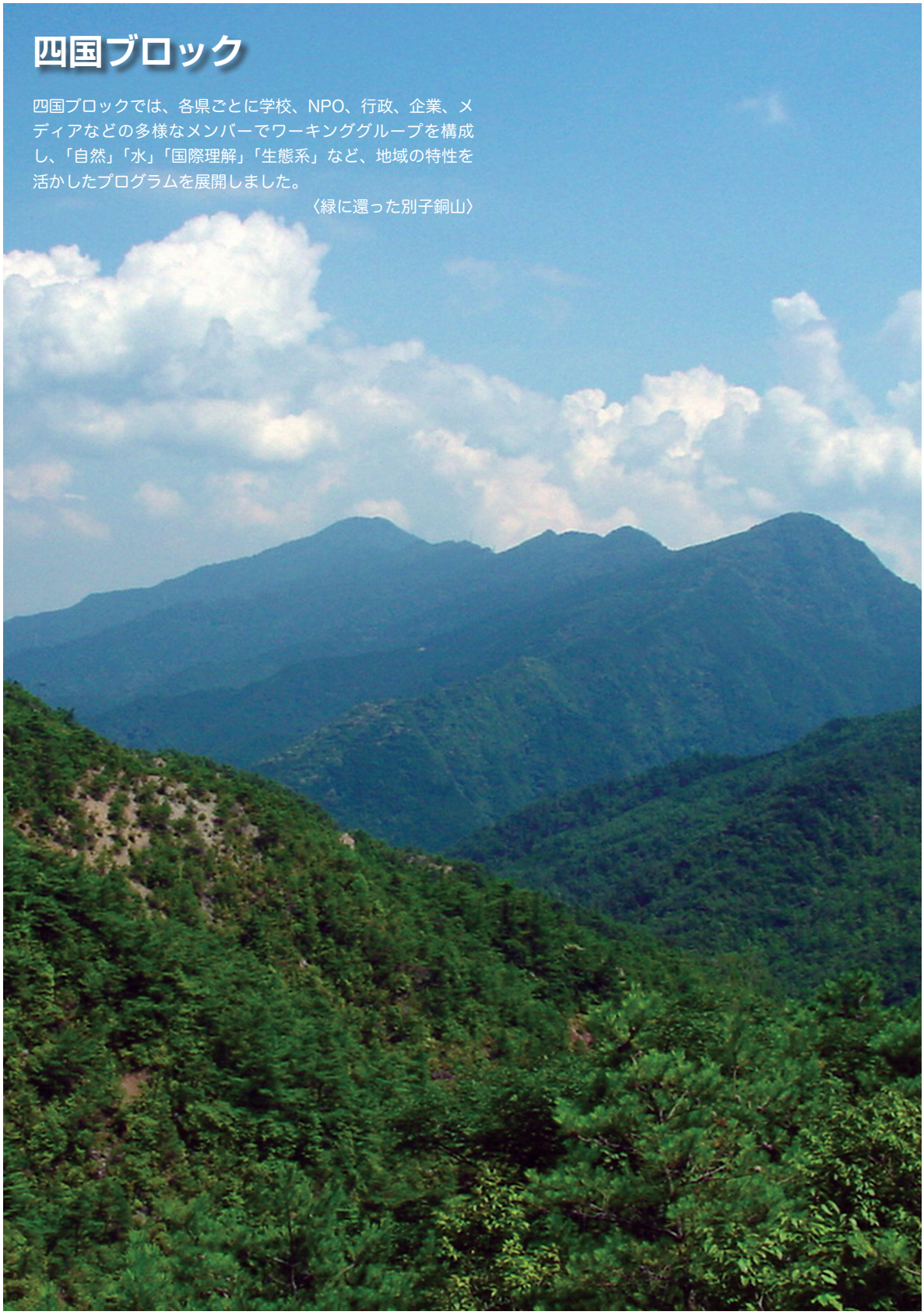


環境省「授業に活かす環境教育－ひとめでわかる学年別・教科別ガイドー」より

四国ブロック

四国ブロックでは、各県ごとに学校、NPO、行政、企業、メディアなどの多様なメンバーでワーキンググループを構成し、「自然」「水」「国際理解」「生態系」など、地域の特性を活かしたプログラムを展開しました。

〈緑に還った別子銅山〉



四国ブロック

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

四国ブロックの概要

冊子作成による「四国らしい」ESDの発信

各県実行委員会・ワーキンググループ、検証委員会を設置し、プログラムの作成・実証、評価の検討を行いました。また、四国各県での研修会を開催し、多様な関係者同士を繋げるとともに、四国のESD推進の教本となるべく3年間の事業内容を冊子にまとめました。

①第1回実行委員会
②第2回検証委員会

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

各県ESD研修で、多様な主体をつなぐ

各県のESD研修会を、学校関係者向けと一般向けに各県1～2回開催しました。学校関係者向けの研修ではESDを実践するためのノウハウを共有し、一般向けの研修では地域で活動する団体・個人がESDをキーワードにつながることができる場を提供しました。研修会で実施したワークショップでは、学校現場とESDの関わりや、地域とESDの関わりについて意見交換することで、参加者にESDの考え方が浸透したように思います。場所を問わず、現在の活動をESD的な視点で考えて取り組みを拡げる主体が増加することを期待します。

地方事務局

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク

ブロック実行委員/ワーキンググループ

地域	氏名・所属
徳島	近森憲助（鳴門教育大学副学長）、小澤大成（鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授）、細川威典（徳島県中学校理科教育研究会会長）、山﨑順一（特定非営利活動法人徳島環境カウンセラー協議会）、祁答院弘智(株式会社リレイション代表取締役)、土肥理（徳島県立富岡東中学校教諭）
香川	青木宏之（香川大学経済学部准教授）、井上修（四国EPO運営委員・善通寺こどもエコクラブ代表）、西勇気（香川県環境森林部環境政策課主任主事）、森永博文（西日本放送ラジオパーソナリティ）
愛媛	竹下浩子（愛媛大学教育学部准教授）、森源二郎（四国糧油株式会社取締役社長）、伊藤彰規（松山市環境部環境モデル都市推進課環境活動推進担当副主幹）、宇都宮由紀（松山市立新玉小学校教諭）、中尾順子（松山市立清水小学校校長）、村上理恵（松山市立清水小学校教諭）
高知	菊地るみ子（高知大学教育学部教授）、笹岡高志（株式会社ＲＫＣプロダクション相談役）、押岡茂紀（株式会社西日本科学技術研究所）、山下修（高知県林業振興・環境部新エネルギー推進課課長）、中山仰（学校法人清和学園清和女子中・高等学校教諭）、橋本美奈（学校法人清和学園清和女子中・高等学校事務）

検証委員会メンバー

地域	氏名・所属
徳島	近森憲助（鳴門教育大学副学長）、小澤大成（鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授）
香川	青木宏之（香川大学経済学部准教授）
愛媛	竹下浩子（愛媛大学教育学部准教授）
高知	菊地るみ子（高知大学教育学部教授）

問い合わせ先

環境省四国環境パートナーシップオフィス（四国ＥＰＯ）
香川県高松市寿町2-1-1高松第一生命ビル新館3階
TEL：087-816-2232　FAX：087-823-5675
E-mail：4epo@4epo.jp

高知県

未来の種

地域プログラム化メンバー：高知大学教育学部、株式会社RKCプロダクション、株式会社西日本科学技術研究所、高知県林業振興・環境部新エネルギー推進課、学校法人清和学園清和女子中学校、特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
実証協力校等：学校法人清和学園清和女子中学校

ESDの要素：多様性　連携性

能力／態度：多面　協力　参加

プログラムの概要

小麦の栽培の周期（秋に種まき、初夏に収穫）と、学校の年度の「ズレ」を活かし、前年度の生徒から次年度の生徒に活動や思いを「つなぐ」ことを大切にした。

食と農をテーマに、日本で昔から使われてきた種や植物の力を活かす土づくりについて学ぶとともに、生徒が収穫した穀物からお菓子をつくり、学園祭で販売する。また、収穫した種を未来に継ぐ活動を行うため、メッセージを添えて在来種の種を商店街で配布するとともに、次の年度に引き継ぐための種まきを行う。

プログラムの目標

①協力して収穫した穀物から食べ物をつくり、食の循環に気づく。
②食と消費生活との関連について考えを深める。
③収穫した穀物から種を集め、種を伝えつないでいく大切さに気づく。

①種団子
②小麦の種の保存について学ぶ
③緑肥植物の観察

プログラムの流れ

1時間目
　協力し合ってお菓子をつくる準備をしよう
2時間目
　土にさわろう
3・4時間目
　食べ物をつくり、販売してみよう
5時間目
　観察しよう
6時間目
　ギフトカードにメッセージを書こう
7・8時間目
　SEED 2 SEED　種まきをしよう
9時間目
　在来種の種を配布し、広げよう
10時間目
　ふりかえり

参加者の声

・植物は、微生物がいないと育たないことが分かりました。
・今まで土などをよく観察してみたことがなかったけど、どういう土、種がいいのか知ることができました。
・食事の際には、いっそう感謝して食べたいと思いました。
・生き物にも大切な役割があって、自然の中で育つ。森の木などもすごいと思いました。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：野菜は畑から（株式会社　アレフ）

香川県

自分の身近な自然とのつながり

地域プログラム化メンバー：香川大学経済学部、善通寺こどもエコクラブ、香川県環境森林部環境政策課、西日本放送ラジオパーソナリティ、かがわ環境カウンセラー協議会、善通寺市教育委員会、特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
実証協力校等：善通寺市立筆岡小学校

ESDの要素　多様性　相互性　公平性

能力／態度　多面　伝達　関連

プログラムの概要

昔の自然から今の身近な自然の変化までを感じる活動を通して、自然の多様性や相互のつながり、関わりに気づくプログラムで、紅葉を迎えて、葉っぱや樹木の姿が変化をすることに気づく体験を基に、学習発表会で使用する樹木模型の作成を行った。また発表会では、演劇「赤いろうそく」や「まっかな秋」「ふるさと」などの合唱を行い、より自然を身近なものとして児童がイメージを共有する中で、校内、保護者や地域の人々に向けて発表した。

プログラムの目標

①暮らしの中の四季の変化に気づく。
②昔の生活と今を比べて、違いを発見する。
③自然のつながりや関わりに気づき、地域の自然を大切にする心を育む。
④他者にわかりやすく伝える能力を育てる。
⑤活動を支援する地域の人や専門家との出会いや関わりを通して、コミュニケーション能力を高め、地域への帰属感を育む。

①葉を実際に触る
②昔の家と樹木の関わりを探る
③劇用の大道具の「木」を作る

参加者の声

・葉っぱや木は色々なすがたに形を変えて、自分たちの生活に関係していることがわかった。
・さわってみたら、ひとつひとつ葉の形が違うことがわかった。
・学校の先生以外の人が教えてくれて楽しかった。
・たくさんの木の名前を知ったから、家族に教えたい。
・教えてもらったことを思いうかべて歌を発表できた。

プログラムの流れ

1時間目
樹木の生き方発見！
2・3時間目
四国村（民家博物館）を見学しよう
4時間目
校内で葉っぱ集めをしよう
5・6時間目
樹木を作ろう！
7・8時間目
学習発表会
9時間目
お気に入りの葉っぱをスケッチしよう

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：川は自然の宝箱（多摩市立連光寺小学校）

愛媛県

ちがう国でも同じこと

地域プログラム化メンバー：愛媛大学教育学部、四国糧油株式会社、えひめネパールフレンドシップ、松山市環境部環境モデル都市推進課、松山市立新玉小学校、特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
実証協力校等：松山市立清水小学校、愛媛大学留学生（モザンビーク人、ネパール人）、特定非営利活動法人CCWA愛媛の会、地域の方（いきがい交流センターしみず）

ESDの要素　連携性　責任性

能力／態度　批判　未来　多面

プログラムの概要

留学生やNGO等との交流を交えながらグループに分かれて愛媛で継続して交流しているネパール、モザンビークの2か国について調べることで、世界にはさまざまな衣食住などの文化、自然災害があることに気づき、自分たちにできることや感じたことを実践し発表する。

ネパール、モザンビークの2カ国について学ぶことで、日本の文化を再度見つめなおすきっかけとする。

プログラムの目標

①モザンビークやネパールの生活や文化を体験的に知ることを通して、日本と違うところと同じところを知り、世界にはさまざまな文化があることに気づき、互いの文化を尊重する態度を養い、自分の住む国や地域の文化にも興味・誇りを持つことができるようにする。

②各国の自然災害について学び、自分たちにできることについて考え行動するための計画を立て、実践する。

③授業を通して世界とのつながりを実感し、違いや共通点を尊重するとともに、他者とコミュニケーションを図るスキルを向上させる。

①大切にしたい言葉を葉っぱに書いた「木」
②ネパール人留学生との交流
③モザンビーク人留学生との交流

プログラムの流れ

1・2時間目
ハロー！モザンビーク！！ネパール！！①②
～他国の人とも交流しようとする意欲を高める～

3時間目
ハロー！モザンビーク！！ネパール！！③
～各国の衣・食・住・国について知り、交流への気持ちを高める～

4・5時間目
モザンビーク、ネパール留学生との交流会①
～活動の方法を考え、実践～

6・7時間目
モザンビーク、ネパールの留学生との交流会②
～留学生から、各国の衣食住について学ぶ～

8時間目
モザンビーク、ネパールの災害について知ろう

9時間目
自分たちにできることを考えよう

10時間目
英語の授業を活用した、国際理解

11・12時間目
発表会をしよう

参加者の声

・学校の様子について調べていくうちに、日本とモザンビークの違うところが分かってきました。同時に、同じこともわかってきました。ちがう国に住んでいても、同じ人間、という気持ちが強まってきました。

・あたたかい言葉と必要なもの、ぼ金など、相手の人の心があたたかくなるような支援がしたいです。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：ちがう国でも同じこと（京都市立久我の杜小学校　現同市立境谷小学校教諭作成）

徳島県

アフリカの現状から学び、地球規模の視野を育もう

地域プログラム化メンバー：鳴門教育大学大学院学校教育研究科、徳島県中学校理科教育研究会、特定非営利活動法人徳島環境カウンセラー協議会、株式会社リレイション、徳島県立富岡東中学校、特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
実証協力校等：徳島県立富岡東中学校、鳴門教育大学、特定非営利活動法人TICO

ESDの要素　多様性　相互性　公平性

能力／態度　批判　伝達　参加

プログラムの概要

「水」、「経済」、「食料」、「健康・安全」をテーマに自分たちの身近な問題と途上国の問題について学び、調べた内容について、発表を行う。アフリカから徳島を訪れているJICA研修生を学校に招き、現地の生活や現状について生きた情報を得、相互交流することによりアフリカの国々と日本との違いなどについて改めて考える機会を作る。アフリカでNPO活動を行う徳島県の団体の活動紹介を聞き、気づいたことから自ら課題を見つけ、持続的な社会をつくるために自分たちに何ができるかを考え、行動する力を養う。

①研修生への質問を考える生徒たち
②JICA研修生との交流
③外部講師による授業

プログラムの目標

①途上国の子どもの現状を体験から理解し、関心を持つ。
②自分たちが調べたことと、現地の方から聞いた内容について差があること、アフリカにもさまざまな国があり、多様性があることを学ぶ。
③アフリカの現状、課題を知り、自分たちでできることについて考え、行動に移すようにする。視野を広げ、今後の学習に活かすきっかけにする。

参加者の声

・色々なことを知り、自分がアフリカについて偏見を持っていたことに気づいた。アフリカについて学ばなかったらずっと偏見を持ったままだったと思う。知らなければ考えることもできない。知ることで持続可能な社会の担い手になるスタートラインに立てるのではないかと思った。
・徳島にもアフリカ支援を行う団体があることを知ってもらって良かった。

プログラムの流れ

1時間目
アフリカについて知ろう！
2時間目
水を運ぼう！
3・4時間目
研修生への質問を考えよう！
5時間目
JICA研修生から学ぼう！
6時間目
研修生に質問しよう！
7・8時間目
NPO活動を行っている講師から話を聞こう！

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：命の水–開発途上国の子どもの問題を「水」を通して学ぶ–（あいち国際理解教育ステーション）

ひろげよう 九州のチカラ
つなげよう 私たちの未来

EPO 九州

九州ブロック

阿蘇山・桜島の活火山のように、各県で常に活動的で地域に根差したＮＰＯ団体等と連携して九州でしかできない人・物・資源を活かします。
（写真：桜島を望む南九州エリアワークショップに集まった各県メンバー）

九州ブロック

持続可能な地域づくりの“肝”

～地域で継続的にESDをすすめていくためには～

九州ブロックの概要

九州の特性にあわせた地域プログラムをつくろう

九州・沖縄８県では、各県で環境教育に携わるＮＰＯ団体等が中心になりワーキンググループを形成し、地域特性を活かしたＥＳＤ地域化プログラムの作成・実証、ＥＳＤ推進ネットワーク構築に取り組んでいます。

ネットワークのポイント、特徴、工夫した点

地域の人を巻き込み広げるＥＳＤの未来（アシタ）

九州ブロックはＥＳＤ・環境教育分野に関する専門家、行政関係者、メディア関係者、及び各県で地域に根差して環境教育を実践しているＮＰＯ団体等をＷＧ（ワーキンググループ）代表としたメンバーで実行委員会を構成し、地域プログラム作成に対して積極的な意見交換をおこなっています。また、各県ＷＧは地元の専門家や教育関係者を巻き込みながら地域化プログラム実証とネットワークの構築を進めています。

また、本年度は、九州のＥＳＤ先進地大牟田市の先生方や鹿児島を中心とした南部エリアの先生方とＥＳＤの普及・啓発に一歩踏み込んだワークショップを開催しました。

①意見交換の盛んな実行委員会
②福岡県大牟田市で開催のワークショップ
③鹿児島県姶良市で開催のワークショップ

地方事務局

株式会社フラウ

実行委員メンバー

ブロック実行委員

所属	役職	氏名
熊本県立大学	名誉教授	篠原　亮太
北九州市立大学	法学部政策科学科　教授	三宅　博之
福岡県環境部環境政策課	企画広報監	池田　光政
福岡県教育庁教育振興部義務教育課	主任指導主事	猿楽　隆司
トミタプロデュース	代表	富田　剛史
各県ワーキンググループ代表		

ワーキンググループ

地域	団体名 or 所属・氏名
福岡県	株式会社フラウ
佐賀県	ＮＰＯ法人温暖化防止ネット
長崎県	特定非営利活動法人環境カウンセリング協会長崎
熊本県	一般社団法人アイ・オー・イー
大分県	認定指定ＮＰＯ法人地域環境ネットワーク
宮崎県	一般社団法人てるはの会
鹿児島県	特定非営利活動法人くすの木自然館
沖縄県	一般財団法人沖縄県公衆衛生協会

問い合わせ先

環境省九州環境パートナーシップオフィス（EPO九州）
〒860-0806　熊本市中央区花畑町4-8　熊本市国際交流会館２F
TEL　096（312）1884　　FAX　096（312）1894

福岡県

白川の緑を守ろう！

地域プログラム化メンバー：西日本短期大学緑地環境学科、ＮＰＯ法人森遊会、大牟田市立白川小学校、株式会社フラウ
実証協力校等：大牟田市立白川小学校、大牟田市都市整備部都市計画・公園課、西日本短期大学、ＮＰＯ法人森遊会、有限会社宮地造園

ESDの要素　多様性　相互性　責任性

能力／態度　未来　伝達　協力

プログラムの概要

先輩たちが守ってきた敷地内の624本の樹木について、最初に木の種類や特徴を学習した。その後、専門のゲストティーチャーの方々から「木を育てる・増やす」「木について調べる」「木のお世話をする」の各項目で将来にわたって樹木を守っていくために必要な事を学習し、自分たちが出来る事は何かを考えていった。学習した事を通して、後輩や地域の方にむけて一緒に樹木を守っていく事について発信した。

プログラムの目標

①専門知識を深める。
▼マイツリーを決めて木の特徴を調べる▼「木を育てる・増やす」庭造りについて調べる。緑を広げる活動や木の増やし方を学ぶ▼「木について調べる」樹木の特徴やおもしろさを学ぶ。樹木の役割について調べる。▼「お世話をする」腐葉土、剪定など樹木のお世話の仕方を学び、実行する。
②発信力を身につける。
▼マイツリー樹木カルタ作り▼「木を育てる・増やす」造った庭について広める、アピールする。緑を増やし、育て方を教える活動をする。▼「木について調べる」調べたことをまとめ発信する。自然を守る工作（巣箱）づくり。▼「お世話をする」木のお世話マニュアル作り。

1

2

3

①思いを込めた樹木カルタ
②歴史がはじまる庭づくり
③樹木の新芽を探してみよう

参加者の声

（子ども）
・今回学んだことで学校の木を大切にしたいと思ったし、後輩たちにも良さを伝えていかないといけないと感じました。
・自分が植栽した木の成長が楽しみなので5年後、10年後と将来にわたって学校に見にきたいです。

（教員）
・子どもたちが長期的に見通せる力がついてきていると感じました。
・子どもたちに何を身につけさせるのか、そのためには、どんな助言、指導が必要かねらいをはっきり意識するようになった。

プログラムの流れ

1時間目
「白川の緑を守ろう！」を受けつごう
2時間目
学校の樹木を学ぼう
3時間目
マイツリーを決めよう
4時間目
専門家のお話しを聞こう
5時間目
木を守るためのテーマを決めよう
6時間目
樹木カルタをつくろう
7時間目
テーマごとに専門家のお話しを聞こう
8時間目
光電池の性質を知ろう！
9時間目
テーマ別に発表しよう
10時間目
学習したことを発信しよう

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：森林プログラム（いなぎの森100年プロジェクト）（東京都稲城市立稲城第一小学校）

佐賀県

佐嘉吉野ヶ里に学ぶ未来の暮らし

～太陽エネルギーのパワーを感じよう～

地域プログラム化メンバー：佐賀女子短期大学こども学科、鳥栖市立弥生が丘小学校、佐賀新聞社営業局、佐賀県農林水産商工部新エネルギー課、神埼市教育委員会学校教育課、神埼市立西郷小学校
実証協力校等：神埼市立西郷小学校

ESDの要素：多様性　有限性　連携性

能力／態度：批判　未来　多面

プログラムの概要

私たちが住む地域は日射量が多く、古代から現代にいたるまで太陽の恵みに支えられてきたこと、また時代の移り変わりによる暮らし方や環境の変化とともに、太陽エネルギーの活用法も進化していることを、古代の「吉野ヶ里歴史公園」（遺跡）と新しい「吉野ヶ里メガソーラー発電所」での体験学習をとおして体感する。併せて、昔と比べて今の私たちがエネルギーを大量消費していることに気づき、それはどのような影響を環境にもたらすのかを学ぶ。

さらに、どうすれば環境への影響が抑えられるか、「太陽光王国・佐賀」の実現を目指す地域の取り組みを学んだ上で、各自が日々の生活でできることを考え、環境に優しい佐賀を未来へとつなげるための行動へ移す。

プログラムの目標

①昔と今の暮らし方や地球をとりまく環境の違いについて知ろう。
②日常生活で自分たちがエネルギーを大量消費していることに気づき、それが環境に及ぼす影響について考えよう。
③発電の種類とそれぞれの長所、短所について学び、エネルギーの使い方を考えよう。
④地域の特性を活かした自然エネルギーとその活用法について知ろう。
⑤地球環境を守るために私たちにできることを考え、周りの人にも伝えて行動しよう。

①吉野ヶ里メガソーラ発電所見学
②太陽電池パネルを見てみよう
③ソーラーモーターカーをつくってみよう

プログラムの流れ

1～4時間目
昔の人の暮らしを体験しよう！
5時間目
今のわたしたちの暮らし方と地球環境への影響を考えよう！
6時間目
発電の種類と特徴について学ぼう！
7時間目
地域の特徴を活かした自然エネルギーを知ろう！
8・9時間目
光電池の性質を知ろう！（ソーラーモーターカーの工作・試走）
10時間目
地球温暖化をふせぐためにできることを考えよう！
11・12時間目
学んだことをまとめて発表しよう！

参加者の声

・発電の仕組みや自然エネルギーについてDVDで視覚的な紹介があったり、クイズで楽しく学べたりしたことは子ども達にとってとても有意義でした。これを機に環境について少し意識してくれるのではと思います。
・作ったソーラーモーターカーが初めはうまく走らなかったけど、いろいろためすことで走らなかった原因がわかって、速く走らせることができました。
・ソーラーパネルがどんな役割をしているか学びました。
・地球温暖化にならないように僕自身も努力をして、少しでも地球を救う一員になりたいなと思いました。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：太陽エネルギーって何だろう？～太陽の恵みが暮らしを支える・かえる（チャウス自然体験学校）

長崎県

ニホンウナギから対馬を考えよう！

地域プログラム化メンバー：対馬市教育委員会学校教育課、一般社団法人ＭＩＴ、対馬市立金田小学校、対馬市立西小学校、NPO法人環境カウンセリング長崎
実証協力校等：対馬市立金田小学校、対馬市立西小学校

ESDの要素　多様性　有限性　責任性

能力／態度　未来　多面　関連

プログラムの概要

ニホンウナギは産卵期に太平洋を縦断する生態があることを理解し、ニホンウナギや水産資源の保全に対する関心を高め理解を深める。小学校高学年から中学生を対象に出前講座1（ウナギの不思議な生態）及び、出前講座2（ウナギ研究の最先端）で構成する。

プログラムの目標

①「ウナギ」の言葉から繋がる既知の言葉を概念図に表す。
②PCのWebサイトで、ニホンウナギについて調べ学習を行う。調べた事について、図をもとに紹介し合おう。
③ニホンウナギを守ることは、対馬の人々の生活にどんな関わりがあるだろうか？
④ニホンウナギと人々との生活にはどのようなつながりがあるか想像を働かせながら、仮説を立てる。
⑤ニホンウナギの専門家から説明を受ける。（MIT：銭本慧出前講座）ニホンウナギの特徴や生態、産卵場所の調査活動などの概要。
⑥ニホンウナギの専門家から説明を受ける。（日大教授：塚本勝巳出前講座）ニホンウナギの太平洋上での調査活動の目的や調査活動の内容、その成果や意義について。
⑦ウナギは川のどんなところを好むのか川の状況をよく観察する。ウナギ塚を作ったり、ウナギが入りやすい円筒形の容器を設置するなど、ウナギによい環境づくりを意識した活動に取り組む。聞き取り調査を行う（水産普及センター、漁協・漁師、地域の高齢者、鰻料理店の調理師など）。
⑧ニホンウナギと対馬の人々との関わりについて、何を視点に発表するのかを明確にして、これまでの体験や情報を整理する。そして学んだことを劇化するためのシナリオづくりと劇化練習。
⑨発表会、自分たちの視点を明確にし、分かりやすく伝える。学習を通して、自分が成長できたと思う点についてしっかりと振り返り、発表時にその紹介を必ず盛り込む。

1

2

3

①初めて見るウナギの仲間（仔魚）
②発表会演劇「ウナマロ物語」で学習内容を発信しました
③ウナギを描いてみました

参加者の声

（子ども）
・ウナギがどんな生かたをしているかわっかって楽しかったです。
・ウナギの事で写真やたまごを見せてくれたりしたのが楽しいと思ったし、ちゅうクイズとかもあってよかったと思います。たくさんウナギの事が分かりました。

（先生）
・本校児童はニホンウナギを通して多面的に考える力がついたとは言えないが、環境には配慮すべきだという考えを持つことができた。

プログラムの流れ

1・2時間目
「ウナギ」について調べ、課題を設定する
3・4時間目
第１回出前講座による産卵の実態や調査の様子の理解
5・6時間目
学校前の川でのウナギの捕獲体験・飼育体験
7・8時間目
第２回出前講座によるウナギの生態の理解
9・10時間目
学んだことを劇化するためのシナリオづくりと劇化練習
11時間目
学習発表会での発表

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：里海を蘇えらせるには、稚魚のゆりかご「アマモ」場の再生から（相生湾自然再生学習会議）

熊本県

森林の役割と地下水・私たちの暮らしとのつながりについて考えよう

地域プログラム化メンバー：熊本大学教育学部、NPO法人環境ネットワークくまもと、尚絅中学・高等学校、九州環境パートナーシップオフィス、一般社団法人アイ・オー・イー
実証協力校等：学校法人尚絅学園尚絅中学・高等学校、水と緑ワーキンググループ、サントリーホールディングス株式会社エコ戦略部水源涵養グループ

ESDの要素：多様性　有限性　責任性

能力／態度：未来　関連　参加

プログラムの概要

日本そして世界の森林事情や森林の公益的機能、熊本の豊かな地下水や私たちの暮らしとのつながりについて学ぶ。まず生徒の関心喚起のため、樹木や植物の葉っぱの実物や写真等を使い、テーマについての興味・関心を引き出すとともに、ワークショップをとおして、課題提起を行う。次に企業が行う水源涵養の森づくりや工場見学等の体験学習をとおして、森林の役割や熊本の貴重な水資源を未来に引き継ぐための取組み等について学び、理解促進を図る。生徒が自らの実体験をとおして、郷土の自然や環境問題等に関心を持ち、持続可能な社会づくりに向けて、自分たちができる具体的なアクションプランづくりを行うことによって今後の行動につなげる。

プログラムの目標

①日本そして世界の森林事情について学ぶ。
②熊本の豊かな地下水やそれを育む森林の役割、公益的機能について理解する。
③森林や地下水、そして私たちの日々の暮らしとのつながりについて気づかせる。
④体験学習をとおして郷土の自然や環境問題に関心を持たせる。
⑤持続可能な社会づくりに向けた具体的な行動計画づくりと実践を行う。

①森林を良い状態にたもつためのワークショップ
②森林の役割りを体感しよう
③アクションプランをつくってみよう

プログラムの流れ

事前学習
地球上の水や日々の暮らしの中で使っている水について考えよう！
1時間目
・日本と世界の森林について知ろう！
・森林の必要性について考えよう！
2時間目
森林の公益的機能と熊本の地下水について知ろう！
3時間目
私たちの暮らしとのつながりについて考えよう！
4～7時間目
企業が取組む水源涵養の森づくりを体験しよう！
8時間目
貴重な水資源を未来に引き継ぐための企業の取組みを学ぼう！
9～10時間目
未来のために自分たちができることを考えよう！

参加者の声

（子ども）
・日本も森が多い国だけど、熊本もとても多く自然に恵まれていることに気づきました。
・森に降った雨が、地下水になるまでに20年かかるということが印象的でした。自分は当たり前のように水を飲み、時には無駄遣いをしていたこともあったので、大切にしなくてはいけないことに気づきました。
・環境のことをもっと考えようと思った。水の問題はみんなの問題だから、1人1人が気をつけなきゃ変わらない！これからは水を使うのが少なくてすむように油汚れなどひどいものはふき取ってから洗いたい。

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：木のパワーを探ろう！～使って守る森と住まい・まちの創造人材育成～（一般社団法人　日本建築学会）、さまざまな視点から水について考えよう～水の総合学習プログラム～（教育開発研究会）、間伐材を活用して「My箸」を作ろう（公益社団法人　環境生活文化機構）

大分県

「まち」の中で使われている「木」について考えよう！

地域プログラム化メンバー：大分大学教育福祉科学部、ＮＰＯ法人グリーンインストラクターおおいた、うーたの会、大分生物談話会
実証協力校等：吉野校区吉野育成クラブ

ESDの要素　多様性　有限性　連携性

能力／態度　批判　多面　協力

プログラムの概要

１年目は「学校」、２年目は「暮らし」と段階的に学習範囲を広げてきた。最終年である３年目は、「まちづくり」にも木が深く関わっており、木を適正に活用することが森林保全やまちの活性につながることを学習した。育成クラブの子ども達は指導員や保護者と共に、大分の町にも木が活用されていることを事前学習し、その後、環境モデル都市である熊本県小国町の取組みを見学して、まちづくりと森林のつながりや、木の活用と森林管理の重要性について改めて学んだ。

プログラムの目標

①まちづくりに木が活かされている実態を把握する。
②まちづくりと森林のつながりを学ぶ。
③適正な森林管理とは何であるかの意味と重要性を理解する。
④木の望ましい活用法について自分なりの考えをもつ。

①原木を見て触ってみよう
②小国ドーム見学
③森林組合で話しを聞こう

プログラムの流れ

１時間目
まちづくりと森林のつながりについて学ぼう
２時間目
木が使われているところを探してみよう。
３時間目
森を守る仕事を体験しよう。
４時間目
木を活かした町を見にいこう。

参加者の声

（子ども）
・初めて見た木のドームは、すごくきれいだった。学校とは違う体育館に行けて良かった。体育館がすごく木のにおいがしました
・木がどうゆうふうに使われているのかが分かった。木を切る道具も分かった。
・大きなものから小さなものまでたくさんあり、節の数で年が分かるということが分かりました。木のにおいの違いも知ることができました。

（見学者）
・触る、におう、見るなど体で感じる学習がたくさん盛り込まれていて、幅広い年齢の子が楽しんで学ぶことができていました。大人の私も一緒に楽しむことができ有意義な時間を過ごすことができました。大分県を飛び出したのも良かったと思います

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：木のパワーを探ろう！～使って守る森と住まい・まちの創造人材育成～（一般社団法人　日本建築学会）、森林プログラム（いなぎの森100年プロジェクト）（東京都稲城市立稲城第一小学校）、森の遊びが森を守る（特定非営利活動法人　いしかわ自然体験支援隊）

宮崎県

美しい地球を守れ

～ごみ減量大作戦～

地域プログラム化メンバー：綾町照葉樹林文化推進専門監、南九州大学人間発達学科子ども教育学科、ドリームトライ、宮崎県地球温暖化防止活動推進センター、特定非営利活動法人宮崎文化本舗、一般社団法人てるはの森の会

実証協力校等：小林市立永久津小学校、一般社団法人　てるはの森の会、宮崎県環境情報センター、ＮＰＯ法人　ひまじん

ESDの要素　有限性　連携性　責任性

能力／態度　未来　伝達　その他

プログラムの概要

既存の総合学習「ごみを減らそう」を利用し、ESDプログラムとして実施した。ごみというテーマの特質上、対処的な解決にならないよう配慮した。将来目指すべき社会を想像させることで、広い視野によるものの見方を提案させる。

リサイクル施設見学や環境問題に詳しい講師の話を聞き、ごみについての問題意識を高め、地域での取り組み事例を調べるアンケートを実施した。アンケートの結果を集計し、ゴミ減量の解決策をパンフレットで報告する。授業の途中で疑問に思った、ごみはたい肥になるのか（コンポスト実験）も実施した。

①

②

③

①「施設見学で分かったこと」の整理：先生とＫＪ法で初めて学習
②「わかったこと、疑問に思うこと」の整理：ＫＪ法にもなれてきました
③「どうまとめるか」を考える：子どもたちだけで行うＫＪ法

プログラムの目標

①自分たちの生活から出るごみの行方を知り、地域全体のごみに関するさまざまな問題点をとらえ、問題を設定する。

②地域の特性を重視し、解決法の対処に終わらず、広い視野で物事を考える。

③自らの追及活動を把握、評価し、追求して解決法を地域に発信し、これからの生き方に生かそうとする。

アンケート依頼文、報告（パンフレット）作成は国語の時間を利用し、他教科との連携も行った。問題点の整理やまとめに、何度もＫＪ法を使った。

参加者の声

（子ども）

・地域の皆さんにアンケートを取ったのが面白かった。

・ゴミの分別は、面倒と思っていたけど、ゴミを減らす方法を授業で知って、ごみを捨てるのが楽になりました。

・ごみをあまり出さないように、物を大切にして、分別もしっかりしようと思いました。

（先生）

・子どもたちが自分たちの力で、資料の分類整理や活動の方向性を決定するとき、自主性の高まりがみられた。

プログラムの流れ

1時間目
　リサイクル施設見学の振り返り
2時間目
　「ごみについて」の話を聞く
3時間目
　分かったこと、疑問に思うことを整理する
4時間目
　「学習課題」を立てる
5時間目
　予想する。「どう質問すればごみ減量に結びつくのか」
6時間目
　「先進地ドイツの話」を聞く
7時間目
　アンケートを作る
8・9時間目
　アンケート結果をまとめる
10時間目
　疑問の実証「コンポスト実験」
11・12時間目
　アンケート結果をどうまとめるか考える
13・14時間目
　パンフレットにまとめる
15時間目
　学習発表会で発表する

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：ゴミ減らし大作戦～ゴミを減らすルールを作ろう！～（くらし創造工房）、地域と共にごみを減らす意識を持ち続けよう！「生ごみワーストワン脱出大作戦」（横浜市立永田台小学校）

鹿児島県

学校周辺の自然と「生き物」と「私たちの生活」のつながり

地域プログラム化メンバー：特定非営利活動法人くすの木自然館、姶良市立山田小学校、霧島市立日当山小学校
実証協力校等：姶良市立山田小学校、特定非営利活動法人くすの木自然館

ESDの要素：多様性／相互性／責任性

能力／態度：未来／多面／伝達

プログラムの概要

普段、当たり前にあり目を向けることが少ない、学校周辺の生物を題材にし、身近なところにどれくらいの生物がいるかを調べる。学校周辺の生物相の豊かさに気付くとともに、調べた生物たちが食物連鎖等によりどのようにつながっているか、また、自分たちの生活がどの程度の影響を与えているかをグループで考える。授業参観時に、保護者に向けて、調べ考えたことを発表し、自分たちが望む未来のために出来ることを宣言する。

プログラムの目標

①学校周辺（いつもの生活範囲）にいる生物に気付く。
②生物どうしのつながりを考えることで、生物多様性の考え方を身に着ける。
③発表する際に「自分たちが望む未来」を考え宣言することで、未来を考える力を身に着ける。

①学校周辺の生物探し【フィールドサイン】を探す
②学校周辺の生物探し【野鳥】を探す
③生き物と自分たちの世界のつながりを考える

参加者の声

（子ども）
・草の影や石の下など、普段見ない所に生き物がたくさんいた。この環境をいつまでも守っていくために、自分は学校周辺の生き物を常に見つけて、発信していきたい

（先生）
・ESDに関わって3年目で、やっと、他の授業にどのように絡めていくかなどが見えた。全ての授業とつなげて考えることが出来るようになって良かった
・自分たちでは出来ないような授業を専門の方にしてもらえてよかった。自分も子供もとても楽しめた

プログラムの流れ

1時間目
　生き物のつながりを知ろう！
2～4時間目
　学校周辺の生き物を探してみよう！
5時間目
　見つけた生き物をしらべてみよう！
6・7時間目
　生き物と自分たちの生活のつながりを考えよう！
8時間目
　望む未来と何が出来るかを考えよう！
9時間目
　発表しよう！

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：身近な自然と「水」と「生き物」のつながり（特定非営利活動法人くすの木自然館）

沖縄県

世界の水と伊良部の水

地域プログラム化メンバー：宮古島市農林水産部水産課、宮古島市立伊良部中学校、特定非営利活動法人宮古島海の環境ネットワーク、特定非営利活動法人来間島大学まなびや、沖縄環境ネットワーク、一般財団法人沖縄県公衆衛生協会環境科学課
実証協力校等：宮古島市立伊良部中学校（校長：平良満洋）、宮古島市伊良部地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会　会長　比嘉臣雄 氏

ESDの要素　多様性　相互性　責任性

能力／態度　未来　多面　参加

プログラムの概要

世界の水環境をフォトランゲージ等で視覚的に理解し、世界の水環境の現状を深めた。また、実験を通じて、伊良部島の水環境について理解した。地元の講師から昔の伊良部島における水環境の歴史を学び、現在とこれからの水環境について考えた。

実際の水環境を確かめるため、フィールド調査を行い、表層水と地下水の水質汚染や塩害について学んだ。また、学んだ内容を自分たちの考えとしてまとめ、学習発表会で成果を発表し、地域へ発信しすることで、地域住民の理解・協力を求めた。

プログラムの目標

①世界の水環境と伊良部島の水環境を知る。
②昔の水環境を学び、将来的な水環境を考える。
③身近な水資源の科学的調査を行い、水質について学ぶ。
④学んだことを地域へ発信する。

①

②

③

①昔の水運び体験
②水質調査（CODパックテスト）
③学習発表会の様子

参加者の声

・たくさんの実験を通して、伊良部・宮古・世界の「水」について知れてとてもよかった。外国のアフリカ地域の雨が降らない乾季がある事、そして、北海道では雪が解けた水でたくさんの水をくんでいました。同じ世界に住んでいるのに、水がある国、水がない国の差に驚きました。これからは、もっと水を大切にしようと思いました。
・伊良部の地区のこととか、井戸とか生活とかを知り、水の使い方を改めようと思いました。簡単にひねったら出てくる水だけど、昔はすごく大変だったなと思いました。
・掘削井戸の事、佐和田や長浜には、どんな井戸があるかをもっと知りたい。

プログラムの流れ

1時間目
　世界の水事情
2時間目
　宮古と伊良部の水事情
3時間目
　昔・今・未来の伊良部の水環境
4時間目
　水質汚染について
5時間目
　フィールド調査
6時間目
　調査のまとめ
7時間目
　まとめ
8時間目
　発表

基にしたモデル的なプログラム（作成団体名）：命の水-開発途上国の子どもの問題を「水」を通して学ぶ-（あいち国際理解教育ステーション）、さまざまな視点から水について考えよう～水の総合学習プログラム～（教育開発研究会）

【索引】分野から検索

4つの分野		基にしたモデル的なESDプログラム名	掲載ページ
ともに生きる	①国際理解	動物になって考えよう！せかい・動物かんきょう会議ワールドカフェ	33
		食べ物のムダをなくそう ～もったいない～から学ぶ平和教育プログラム	—
		サモアから学ぶESD	—
		干潟の生き物観察から世界を見よう！	—
		地球と人にやさしい服の選び方	—
		ちがう国でも同じこと	61
		命の水　―開発途上国の子どもの問題を「水」を通して学ぶ―	62、72
		FOOD!　～食を通して世界とのつながりを考える～	—
		地球の仲間とつながろう　森の人「オラウータン」と一緒に生きる喜びを！	15
	②社会参画	動物になって考えよう！せかい・動物かんきょう会議ワールドカフェ	33
		「５つのものさし」で、地域の川や生きものを守っていく！～そして、自分の生活と関連づけて暮らしに生かす～	—
		みんなでつくろう！防災コミュニティファーム～まちなかの公園が地域を守る農園に！？～	—
		学校周辺ごみ調査隊　～地域の未来のためにどんな大人になりたいか～	28、37、44
		里山たんけん隊	46、48
		さまざまな視点から水について考えよう～水の総合学習プログラム～	68、72
		日本に古くから伝わる赤ちゃんのお世話で美しい地球を救おう	43
		地域と共にゴミを減らす意識を持ち続けよう！「生ゴミワーストワン脱出大作戦」	—
		食べ物のムダをなくそう ～もったいない～から学ぶ平和教育プログラム	—
		目指せ！特級エコガイド～冬の校舎の秘密　劇的改造エコブリッジ　ビフォーアフター～	—
		これからのエネルギー生活を考えよう－電気に頼りすぎた生活を見直そう－	17、54
		自然の恵み（生態系サービス）を活用する体験学習（いぐねの学校）	51、53、55
		森林プログラム（いなぎの森１００年プロジェクト）	35、65、69
		ホタルを通して里山環境を考える～中学生による生物多様性を考えた環境再生プログラム～	48
		サモアから学ぶESD	—
		ふるさとのきれいな海を守ろう！	26
		地球と人にやさしい服の選び方	—
		ちがう国でも同じこと	61
		力を合わせて絵本作家になろう！	—
		「生き物たちとの持続可能な社会を考えよう」（自然調和型社会学習プログラム）	—
		命の水　―開発途上国の子どもの問題を「水」を通して学ぶ―	62、72
		地球温暖化を学び学校の省エネを考える「フィフティ・フィフティ」プロジェクト	—
		公園、探検・発見・ほっとけん！…誰が？	34
		川は自然の宝箱	44、46、60
		環境ウォッチングで提案づくり	10、37、44
		グリーンエネルギーの素さがし！	9
		里海を蘇らせるには、稚魚のゆりかご「アマモ」場の再生から	45、67
		太陽エネルギーって何だろう？～太陽の恵みが暮らしを支える・かえる～	18、25、66
		MOTTAINAI（もったいない）の松林を秋田方式で未来へ	—
		地球の仲間とつながろう　森の人「オランウータン」と一緒に生きる喜びを！	15
		食をヒントに学ぶ私たちの水…郷土を知るプログラム	29
		森の遊びが森を守る	22、69
		間伐材を活用して「My箸」を作ろう	68
		2050年の世界を創る ～ 日本版2050パスウェイカルキュレーターを用いて～	—
		外来生物を学ぶ環境学習	—
		産業と環境の共生を考える　～大気汚染公害の歴史から、問題解決にむけた人間の行動を学ぶ～	35、39
		かばんの中でも温暖化？！～学校生活と地球環境とのつながり	—
		環境ウォッチングで提案づくり	10、37、44
	③健康	動物になって考えよう！せかい・動物かんきょう会議ワールドカフェ	33
		食べ物のムダをなくそう ～もったいない～から学ぶ平和教育プログラム	—
		くらしマイレージ講座	—
		赤とんぼを通して地域の良さを見つけよう	52
		環境ウォッチングで提案づくり	10、37、44
		FOOD!　～食を通して世界とのつながりを考える～	—
		野菜は畑から	59
		産業と環境の共生を考える　～大気汚染公害の歴史から、問題解決にむけた人間の行動を学ぶ～	35、39
自然・生命	④生命	「５つのものさし」で、地域の川や生きものを守っていく！～そして、自分の生活と関連づけて暮らしに生かす～	—
		みんなでつくろう！防災コミュニティファーム～まちなかの公園が地域を守る農園に！？～	—
		日本に古くから伝わる赤ちゃんのお世話で美しい地球を救おう	43
		地域と共にゴミを減らす意識を持ち続けよう！「生ゴミワーストワン脱出大作戦」	—
		食べ物のムダをなくそう ～もったいない～から学ぶ平和教育プログラム	—
		森林プログラム（いなぎの森１００年プロジェクト）	35、65、69
		くらしマイレージ講座	—
		地球の仲間たちの声を聞こう！	36
		赤とんぼを通して地域の良さを見つけよう	52
		ホタルを通して里山環境を考える～中学生による生物多様性を考えた環境再生プログラム～	48
		干潟の生き物観察から世界を見よう！	—
		「生き物たちとの持続可能な社会を考えよう」（自然調和型社会学習プログラム）	47
		みどりなライフ！～みどりのカーテンで始めよう身近なエコ活動～	35
		木のパワーを探ろう！～使って守る森と住まい・まちの創造人材育成～	30、68、69
		里海を蘇らせるには、稚魚のゆりかご「アマモ」場の再生から	45、67
		地球の仲間とつながろう　森の人「オランウータン」と一緒に生きる喜びを！	15
		ＳＡＴＯＹＡＭＡプロジェクト	16
		森の遊びが森を守る	22、69
		野菜は畑から	59
		2050年の世界を創る ～ 日本版2050パスウェイカルキュレーターを用いて～	—

4つの分野		基にしたモデル的なESDプログラム名	掲載ページ
自然・生命	④生命	外来生物を学ぶ環境学習	―
	⑤自然への愛着	「５つのものさし」で、地域の川や生きものを守っていく！～そして、自分の生活と関連づけて暮らしに生かす～	―
		里山たんけん隊	46、48
		学校周辺ゴミ調査隊　– 地域の未来のためにどんな大人になりたいか –	28、37、44
		日本に古くから伝わる赤ちゃんのお世話で美しい地球を救おう	43
		自然の恵み（生態系ｻｰﾋﾞｽ）を活用する体験学習（いぐねの学校）	51、53、55
		森林プログラム（いなぎの森１００年プロジェクト）	65、69
		地球の仲間たちの声を聞こう！	36
		赤とんぼを通して地域の良さを見つけよう	52
		ホタルを通して里山環境を考える～中学生による生物多様性を考えた環境再生プログラム～	48
		干潟の生き物観察から世界を見よう！	―
		ふるさとのきれいな海を守ろう！	26
		力を合わせて絵本作家になろう！	―
		公園、探検・発見・ほっとけん！…誰が？	34
		里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう	24、38
		エコシステム学習プログラム	―
		わくわく郷土たんけん隊－昔の暮らしと今の暮らしをくらべよう！	―
		グリーンエネルギーの素さがし！	9
		里海を蘇らせるには、稚魚のゆりかご「アマモ」場の再生から	45、67
		太陽エネルギーって何だろう？～太陽の恵みが暮らしを支える・かえる～	18、25、66
		MOTTAINAI（もったいない）の松林を秋田方式で未来へ	―
		ＳＡＴＯＹＡＭＡプロジェクト	16
		森の遊びが森を守る	22、69
		野菜は畑から	59
		間伐材を活用して「My箸」を作ろう	68
		外来生物を学ぶ環境学習	―
	⑥生態系・生物多様性	「５つのものさし」で、地域の川や生きものを守っていく！～そして、自分の生活と関連づけて暮らしに生かす～	―
		里山たんけん隊	46、48
		自然の恵み（生態系ｻｰﾋﾞｽ）を活用する体験学習（いぐねの学校）	51、53、55
		森林プログラム（いなぎの森１００年プロジェクト）	65、69
		地球の仲間たちの声を聞こう！	36
		赤とんぼを通して地域の良さを見つけよう	52
		ホタルを通して里山環境を考える～中学生による生物多様性を考えた環境再生プログラム～	48
		サモアから学ぶESD	―
		干潟の生き物観察から世界を見よう！	―
		力を合わせて絵本作家になろう！	―
		「生き物たちとの持続可能な社会を考えよう」（自然調和型社会学習プログラム）	47
		里山ビオトープから“いのちの輝き”伝えよう	24、38
		川は自然の宝箱	44、46、60
		エコシステム学習プログラム	―
		身近な自然と「水」と「生き物」のつながり	13、23、44、46、71
		グリーンエネルギーの素さがし！	9
		里海を蘇らせるには、稚魚のゆりかご「アマモ」場の再生から	45、67
		MOTTAINAI（もったいない）の松林を秋田方式で未来へ	―
		地球の仲間とつながろう　森の人「オランウータン」と一緒に生きる喜びを！	15
		ＳＡＴＯＹＡＭＡプロジェクト	16
		森の遊びが森を守る	22、69
		野菜は畑から	59
		間伐材を活用して「My箸」を作ろう	68
		2050年の世界を創る ～ 日本版2050パスウェイカルキュレーターを用いて～	―
		外来生物を学ぶ環境学習	―
	⑦水	「５つのものさし」で、地域の川や生きものを守っていく！～そして、自分の生活と関連づけて暮らしに生かす～	―
		さまざまな視点から水について考えよう～水の総合学習プログラム～	68、72
		日本に古くから伝わる赤ちゃんのお世話で美しい地球を救おう	43
		地球の仲間たちの声を聞こう！	36
		ホタルを通して里山環境を考える～中学生による生物多様性を考えた環境再生プログラム～	48
		干潟の生き物観察から世界を見よう！	―
		命の水　―開発途上国の子どもの問題を「水」を通して学ぶ―	62、72
		川は自然の宝箱	44、46、60
		身近な自然と「水」と「生き物」のつながり	13、23、44、46、71
		グリーンエネルギーの素さがし！	9
		里海を蘇らせるには、稚魚のゆりかご「アマモ」場の再生から	45、67
		食をヒントに学ぶ私たちの水…郷土を知るプログラム	29
		産業と環境の共生を考える　～大気汚染公害の歴史から、問題解決にむけた人間の行動を学ぶ～	35、39
	⑧大気	くらしマイレージ講座	―
		ホタルを通して里山環境を考える～中学生による生物多様性を考えた環境再生プログラム～	48
		産業と環境の共生を考える　～大気汚染公害の歴史から、問題解決にむけた人間の行動を学ぶ～	39
	⑨土	ホタルを通して里山環境を考える～中学生による生物多様性を考えた環境再生プログラム～	48
ごみ・資源	⑩公害・化学物質	サモアから学ぶESD	―
		環境ウォッチングで提案づくり	10、37、44
		里海を蘇らせるには、稚魚のゆりかご「アマモ」場の再生から	45、67
		産業と環境の共生を考える　～大気汚染公害の歴史から、問題解決にむけた人間の行動を学ぶ～	35、39
	⑪３R	動物になって考えよう！せかい・動物かんきょう会議ワールドカフェ	33
		「５つのものさし」で、地域の川や生きものを守っていく！～そして、自分の生活と関連づけて暮らしに生かす～	―
		学校周辺ゴミ調査隊　– 地域の未来のためにどんな大人になりたいか –	28、37、44
		日本に古くから伝わる赤ちゃんのお世話で美しい地球を救おう	43
		食べ物のムダをなくそう ～もったいない～から学ぶ平和教育プログラム	―
		地域と共にゴミを減らす意識を持ち続けよう！「生ゴミワーストワン脱出大作戦」	70

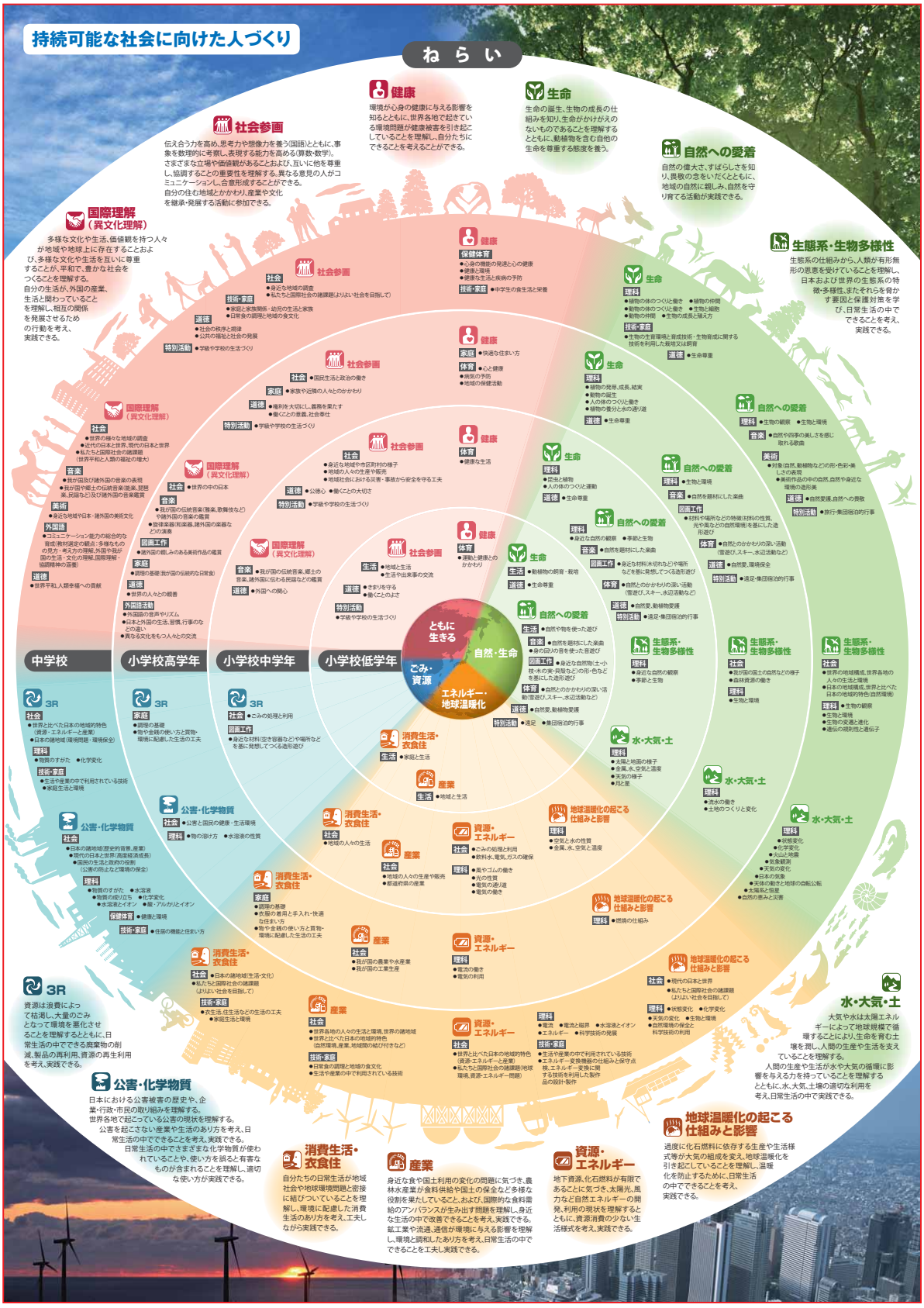
4つの分野		基にしたモデル的なESDプログラム名	掲載ページ
ごみ・資源	⑪３R	自然の恵み（生態系ｻｰﾋﾞｽ）を活用する体験学習（いぐねの学校）	51、53、55
		地球の仲間たちの声を聞こう！	36
		干潟の生き物観察から世界を見よう！	―
		ふるさとのきれいな海を守ろう！	26
		ゴミ減らし大作戦～ゴミを減らすルールを作ろう！～	21、43、70
		一人ひとりのエコが地球の未来を救う！～エネルギーと品物の一生を考えた品物の選び方・使い方・捨て方～	―
		なたねプロジェクト見て食べて楽しんで！使った油はリサイクル	―
		レッツゴー！エコキッズ	27
		グリーンエネルギーの素さがし！	9
		里海を蘇らせるには、稚魚のゆりかご「アマモ」場の再生から	45、67
エネルギー・地球温暖化	⑫地球温暖化の起こるしくみと影響	森林プログラム（いなぎの森１００年プロジェクト）	65、69
		くらしマイレージ講座	―
		一人ひとりのエコが地球の未来を救う！～エネルギーと品物の一生を考えた品物の選び方・使い方・捨て方～	―
		地球温暖化を学び学校の省エネを考える「フィフティ・フィフティ」プロジェクト	―
		太陽エネルギーって何だろう？～太陽の恵みが暮らしを支える・かえる～	18、25、66
		間伐材を活用して「My箸」を作ろう	68
		2050年の世界を創る ～ 日本版2050パスウェイカルキュレーターを用いて～	―
		かばんの中でも温暖化？！～学校生活と地球環境とのつながり	―
	⑬資源・エネルギー	学校周辺ゴミ調査隊　– 地域の未来のためにどんな大人になりたいか –	28、37、44
		目指せ！特級エコガイド～冬の校舎の秘密　劇的改造エコブリッジ　ビフォーアフター～	―
		これからのエネルギー生活を考えようー電気に頼りすぎた生活を見直そうー	17、54
		くらしマイレージ講座	―
		地球の仲間たちの声を聞こう！	36
		ホタルを通して里山環境を考える～中学生による生物多様性を考えた環境再生プログラム～	48
		サモアから学ぶESD	―
		ふるさとのきれいな海を守ろう！	26
		ゴミ減らし大作戦～ゴミを減らすルールを作ろう！～	21、43、70
		地球温暖化を学び学校の省エネを考える「フィフティ・フィフティ」プロジェクト	―
		レッツゴー！エコキッズ	27
		わくわく郷土たんけん隊ー昔の暮らしと今の暮らしをくらべよう！	14
		自然を活かした　かしこい暮らし方を考えよう　～伝統的民家の知恵・エコの知恵を伝えよう～	―
		グリーンエネルギーの素さがし！	9
		太陽エネルギーって何だろう？～太陽の恵みが暮らしを支える・かえる～	18、25、66
		MOTTAINAI（もったいない）の松林を秋田方式で未来へ …	―
		食をヒントに学ぶ私たちの水…郷土を知るプログラム	29
		2050年の世界を創る ～ 日本版2050パスウェイカルキュレーターを用いて～	―
		かばんの中でも温暖化？！～学校生活と地球環境とのつながり	―
	⑭産業	これからのエネルギー生活を考えようー電気に頼りすぎた生活を見直そうー	17、54
		地球と人にやさしい服の選び方	―
		なたねプロジェクト見て食べて楽しんで！使った油はリサイクル	―
		木のパワーを探ろう！～使って守る森と住まい・まちの創造人材育成～	30、68、69
		FOOD!　～食を通して世界とのつながりを考える～	―
		野菜は畑から	59
		2050年の世界を創る ～ 日本版2050パスウェイカルキュレーターを用いて～	―
		産業と環境の共生を考える　～大気汚染公害の歴史から、問題解決にむけた人間の行動を学ぶ～	35、39
	⑮消費生活・衣食住	動物になって考えよう！せかい・動物かんきょう会議ワールドカフェ	33
		学校周辺ゴミ調査隊　– 地域の未来のためにどんな大人になりたいか –	28、37、44
		日本に古くから伝わる赤ちゃんのお世話で美しい地球を救おう	43
		地域と共にゴミを減らす意識を持ち続けよう！「生ゴミワーストワン脱出大作戦」	―
		食べ物のムダをなくそう ～もったいない～から学ぶ平和教育プログラム	―
		目指せ！特級エコガイド～冬の校舎の秘密　劇的改造エコブリッジ　ビフォーアフター～	―
		これからのエネルギー生活を考えようー電気に頼りすぎた生活を見直そうー	17、54
		自然の恵み（生態系ｻｰﾋﾞｽ）を活用する体験学習（いぐねの学校）	51、53、55
		くらしマイレージ講座	―
		サモアから学ぶESD	―
		地球と人にやさしい服の選び方	―
		ちがう国でも同じこと	61
		ゴミ減らし大作戦～ゴミを減らすルールを作ろう！～	21、43、70
		命の水　―開発途上国の子どもの問題を「水」を通して学ぶ―	62、72
		一人ひとりのエコが地球の未来を救う！～エネルギーと品物の一生を考えた品物の選び方・使い方・捨て方～	―
		地球温暖化を学び学校の省エネを考える「フィフティ・フィフティ」プロジェクト	―
		みどりなライフ！～みどりのカーテンで始めよう身近なエコ活動～	35
		なたねプロジェクト見て食べて楽しんで！使った油はリサイクル	―
		木のパワーを探ろう！～使って守る森と住まい・まちの創造人材育成～	30、68、69
		レッツゴー！エコキッズ	27
		FOOD!　～食を通して世界とのつながりを考える～	―
		わくわく郷土たんけん隊ー昔の暮らしと今の暮らしをくらべよう！	14
		グリーンエネルギーの素さがし！	9
		自然を活かした　かしこい暮らし方を考えよう　～伝統的民家の知恵・エコの知恵を伝えよう～	―
		太陽エネルギーって何だろう？～太陽の恵みが暮らしを支える・かえる～	18、25、66
		食をヒントに学ぶ私たちの水…郷土を知るプログラム	29
		森の遊びが森を守る	22、69
		間伐材を活用して「My箸」を作ろう	68
		2050年の世界を創る ～ 日本版2050パスウェイカルキュレーターを用いて～	―
		産業と環境の共生を考える　～大気汚染公害の歴史から、問題解決にむけた人間の行動を学ぶ～	35、39
		かばんの中でも温暖化？！～学校生活と地球環境とのつながり	―

【索引】対象から検索

対象	都道府県	地域版ESDプログラム名	掲載ページ
中学校	青森	今こそ再認識　我が町の「め～水」！	13
	新潟	地域魅力化プロジェクト　～地域の新価値を創造しよう～	28
	富山	つながる　広がる　私と世界	33
	福井	発信！附中グリーンプロジェクト	35
	岐阜	環境	37
	三重	リサイクルのジレンマ～リサイクルは持続可能な社会を実現するのに必要か～	39
	高知	未来の種	59
	徳島	アフリカの現状から学び、地球規模の視野を育もう	62
	熊本	森林の役割と地下水・私たちの暮らしとのつながりについて考えよう	68
	沖縄	世界の水と伊良部の水	72
小学校高学年	北海道	再生可能エネルギーから考える私の『エコライフ宣言』	9
	北海道	海辺・水辺から見える私たちの未来	10
	宮城	地球に生きる私たちと動物	15
	秋田	大地の声を聞こう！　～ 八峰白神ジオパークの宝 ～	16
	福島	自然エネルギーって何だろう？　～身近なエネルギーと私たちの生活~	18
	茨城	食べ残しゼロ大作戦！	21
	栃木	どんぐりから苗木一本運動 inさくら市	22
	群馬	川の中から「見つける・観つめる・見直す」地域の自然～ヤマメが暮らす川づくり	23
	埼玉	もっといきいきビオトープ～生態系豊かなビオトープにしよう！～	24
	東京	海の贈り物　わたしたちの海を汚すもの	26
	神奈川	混ぜればごみ、分ければ資源	27
	山梨	森と水との関係	29
	静岡	解決！放置竹林問題　～知って！使って！竹で広がる可能性～	30
	富山	つながる　広がる　私と世界	33
	石川	平栗を調べよう～十一屋校区「平栗」の未来はどうなっていくのか～	34
	愛知	メダカがいっぱいの板山を取り戻そう	38
	滋賀	エコでつなぐ私の夢～体操服からウエディングドレスへ～	43
	京都	ふるさとの川　山科川をみつめて	44
	鳥取	しこべ冬の暮らし体験キャンプ	51
	島根	ようせいの守人プロジェクト	52
	山口	これからのまちとくらしをつくる子どもワークショップ	55
	愛媛	ちがう国でも同じこと	61
	福岡	白川の緑を守ろう！	65
	長崎	ニホンウナギから対馬を考えよう！	67
	大分	「まち」の中で使われている「木」について考えよう！	69
	鹿児島	学校周辺の自然と「生き物」と「私たちの生活」のつながり	71
小学校中学年	岩手	わくわくタイムマシーン～温故知新の旅に出発だー！～	14
	山形	わが家のエコライフ大作戦！	17
	千葉	環境とわたしたちのつながり～環境人（エコんちゅ）になろう！～	25
	長野	「子どもと教師が共に在る」	36
	大阪	淀川から繋がる魚庭（なにわ）の海を考える	45
	兵庫	逆瀬川たんけん～逆瀬川のふしぎ発見！～	46
	奈良	奈良の人とシカの共生を考える	47
	和歌山	私たちの切目川	48
	岡山	ふるさと学習プロジェクト「新庄の水」	53
	広島	くらしと環境 自然を守れ！入野っ子！	54
	香川	自分の身近な自然とのつながり	60
	佐賀	佐嘉吉野ヶ里に学ぶ未来の暮らし　～太陽エネルギーのパワーを感じよう～	66
	宮崎	美しい地球を守れ～ごみ減量大作戦～	70
小学校低学年	長野	「子どもと教師が共に在る」	36

解説【5】ひとめでわかる学年別・教科別ガイド

指導要領に沿って、4つの環境分野・13のサブテーマ・４つの発達段階別に整理しました。このマンダラ（ESDの世界観を表した地図）を放射状にたどり、学習内容に沿った分野、サブテーマと教科、学年を選んでください。



環境省「授業に活かす環境教育－ひとめでわかる学年別・教科別ガイドー」より

環境省 平成27年度　ESD環境教育プログラム実証等事業
地域版ESD環境教育プログラムガイドブック
平成28年3月発行

平成27年度 環境省「ESD環境教育プログラム実証等事業」全国事務局
地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）
〒150-0001　東京都渋谷区神宮前5-53-70　国連大学ビル1F
TEL：03-3407-8107 ／ FAX：03-3407-8164
開館時間：10:00 ～ 18:00（土曜日は17:00まで）

リサイクル適正の表示：印刷用の紙にリサイクルできます
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用紙へのリサイクルに適した材料［A ランク］のみを用いて作製しています。

GREEN PRINTING JFPI
P-810172
この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。

VOC FREE T&K